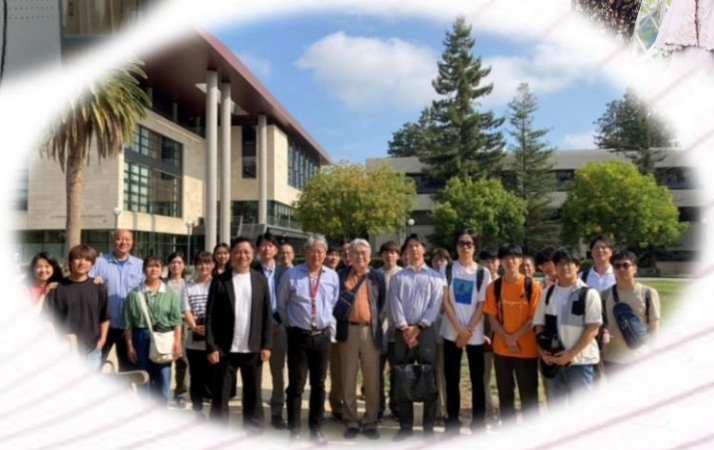
公立大学法人公立小松大学
令和５年度　業務実績報告書



令和６年６月

公立大学法人公立小松大学

目　次

１　公立大学法人公立小松大学の概要

⑴ 基本情報 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1

⑵ 設置する大学の構成 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2

⑶ 設置する大学院の構成・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2

⑷ 組織・運営体制 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3

⑸ 組織図 ・・5

２　評価基準

⑴ 小項目別評価 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 6

⑵ 指標単位評価 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 6

⑶ 大項目別評価 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 7

⑷ 全体評価 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 8

３　令和５年度業務の実施状況

⑴ 全体評価 ・・9

⑵ 大項目別評価 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 10

⑶ 小項目別評価 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 19

⑷ 指標単位評価 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 111

４　用語解説 ・・・ 115

1　公立大学法人公立小松大学の概要

(1) 基本情報

① 法人名　公立大学法人公立小松大学

② 所在地　石川県小松市四丁町ヌ１番地３

③ 設立根拠法令　地方独立行政法人法

④ 設立団体　小松市

⑤ 沿革

平成 30 年４月	公立大学法人公立小松大学設立
	公立小松大学開学（生産システム科学部、保健医療学部、国際文化交流学部）
	小松短期大学設置者変更
	学校法人小松短期大学解散
令和２年３月	小松短期大学閉学
令和４年４月	公立小松大学大学院開設（サステイナブルシステム科学研究科）
令和６年４月	公立小松大学大学院博士後期課程開設

⑥ 法人の目的　地方独立行政法人法に基づき、大学を設置し、管理することにより、南加賀における教育研究の中心として、幅広い知識と深い専門の学術を教授研究し、地域と世界で活躍する人間性豊かな人材の育成を図るとともに、成果の還元に努め、広く社会の発展に寄与することを目的とする。

(2) 設置する大学の構成

大学	学部	学科	入学定員	編入学定員	収容定員	現員（令和５年５月１日現在）		
						男	女	計
公立小松大学	生産システム科学部	生産システム科学科	80 人	－	320 人	307 人	29 人	336 人
	保健医療学部	看護学科	50 人	－	200 人	18 人	188 人	206 人
		臨床工学科	30 人	－	120 人	51 人	76 人	127 人
	国際文化交流学部	国際文化交流学科	80 人	－	320 人	59 人	270 人	329 人
	総計		240 人	－	960 人	435 人	563 人	998 人

(3) 設置する大学院の構成

大学院	研究科	専攻	入学定員	編入学定員	収容定員	現員（令和５年５月１日現在）		
						男	女	計
公立小松大学大学院	サステイナブルシステム科学研究科	生産システム科学専攻	15 人	－	30 人	24 人	2 人	26 人
		ヘルスケアシステム科学専攻	3 人	－	6 人	6 人	1 人	7 人
		グローカル文化学専攻	3 人	－	6 人	2 人	3 人	5 人
	総計		21 人	－	42 人	32 人	6 人	38 人

(4) 令和５年度組織・運営体制

① 役員

役職	氏名	任期	所属先・職
理事長	石田　寛人	令和４年４月１日～令和８年３月 31 日	
副理事長	山本　博	令和４年４月１日～令和６年３月 31 日	公立小松大学長
理事	横川　善正	令和４年４月１日～令和６年３月 31 日	公立小松大学副学長
理事	千葉　正	令和４年４月１日～令和６年３月 31 日	事務局長
理事	西　正次	令和４年４月１日～令和６年３月 31 日	非常勤
理事	鈴木　康夫	令和４年４月１日～令和６年３月 31 日	非常勤
理事	森　久規	令和４年４月１日～令和６年３月 31 日	非常勤
監事	松本　哲哉	令和４年７月６日～令和７年度財務諸表の承認の日	非常勤
監事	能登　宏和	令和４年７月６日～令和７年度財務諸表の承認の日	非常勤

② 審議機関

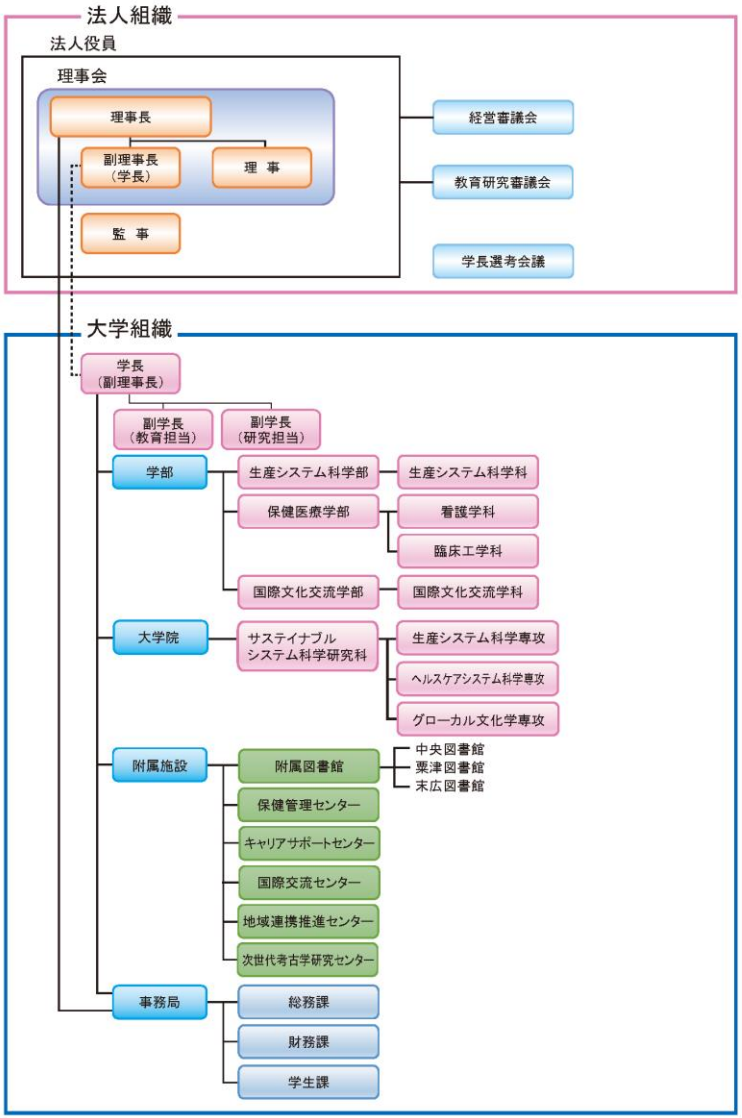
【経営審議会】

役職	氏名	任期	所属先・職
委員（議長）	石田　寛人	令和４年４月１日～令和８年３月 31 日	公立大学法人公立小松大学理事長
委員	山本　博	令和４年４月１日～令和６年３月 31 日	公立大学法人公立小松大学副理事長（公立小松大学長）
委員	横川　善正	令和４年４月１日～令和６年３月 31 日	公立大学法人公立小松大学理事（公立小松大学副学長）
委員	千葉　正	令和４年４月１日～令和６年３月 31 日	公立大学法人公立小松大学理事（事務局長）
委員	西　正次	令和４年４月１日～令和６年３月 31 日	公立大学法人公立小松大学理事
委員	鈴木　康夫	令和４年４月１日～令和６年３月 31 日	公立大学法人公立小松大学理事
委員	山崎　光悦	令和４年４月１日～令和６年３月 31 日	国立大学法人金沢大学前学長・福島国際研究教育機構理事長
委員	越田　幸宏	令和４年４月１日～令和６年３月 31 日	小松市副市長
委員	保川　高司	令和４年４月１日～令和６年３月 31 日	株式会社小松製作所 粟津工場 工場長
委員	東野　義信	令和４年４月１日～令和６年３月 31 日	医療法人社団東野会 東野病院 院長

【教育研究審議会】

役職	氏名	任期	所属先・職
委員（議長）	山本　博	令和４年４月１日～令和６年３月 31 日	公立小松大学長、保健医療学部長代行
委員	横川　善正	令和４年４月１日～令和６年３月 31 日	公立小松大学副学長
委員	木村　繁男	令和４年４月１日～令和６年３月 31 日	公立小松大学副学長、サステイナブルシステム科学研究科長
委員	岩田　佳雄	令和４年４月１日～令和６年３月 31 日	公立小松大学生産システム科学部長、生産システム科学専攻長
委員	岡村　徹	令和４年４月１日～令和６年３月 31 日	公立小松大学国際文化交流学部長、グローカル文化学専攻長
委員	酒井　忍	令和４年４月１日～令和６年３月 31 日	公立小松大学生産システム科学科長
委員	徳田　真由美	令和４年４月１日～令和６年３月 31 日	公立小松大学看護学科長
委員	平山　順	令和４年４月１日～令和６年３月 31 日	公立小松大学臨床工学科長、ヘルスケアシステム科学専攻長代行
委員	杓谷　茂樹	令和４年４月１日～令和６年３月 31 日	公立小松大学国際文化交流学科長
委員	西村　聡	令和４年４月１日～令和６年３月 31 日	公立小松大学図書館長

(5) 令和５年度組織図


法人組織
法人役員
理事会
理事長
副理事長
（学長）
理　事
監　事
経営審議会
教育研究審議会
学長選考会議
大学組織
学長
（副理事長）
副学長
（教育担当）
副学長
（研究担当）
学部
生産システム科学部
生産システム科学科
保健医療学部
看護学科
臨床工学科
国際文化交流学部
国際文化交流学科
大学院
サステイナブル
システム科学研究科
生産システム科学専攻
ヘルスケアシステム科学専攻
グローカル文化学専攻
附属施設
附属図書館
中央図書館
粟津図書館
末広図書館
保健管理センター
キャリアサポートセンター
国際交流センター
地域連携推進センター
次世代考古学研究センター
事務局
総務課
財務課
学生課

２　評価基準

法人が行う業務実績報告書における自己評価は、以下の基準により実施する。

(1) 小項目別評価

年度計画の記載項目（小項目）ごとの進捗状況の自己評価を行い、業務実績報告書において次の５段階により進捗状況を示すとともに、自己評価の判断理由（実施状況）を記載する。

評価	評価基準	評価の条件
5	年度計画を大幅に上回る	・特に優れる若しくは顕著な成果がある
4	年度計画を達成	・上回る若しくは十分な実施状況
3	年度計画を概ね実施	・実施している
2	年度計画を十分に実施せず	・下回る若しくは実施が不十分
1	年度計画を大幅に下回る	・特に劣る若しくは実施していない

(2) 指標単位評価

年度計画の記載項目（指標単位）ごとの達成状況の自己評価を行い、業務実績報告書において次の５段階により進捗状況を示すとともに、自己評価の判断理由（実績値）を記載する。

評価	評価基準	評価の条件
s	年度計画を大幅に上回る	・達成率 100%以上かつ顕著な成果がある
a	年度計画を達成	・達成率 100%以上
b	年度計画を概ね実施	・達成率 80%以上 100%未満
c	年度計画を十分に実施せず	・達成率 60%以上 80%未満
d	年度計画を大幅に下回る	・達成率 60%未満

(3) 大項目別評価

年度計画の小項目別評価及び指標単位評価を踏まえ、中期計画の次の事項（以下「大項目」という。）ごとに、当該事業年度における中期計画の進捗状況について、次の５段階により自己評価する。

Ⅱ　教育研究等の質の向上に関する目標を達成するための措置		
	1	教育に関する目標を達成するための措置
	2	研究に関する目標を達成するための措置
	3	国際交流に関する目標を達成するための措置
Ⅲ　地域貢献に関する目標を達成するための措置		
Ⅳ　業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するための措置		
Ⅴ　財務内容の改善に関する目標を達成するための措置		
Ⅵ　自己点検・評価及び情報の提供に関する目標を達成するための措置		
Ⅶ　その他業務運営に関する目標を達成するための措置		
Ⅻ　余剰金の使途		
ⅩⅢ　その他設立団体の規則で定める業務運営に関する事項		

※次の大項目は省略とする。
Ⅷ　予算、収支計画及び資金計画・・・・・・・・・・財務諸表及び決算報告書で別途報告を行うため。
Ⅸ　短期借入金の限度額・・・・・・・・・・・・・・借入の実績がないため。
Ⅹ　出資等に係る不要財産の処分に関する計画・・・・中期計画上「なし」とされているため。
Ⅺ　重要な財産を譲渡し、又は担保に供する計画・・・中期計画上「なし」とされているため。

評価	評価の目安
中期目標・中期計画の達成に向けて特筆すべき進行状況にある	・小項目別評価の平均値が 4.3 以上、かつ、指標単位評価の各項目が数値指標を上回り、さらに業務の進捗状況や特記事項の内容に特筆すべき進捗や取組がある場合

中期目標・中期計画の達成に向けて順調に進んでいる	・小項目別評価の平均値が 3.5 以上 4.2 以下、かつ、指標単位評価の各項目が数値指標を上回り、「A」相当と認める場合 ・小項目別評価の平均値が 3.5 以上 4.2 以下に満たないが、指標単位評価の評定及び主たる業務の進捗状況や特記事項の内容を総合的に勘案して「A」相当と認める場合
中期目標・中期計画の達成に向けて概ね順調に進んでいる	・小項目別評価の平均値が 2.7 以上 3.4 以下、かつ、指標単位評価の各項目が数値指標を概ね上回り、「B」相当と認める場合 ・小項目別評価の平均値が 2.7 以上 3.4 以下に満たないが、指標単位評価の評定及び主たる業務の進捗状況や特記事項の内容を総合的に勘案して「B」相当と認める場合
中期目標・中期計画の達成のためには改善を要する	・小項目別評価の平均値が 1.9 以上 2.6 以下、または、指標単位評価の項目において数値指標を下回り、「C」相当と認める場合 ・小項目別評価の平均値が 1.9 以上 2.6 以下に満たないが、指標単位評価の評定及び主たる業務の進捗状況や特記事項の内容を総合的に勘案して「C」相当と認める場合
中期目標・中期計画の達成のためには抜本的な改善が必要である	・小項目別評価の平均値が 1.8 以下、または、指標単位評価の各項目において数値指標を大幅に下回り、中期計画の達成のためには重大な改善事項があると認める場合

(4) 全体評価

大項目別評価の結果を踏まえ、当該事業年度における業務実績の全体について総合的に勘案し、次の５段階により自己評価する。

評価
中期目標・中期計画の達成に向けて特筆すべき進行状況にある
中期目標・中期計画の達成に向けて順調に進んでいる
中期目標・中期計画の達成に向けて概ね順調に進んでいる
中期目標・中期計画の達成のためには改善を要する
中期目標・中期計画の達成のためには抜本的な改善が必要である

３　令和５年度業務の実施状況

令和５年度　大学・大学院学位記授与式

(1) 全体評価　　大項目別評価の結果を踏まえ、以下のように判断する。

【自己評価】中期目標・中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

トピックス

令和５年度においては、（一財）大学教育質保証・評価センターが実施する大学初となる認証評価を受審し、その結果、センターが定める「大学評価基準を満たしている」との評価を受けた。それを契機として、教育改革を推進する体制及び方針を定めるとともに、自己点検評価・内部質保証推進会議を中心に、全学、組織、教員の３つの階層でＰＤＣＡサイクルを機能させ、内部質保証に基づく教育改革を推進した。

第２期中期目標・計画策定にあたり、法人評価・認証評価など多様なステークホルダーから聴取した意見及び要望を取り入れた。

【学士課程】地域企業等と連携した実習や国内外インターンシップ、海外語学研修を取り入れ、地域と世界で活躍するグローカル人材の育成を図った。JICA 青年研修事業に保健医療学部が採択され、約１か月間カンボジアの医療従事者らと学術交流を図った。

【大学院課程】９月４日に文部科学大臣から大学院サステイナブルシステム科学研究科の博士後期課程の設置認可を受け、入学者選抜や施設整備、広報活動等開設準備を進めた。令和６年度大学院博士後期課程入学者は、定員を上回る人数を確保した。

【入学者選抜】北陸三県・東海・信越地方など延べ 94 校に対して、大学説明会や高校訪問等を実施したほか、オープンキャンパスの開催や大学 Web サイトを通じ入試広報を展開した。大学院志願者倍率は、1.43 倍、学部志願者倍率は 4.66 倍となった。国家試験の合格率は、看護師、保健師ともに 100%、臨床工学技士は 89.6%となり、いずれも全国平均を上回った。

【就職支援】「業界研究会」を２月に２日間の日程で対面開催し、県内外の優良企業・団体 58 社との情報交換を行った。各学科・専攻とキャリアサポートセンターが連携し、学生のキャリア形成及び就職活動支援を行い、就職内定率は３年連続で 100%を達成した。

【地域連携】企業等との共同・受託研究の推進をはじめ、フォーラムやシンポジウム、研究関連イベントへの出展等を通じて産官学連携を推進した。シリコンバレー研修は小松市役所の参加と助成を得て「産官学合同シリコンバレー研修」へ規模を拡大して実施した。

【研究支援】重点研究「つよみ」や研究発展・向上費の助成、分野横断型の学内研究会「Salon de K」の毎月開催等を通じて研究力向上を図った。また、新たな組織として次世代考古学研究センターを創設し、マヤ文明世界遺産研究と小松の石文化に関する研究成果を広く公表した。

【国際交流】グアテマラ共和国のデル・バジェ大学と大学間交流協定を締結し、国際機関等との協定締結は 19 件となった。その他、交換留学の支援、中島記念国際交流財団の助成金を活用した異文化交流事業の実施、外務省主催カケハシ・プロジェクトへの参加等を通じて国際理解を深めた。国際交流センター公認サークル KOMAFriend を新設し、学生メンバー50 名が留学生や交流事業を支援した。

(2) 大項目別評価

Ⅱ　教育研究等の質の向上に関する目標を達成するための措置 1　教育に関する目標を達成するための措置

小項目別評価平均値	指標単位評価（再掲含む）				
	s	a	b	c	d
3.9	2 (14%)	7 (50%)	3 (22%)	2 (14%)	0 (0%)

【自己評価】中期目標・中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

［教育について］

令和６年４大学院博士後期課程開設

○　**学修成果の可視化**に向けて、授業評価アンケートに加えて、高校までの学びや大学での成長を多角的に評価・可視化することを目的とした外部 Web アセスメントテストの導入、新入生アンケート及び卒業生アンケートを実施し、エビデンスに基づく改革・改善に役立てた。

○　授業評価アンケートを前期・後期の半期ごとに全授業において実施し、結果を教員にフィードバックすることで授業改善につなげた。集計結果は学生ポータルサイト及び大学 Web サイトにて公開した。**学生の授業満足度**は前期・後期平均 4.25（目標値 3.3）となった。

○　教員自らが自身の教育研究活動に関する自己点検・評価を実質的に行うため、**教員用自己点検・評価シート**により、前期・後期の半期ごとに自己点検・評価を実施した。所属する各部局において、特性に応じた質向上の取り組みを進めた。教職員の教育研究の資質向上を目指し、年間を通じて教職員ＦＤ・ＳＤ研修会を実施した。

○　少人数制の指導やアクティブラーニングを取り入れるとともに、地域企業等と連携し、生産システム科学部では「課題探求プロジェクト」や「学外技術体験実習」、保健医療学部では「臨地実習」、「臨床実習」、国際文化交流学部では「地域実習」、「インターンシップ」、「異文化体験実習」の実践を通じて、**課題解決能力や実践能力の養成**を図った。

○　**JICA青年研修事業**に保健医療学部が採択され、約１カ月間カンボジアの医療従事者らと学術交流を図った。

○　「キャリアデザイン・チーム論」や「南加賀の歴史と文化」において外部講師を招聘し、地域の歴史や文化、産業の理解を深めた。

○　**国家試験の合格率**は、看護師、保健師ともに 100%（全国平均 87.8%、95.7%）。臨床工学技士は、国家試験対策の開始が遅れたこと等が起因し 89.6%（全国平均 79.5%）となった。看護学科では国家試験サポート委員及び担任教員が中心となり、在学生及び卒業生へ模擬試験及び補講の実施、勉強方法の相談・支援等を行った。臨床工学科においても担当教員を中心に国家試験対策講座を開講した。

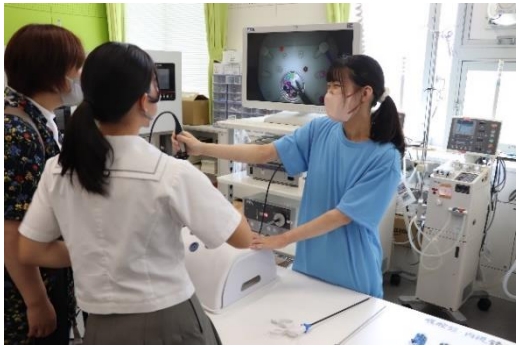
○　**大学院サステイナブルシステム科学研究科の博士後期課程**が９月４日に文部科学大臣から設置の認可を受け、教育研究環境整備、関連諸規則整備、入学者選抜試験、広報を適切に実施した。

［学生募集について］

○　北陸三県・東海・信越地方など延べ 94 校に対して大学説明会や高校訪問等を実施したほか、入学者選抜要項、大学案内等の送付、大学 Web サイト等を通じた広報活動を展開した。当該年度入学志願者の学部志願者倍率は 4.66 倍、大学院志願者倍率は、1.43 倍となった。

○　３キャンパスを会場に**オープンキャンパス 2023 を** 7 月 15 日に実施し、高校生 396 名が参加した。

○　大学院博士後期課程の開設に伴い、広報活動や入学者選抜を行い、令和６年度博士後期課程入学者は定員を上回る９名を確保することができた。



オープンキャンパス 2023
（臨床工学科での腹腔鏡操作体験）

［学生支援について］

○　新型コロナウイルス感染症の第５類への引き下げにより、学生の課外活動が平常化となり、ボランティアサークル、地域活性化サークルなど**大学公認の 33 団体**に対し、活動助成を行った。

○　各学科・専攻とキャリアサポートセンターが連携し、学生のキャリア形成と就職活動支援を実施した。就職や進学を志望する学生の進路相談をはじめ、保健管理センターと連携して障害等をもつ学生や卒業生に対する支援を行った。**就職内定率は3年連続で 100%**を達成した。

○　キャリアサポートセンターでは、各種セミナーやガイダンス、面接練習会、企業見学、業界別内定者交流会など、学年進行に応じた各種企画を実施した。「業界研究会」を２月に２日間の日程で対面実施し、採用実績がある県内外の優良企業・団体 58 社との情報交換の場を設けた。

学生の課外活動
（ボートサークル 小松市民レガッタ優勝）

○　教科の履修、健康、就職、生活面の問題など学生個々の指導を行う相談教員・指導教員等を各学科に配置した。学生との定期的な面談等により、学修面・生活面の把握とサポートを行った。

○　経済支援については、日本学生支援機構奨学金の授業料免除や奨学金制度の情報周知及び個別相談を行った。物価高に対する**本学独自の経済支援**として、日本学生支援機構の給付型奨学金支給対象者 108 名に支給区分に応じて１万円～2万円の支援金を支給した。

○　保健管理センターにおいて、学生の定期健康診断、インフルエンザ予防接種、保健医療学部１年生を対象としたＢ型肝炎集団予防接種、新型コロナウイルス感染症者の把握と対応（学生数延べ 103 名、教職員数延べ 19 名）、臨床心理士による学生相談等を実施した。

○　附属図書館における「石川県図書館情報ネットワーク」を通じた公共図書館との相互貸借では、対象エリアを石川県内から東海北陸地区に拡大し、利用者の利便性の向上および学修・研究支援の充実を図った。

Ⅱ　教育研究等の質の向上に関する目標を達成するための措置
２　研究に関する目標を達成するための措置

小項目別評価平均値	指標単位評価（再掲含む）				
	s	a	b	c	d
4.0	1 （14%）	6 （86%）	0 （0%）	0 （0%）	0 （0%）

【自己評価】中期目標・中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

○　分野横断型の優れた研究活動の全学的支援を目的に、助成事業**「公立小松大学重点研究『つよみ』」**を実施し１件の独創的研究へ助成を行った。分野横断的の研究を推進することを目的に、学内交流会「Salon de K」を毎月１回開催した。11 月実施時において、「公立小松大学重点研究『みらい』」の研究成果報告会を行った。

○　助成事業「研究発展・向上費」において、各学科の特色ある個別研究に対し助成を行った。

○　研究シーズ集・研究者要覧及び広報誌「Tachyon Academia」を作成し、各種研究イベントや協力企業等に発信した。

○　**次世代考古学研究センターを創設**し、必要な人員を配置するとともに、マヤ文明世界遺産研究と小松の石文化に関する研究成果を広く公表した。

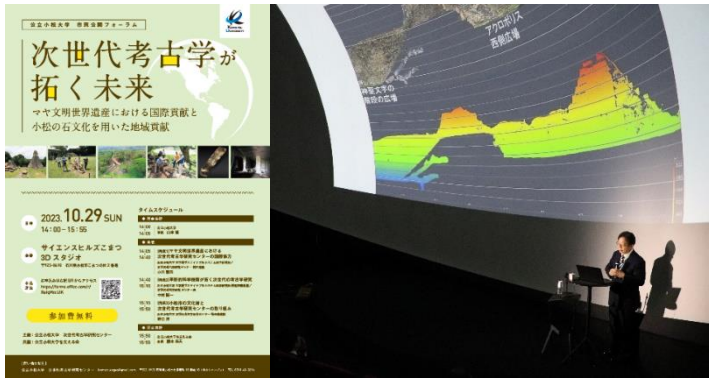
○　**市民公開フォーラム**「次世代考古学が拓く未来 ～マヤ文明世界遺産における国際貢献と小松の石文化を用いた地域貢献～」を開催し、次世代考古学研究センター専任教員らによる講演等を行った。

○　企業等からの委託により、本学研究者が専門的知識に基づき学術上の課題解決等について助言等を行う「技術コンサルティング制度」を創設した。

○　特定化学物質及び有機溶剤等の年間使用量が多い実習室及び研究室の作業環境測定を年２回実施するとともに、作業場の巡視を年間計画にもとづき実施し、安全管理・事故防止に努めた。

○　**科学研究費補助金**の採択件数及び金額の向上のため、申請時の留意点を中心とした外部主催研修会への教職員の参加を促すとともに、新規採用教員を対象に、日本学術振興会研究倫理ｅラーニングを実施した。また、科学研究における不正行為の防止と利益相反への適切な対処について、教職員ＦＤ・ＳＤ研修会を実施した

○　**専任教員の年間研究実績**は、学会報告：213 件（目標値 100 件）、学術論文：109 編（目標値 70 編）、外国語論文：79 編（目標値 30 編）、著書 17 編（目標値 5 編）となった。共同研究・受託研究数は 17 件と目標値 10 件を上回った。



2023 市民公開フォーラム「次世代考古学が拓く未来」

Ⅱ　教育研究等の質の向上に関する目標を達成するための措置
３　国際交流に関する目標を達成するための措置

小項目別評価平均値	指標単位評価（再掲含む）				
	s	a	b	c	d
4.4	2（40%）	2（40%）	1（20%）	0（0%）	0（0%）

【自己評価】中期目標・中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

○　グアテマラ共和国の**デル・バジェ大学**と大学間交流協定を新たに締結し、国際機関等との協定締結数は累計 19 件（大学間:11 件、部局間:５件、その他:３件）となった。

○　**長期留学実績**として、海外協定校へ学生 10 名を派遣し、留学生７名の受け入れを行った。

○　**短期留学実績**として、海外協定校の米国オースティン・ピー州立大学や台湾の建国科技大学等における海外語学研修や韓国の湖西大学校における異文化体験実習、海外インターンシップとしてアンコール遺跡整備公団インターンシップ等計７件実施した。学生 30 名（オンライン３名）を派遣し、留学生５名の受け入れを行った。また、大学院留学生６名の受け入れを行った。

○　**日本学生支援機構海外留学支援制度**の追加採択を受け、長期交換留学を行っている学生６名に対し、合計 254 万円の奨学金給付を行った。また、大学独自の留学支援（長期・短期）として、学生 43 名に 189 万６千円の奨学金給付を行った。

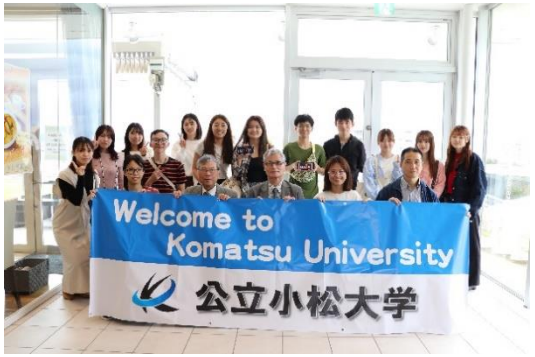
○　**中島記念国際交流財団留学生地域交流事業**の採択を受け、助成金を活用し、マレーシアのトゥンクアブドゥルラーマン大学留学生を対象に、南加賀の歴史と文化を学ぶツアーを実施した。

○　**外務省主催の対日理解促進プログラム「カケハシ・プロジェクト」**に採択され、臨床工学科及び国際文化交流学科の学生６名がカナダを訪問し、外務省及び日本大使館等へ表敬訪問を行うとともに、ウォータールー大学にて日本文化を発信するプレゼンテーションを実施した。

○　**JICA青年研修事業**の採択を受け、保健医療学部とカンボジアの医療従事者らとの地域保健医療プログラムを約１か月間の日程で実施し学術交流を深めた。

○　小松市国際交流協会との共催で英会話カフェを 14 回開催するとともに、中国語圏留学生が講師となり中国語カフェを４回開催し、地域の異文化交流を深めた。

○　留学生向け文化体験事業として、生け花教室や南加賀地域の観光地や能登半島をめぐるツアー等を実施した。国際交流センター公認サークル KOMAFriend を新設し、学生メンバー50 名が留学生や交流事業を支援した。



トゥンクアブドゥルラーマン大学スタディツアー受入

JICA 青年研修「地域保健医療」プログラム

Ⅲ　地域貢献に関する目標を達成するための措置

小項目別評価平均値	指標単位評価（再掲含む）				
	s	a	b	c	d
3.9	1 （12%）	5 （63%）	0 （0%）	2 （25%）	0 （0%）

【自己評価】中期目標・中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

○　米国カリフォルニア州のシリコンバレー本学オフィスを拠点に、学生と企業人を派遣しこれまで実施してきたシリコンバレー研修は、小松市の参加と助成を得て**「産官学合同シリコンバレー研修」**へ規模を拡大して実施した。学生 12 名、企業人４名、小松市職員１名が参加し、現地の最新動向に触れつつ地域課題の解決等に意欲的に取り組んだ。小松市長、本学学長が本研修に同行し、情報交換やフィールドワークを通して産官学の連携推進を図った。

産官学合同シリコンバレー研修（Apple 本社前）

○　産学共同で進める新たな人材戦略をテーマに**「シーズ・ニーズマッチングシンポジウム 2023」**を開催した。特別講演会や企業紹介、交流会等を通して、協力企業等 32 社と学生 125 名、教職員らが情報交換を行った。

○　地域行事では、小松市どんどんまつりあんどん行列が５年ぶりに開催され、学生及び留学生 18 名が参加し地域との交流を図った。

○　**第6回大学祭「青松祭」**では、学生実行委員会が中心となって企画・運営を行い、模擬店の出展やお茶会や縁日などの出し物、学科紹介・進学相談など多様な企画が行われた。小松駅前市民公園特設ステージでは大学サークルによるステージ発表会が行われた。

どんどんまつりあんどん行列参加者

○　本学キャンパスを**こまつ市民大学**の会場として提供するとともに、開講講座の多くを本学教員が担当し、市民の学び足し学び直しへの貢献を図った。

○　地域連携推進センターを中心に、MEX 金沢 2023、e-messe kanazawa 2023、北陸技術交流テクノフェア、T-Messe2023、Matching HUB Hokuriku 2023 などの**産官学連携イベントに出展**し、大学の研究活動や地域連携事業の発表を行った。

○　サイエンスヒルズこまつが夏休みに開催する小・中学生向けのイベントにおいて、本学教員が講師を務め、学びや発見の楽しさを伝えた。同会場の常設展示ブースでは大学院の紹介及び教員の最新の研究を発信した。

Ⅳ　業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するための措置

小項目別評価平均値	指標単位評価（再掲含む）				
	s	a	b	c	d
3.9	0 (0%)	2 (100%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)

【自己評価】中期目標・中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

○　理事長及び学長両名のトップマネジメントのもと、理事会や各種審議会、教授会等を運営し、適切な法人運営に取り組んだ。

○　自己点検評価・内部質保証推進会議及び評価室ヒアリングを実施し、各組織の業務の進捗管理及び改革・改善を図った

○　**第2期中期目標・計画策定**にあたり、法人評価・認証評価など本学の多様なステークホルダーから聴取した意見及び要望を取り入れた。

○　大学院サステイナブルシステム科学研究科博士後期課程の設置認可を受け、末広キャンパス研究実験棟の教育研究環境の整備、関係諸規則、入学者選抜試験、広報などを適切に実施した。

○　教職員の教育研究の資質向上を目指し、**教職員FD・SD研修**を年３回実施した。各部局からの要望を取り入れテーマを設定したほか、公立大学協会や大学コンソーシアム石川など外部が主催する研修会への教職員の参加を促進した。

○　各キャンパスにおいて、空調や照明の集中管理や電力デマンド監視装置による電力の低減及び超過防止によるコスト削減を実施した。また消防設備、空調機点検、エレベータ保守点検業務について長期継続契約に切り替えることで、事務の効率化を図った。

○　財務会計システムに給与明細閲覧機能を追加し、作業時間の削減及びペーパーレスによるコスト削減につなげた。

Ⅴ　財務内容の改善に関する目標を達成するための措置

小項目別評価平均値	指標単位評価（再掲含む）				
	s	a	b	c	d
3.6	1 (34%)	2 (66%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)

【自己評価】中期目標・中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

○　「公立小松大学基金への寄附のご案内」冊子の送付や、大学 Web サイトの活用事例の紹介により、企業、団体、個人等からの寄附金の受け入れを促進するとともに、教育研究の充実に役立てた。**寄附金の実績**は計 27 件、9,461 千円となった。

○　**科学研究費及びその他外部資金獲得の実績**は、科学研究費採択数 53 件（目標値 15 件）、その他外部資金獲得数 34 件（目標値５件）となり、目標値を上回った。

○　インフラ長寿命化計画に基づき、次年度以降の粟津・末広キャンパス大規模修繕工事に向けて概算額を見積もり、準備を進めた。

○　資産の適切な管理、運用に向けて、インターネットバンキングによる預金残高を把握し、公立大学会計規則に基づく資金の運用を図った。

Ⅵ　自己点検・評価及び情報の提供に関する目標を達成するための措置

小項目別評価平均値	指標単位評価（再掲含む）				
	s	a	b	c	d
4.0	－ (－)	－ (－)	－ (－)	－ (－)	－ (－)

【自己評価】中期目標・中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

○　（一財）大学教育質保証・評価センターが実施する、大学初となる大学機関別認証評価を受審し、その結果、センターが定める「大学評価基準を満たしている」との評価を受けた。それを契機として、**内部質保証に係る体制及び方針**を定めるとともに、自己点検評価・内部質保証推進会議を中心に、全学、組織、教員の３つの階層でＰＤＣＡサイクルを機能させ、組織的に教育の質向上に取り組んだ。

○　**大学機関別認証評価で**は、書面審査やアンケート調査、オンラインによる実地審査等に対応するとともに、指摘事項があった、学部及び大学院のアドミッションポリシー・カリキュラムポリシーの見直し他について対応し、受審結果は大学 Web サイトを通じて社会に公表した。

○　自己点検評価・内部質保証推進会議を年３回開催し、大学全体の業務実績・進捗状況の確認や認証評価への対応を行うとともに、各部局への改善指示を行った。また、評価室ヒアリングを年２回開催し、各部局の年間の業務の方針、予定、進捗管理を行った。ヒアリングを経て、自己点検及び評価を取りまとめた業務実績報告書を作成し、**法人評価委員会の評価**を受審した。

○　「広報室」を中心に、広報誌「Tachyon」、大学案内の発行、大学 Web サイトの運用、ラジオ番組「世界に向かって飛び立て！公立小松大学」など様々な媒体での広報活動を展開した。広報室学生委員がサークル取材や大学祭の取材を行い、その内容を広報誌「Tachyon」や大学 Web サイト、公式インスタグラムで発信するなど、学生目線での情報公開を強化した。

「大学案内 2025」、「Tachyon vol.11」9 月発行、「Tachyon vol.12」3 月発行

Ⅶ　その他業務運営に関する目標を達成するための措置

小項目別評価平均値	指標単位評価（再掲含む）				
	s	a	b	c	d
3.6	－ (－)	－ (－)	－ (－)	－ (－)	－ (－)

【自己評価】中期目標・中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

○　定期健康診断やストレスチェックなど職員の心身の健康の維持・増進に取り組んだ。また、安全衛生委員会において、定期的な職場巡視などを行い、５Ｓ（整理、整頓、清潔、清掃、習慣）活動の浸透を図った。

○　各キャンパスにおいて防災マニュアルに基づきキャンパスや学生寮での防災訓練を年２回実施した。

○　学生や教職員の海外渡航、留学時における学生管理の在り方を全学的視野から検討し、マニュアル及び緊急連絡網を整備した。健康講座や危機管理セミナーのほか、実践型の**海外渡航危機管理訓練**を初めて実施し、事故発生時の初期対応や被害者家族への電話連絡、記者会見等を行い、危機管理体制を強化した。

○　緊急通報・安否確認システム「Safetylink24」について、新入生及び新規採用教職員に対して説明を行い、アプリの登録率及び回答率の向上を図った。年２回配信訓練を実施し、回答率は第１回70.9%、第２回69.2%であった。１月１日に発生した令和６年能登半島地震では本アプリを用いて学生・教職員の安否確認を行った。

○　令和４年度の決算・業務について監事監査を実施するとともに、令和４年度の業務・会計処理についてキャリアサポートセンター及び総務課に対し内部監査を実施した。公的研究費通常監査では公的研究費の交付金額が多い各学科の教員１名を選出し実施した。また、公的研究費より旅費の執行があった全教員を対象に、リスクアプローチ監査を実施し、いずれも適正に実施していると認められた。

海外渡航危機管理訓練

Ⅻ　余剰金の使途

小項目別評価平均値	指標単位評価（再掲含む）				
	s	a	b	c	d
3.0	－ (－)	－ (－)	－ (－)	－ (－)	－ (－)

【自己評価】中期目標・中期計画の達成に向けて概ね順調に進んでいる

○　令和４年度決算において計上した当期総利益の 88,929,193 円を教育研究の質の向上並びに組織運営及び施設設備の改善のため積み立てた。

XⅢ　その他設立団体の規則で定める業務運営に関する事項

小項目別評価平均値	指標単位評価（再掲含む）				
	s	a	b	c	d
4.0	－ (－)	－ (－)	－ (－)	－ (－)	－ (－)

【自己評価】中期目標・中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

○　**末広キャンパス研究実験棟を新設**し、保健医療学部及び大学院ヘルスケアシステム科学専攻の学生及び教員の研究環境の向上を図った

○　次世代考古学研究センターの開設に伴い、専任教員を配置するとともに、こまつビジネス創造プラザ全館を小松市から借用し、研究室を整備した。

○　決算において剰余金が発生した場合は、教育研究の質の向上並びに組織運営及び施設設備の改善に充てる。令和５年度は目的積立金の取崩しは無かった。

末広キャンパス研究実験棟（2023 年新設）

(3) 小項目別評価

① 自己評価結果一覧

大項目	事業項目数	5 年度計画を大幅に上回る	4 年度計画を上回る	3 年度計画を概ね実施	2 年度計画を十分に実施せず	1 年度計画を大幅に下回る	評定平均値
Ⅱ 教育研究等の質の向上に関する目標を達成するための措置 1 教育に関する目標を達成するための措置	47	3 (6.4%)	35 (74.5%)	9 (19.1%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	3.9
Ⅱ 教育研究等の質の向上に関する目標を達成するための措置 2 研究に関する目標を達成するための措置	10	0 (0.0%)	10 (100.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	4.0
Ⅱ 教育研究等の質の向上に関する目標を達成するための措置 3 国際交流に関する目標を達成するための措置	5	2 (40.0%)	3 (60.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	4.4
Ⅲ 地域貢献に関する目標を達成するための措置	12	1 (8.3%)	9 (75.0%)	2 (16.7%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	3.9
Ⅳ 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するための措置	14	2 (14.3%)	9 (64.3%)	3 (21.4%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	3.9
Ⅴ 財務内容の改善に関する目標を達成するための措置	11	0 (0.0%)	7 (63.6%)	4 (36.4%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	3.6
Ⅵ 自己点検・評価及び情報の提供に関する目標を達成するための措置	7	1 (14.3%)	5 (71.4%)	1 (14.3%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	4.0
Ⅶ その他業務運営に関する目標を達成するための措置	20	0 (0.0%)	11 (55.0%)	9 (45.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	3.6
ⅩⅡ 余剰金の使途	1	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (100.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	3.0
ⅩⅢ その他設立団体の規則で定める業務運営に関する事項	1	0 (0.0%)	1 (100.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	4.0
合計	128	9 (7.0%)	90 (70.3%)	29 (22.7%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	3.8

② 小項目別業務実績・自己評価結果（詳細）

Ⅱ　教育研究等の質の向上に関する目標

1　教育に関する目標

(1) 学士課程教育

中期目標	学生の学習意欲を高め、基礎的な学力と豊かな人間性を涵養するために、導入科目、一般科目及び外国語科目を開講する。また、専門領域を超えた分野横断的な教育を行い、学生の交流と幅広い視野・思考力・総合力の育成に努める。大学が立地する小松市はもとより日本、世界の歴史や文化の理解を高める。

中期計画	番号	年度計画	所管部署	業務の実績	自己評価
1　教育に関する目標を達成するための措置　－　(1) 学士課程教育					
①共通教育 ・学生の学習意欲を高め、基礎的な学力と豊かな人間性を涵養するために、導入科目、一般科目及び外国語科目を開講する。 ・学生の交流と幅広い視野・思考力・総合力を育成するため、専門領域を超えた分野横断的な教育と、大学が立地する小松市はもとより日本、世界の歴史や文化の理解を高める教育を行う。	Ⅱ-1-1	大学設置認可申請書に記載した教育課程を体系的、組織的に実行するとともに、自己点検評価・内部質保証推進会議の指示のもと、教育改革に関する企画立案を行うほか、IRの推進について検討する	教育企画委員会	内部質保証に向けた取り組みとして、外部アセスメントテストや新入生アンケートを新たに実施したほか、全学生を対象とした授業評価アンケートや昨年度より開始した卒業生を対象とした卒業生アンケートなどを継続して実施した。また、教育の質の向上のため、教員が自らの講義についての自己点検・評価を行う教員用自己点検・評価シートの作成を昨年度に引き続き実施した。 アンケート等の結果は教育企画委員会で分析を行い、自己点検評価・内部質保証推進会議に報告・共有している。 これまでの良い取り組みは継続するとともに、自己点検評価・内部質保証推進会議の指示のもと新たな取り組みを企画立案し、教育の質保証に努める。 ●内部質保証に向けた取り組み ・外部アセスメントテスト及び新入生アンケートの実施 4月3日～28日　外部アセスメントテスト、新入生アンケートの実施 対象者　令和5年度入学生244名　※令和5年度新入生より新たに実施 回答率　98%　(回答者239名) ・卒業生アンケートの実施 3月23日　学位記授与式に併せて卒業生アンケートを実施 対象者　令和5年度卒業生230名 回答率　77%　(回答者178名) ・教員の自己点検・評価シート・授業評価アンケートの実施 9月、3月　教員用自己点検・評価シートの作成依頼 昨年度後期より教員向けの自己点検・評価シート様式を作成し、各講義の自己点検・評価を実施 7～8月、1～2月　授業評価アンケートの実施 今年度より授業評価アンケートの結果を履修学生に公開	4

中期計画	番号	年度計画	所管部署	業務の実績	自己評価
	Ⅱ-1-2	アクティブ・ラーニングや少人数教育、複数の教員集団によるきめ細かい指導等の取組を推進し、授業内容に応じた学生の学習意欲の向上を図る。	各学部	共通教育科目の導入科目の内、「アカデミック・スキルズ」、「基礎ゼミ」は、いずれも、少人数グループに分かれての討議や演習、発表などのアクティブ・ラーニングを取り入れて実施した。また、2年次の専門基礎科目や3年次の専門共通科目でも少人数制の指導やグループディスカッションなどを取り入れ、学生の主体的な学びにつなげている。 【生産システム科学科】 「基礎ゼミ」において、基礎知識として必要な工業力学、数学、情報、プログラミングについて演習を実施し、相談教員ごとに3～4名のグループに別れて各自の解答を討議しながら相談教員が習熟度を点検・確認し、理解度に応じた指導を行った。 【看護学科】 グループワーク等を取り入れながら双方向のコミュニケーションを大切にし、専門領域を超えて幅広い視野で学べるよう、授業内容・方法の共有・検討を行った。また、能登半島地震の後、授業を開始する際には、被災した学生にはオンラインやオンデマンドによる実習や授業を受けることができる体制を速やかに整えた。 【臨床工学科】 COVID-19の感染状況や制限の緩和により、対面による講義と実習が可能となった。きめ細かな指導を行き届かせるためにも、対面での講義・実習を継続していく。また、COVID-19下で活用してきたオンライン講義や講義資料の電子化については、自然災害時や必要に応じて柔軟に活用を継続していく。 【国際文化交流学科】 「基礎ゼミ」では、グループ・リサーチを課し、テーマ設定からリサーチの進め方、プレゼンテーションやレポート作成による結果報告の方法まで、大学での学びの基礎を体系的・実践的に身につけられるように指導を行っている。 また、3年次学部共通科目「地域実習」ではグループワークやフィールドワークを実施し、3年次専門外国語科目「English expressionⅢ」では受講生間で課題英作文のピア・レビューを行うなど、それぞれの科目でアクティブ・ラーニングを導入している。	4

中期計画	番号	年度計画	所管部署	業務の実績	自己評価
	Ⅱ-1-3	自らの学びと社会とのつながりを知るための学修機会を設け、社会の第一線で活躍している方のゲストスピーカー招聘等を実施する。	各学部	各学科、キャリアデザインを展望しながら、組織や社会集団の一員として貢献していくための知識とノウハウを学ぶための各学部共通の導入科目「キャリアデザイン・チーム論」を中心に、産業界や医療界などで活躍する講師を招き、自らの学びと将来のイメージを繋ぎ、学生の学修意欲の向上につなげた。 【生産システム科学科】 「キャリアデザインチーム論」において、工学の歴史と発展、石川県のものづくり産業の発展、実社会での基礎知識などについて講義した。また、下記の外部講師を招き、特別講義を行った。 ・5/24　中山賢一氏（小松マテーレ(株)　名誉相談役） ・5/31　黒本和憲氏((株)小松製作所　顧問） ・6/7　加藤直孝氏（石川県工業試験場　主任研究員） 【看護学科】 「キャリアデザイン・チーム論」において、学生が幅広い視野をもてるよう、国際的な活動を行う堤　敦朗氏（金沢大学融合研究域教授）を招聘し講義を行った。また、「保健医療にかかわる先輩のキャリア」として担任教員が研究・教育職を選んだ先輩としての発表を行い、キャリアデザインを描く上で選択肢が広がったと考えられる。令和6年度には、地域で活躍している看護職の方を招聘する予定である。 【臨床工学科】 地域医療に対する学生の学修意欲を高めるため、福井済生会病院と加賀白山会板谷医院の臨床工学部長または臨床工学技士長に講義と学内実習においての学生の指導を依頼した。また、学部学生が小松市民病院ややわたメディカルセンターなどの小松市内の医療施設で臨床実習を行う機会を設けた。 「チーム医療論」では、臨床工学技士以外の医療者の価値観を学ばせるため、看護学科と連携し、一部の講義を看護学科の教員が担当することで、看護職の視点での講義を設けた。 【国際交流文化学科】 「キャリアデザインチーム論Ⅲ」では、日本銀行金沢支店長の吉濱久悦氏をゲストスピーカーとして招聘し、「日本銀行の役割と金融経済情勢について」をテーマに特別講義を行った。1年生を中心とした履修者約80名が参加した。 「地域産業論」では小松商工会議所の協力により、小松の企業の方をゲストスピーカーとして招聘し、企業の現状を知る学修機会となった。また、「グリーンツーリズム論」では旅行会社を起業し農家民宿のポータルサイトを運営して海外展開につなげている女性起業家の岡田　奈穂子氏（株式会社Table a Cloth　代表取締役）を招聘した。社会の第一線で活躍する方をゲストスピーカーとして招聘することで、実社会の課題を把握し学びの意欲を高めるための機会となっている。	4

中期計画	番号	年度計画	所管部署	業務の実績	自己評価
	Ⅱ-1-4	各教員の自己点検・評価シートや授業評価アンケートの結果を、集計・分析し、アセスメントプランに基づきPDCAサイクルを機能させ、教員の質の向上を図る。	各学部、教育企画委員会、学生課	【教員用自己点検・評価シート】 前期・後期の半期ごとに、教育の質の向上のため、教員が自らの講義についての自己点検・評価を行う教員用自己点検・評価シートの作成を講義行う全教員を対象に実施した。 自己点検・評価シートは学生課にてとりまとめ後、各学部・学科長を通してフィードバックを行った。 【授業評価アンケート】 前期・後期の半期ごとに、学生の理解度や満足度を把握し、授業内容や教授法の改善に役立てるため、全学生を対象とした授業評価アンケートを実施した。 アンケート結果は授業改善に活用するため、各教員へフィードバックされるとともに、学生コメントや全体評価等は大学全体で共有している。アンケート結果および学生コメントに記載された講義に対する意見をもとに、各学科・教員が授業方法の改善策を検討し、教育の質の向上に向けた対策を講じている。 また、今年度前期授業評価アンケートから、履修した学生に対しても、アンケート結果を開示するとともに、後期からはアンケート結果に「教員コメント」欄を設け、担当教員から履修学生に対するメッセージを記載することを可能とした。 ［授業満足度（5点満点）］ ・学部：全体　平均4.25 （前期　平均4.25　／　後期　平均4.24） ・大学院：　全体　平均4.34 （前期　平均4.38　／　後期　平均4.19）	4
	Ⅱ-1-5	学生全員が地域を学び、地域に触れ、地域について考える機会を授業に積極的に取り入れ、地域社会に貢献できる人材育成を展開する。	各学部、教育企画委員会	各学部共通の導入科目「南加賀の歴史と文化」は、1年次学生の全員が履修し、地域への理解を深めた。その他、一般科目や専門科目の一部でも地域の歴史、産業、医療などを考える機会を創出した。 【生産システム科学科】 「キャリアデザイン・チーム論」において、石川県におけるものづくり産業の発展について講義したほか、「日本産業史」では小松製作所の創設から発展までを講義し、地元産業の熟知に努めた。また、地元企業の代表者を招いた特別講義を実施した。 ・5/24　中山賢一氏（小松マテーレ(株)　名誉相談役） ・5/31　黒本和憲氏（(株)小松製作所　顧問） ・6/7　加藤直孝氏（石川県工業試験場　主任研究員） 【看護学科】 「市民健康論」、「精神保健看護学」、「地域・在宅看護論」、「公衆衛生看護学」をはじめとした講義・実習において、地域を学び、地域に触れ、地域について考える機会を多く取り入れている。また4年次の選択科目において、地域の健康課題や地域包括ケアなど、4年間の集大成として、地域で自分たちができることを考える講義を取り入れた。 【臨床工学科】 「チーム医療論」に加えて「キャリアデザインチーム論」で小松市内または近隣の医療施設の方を外部講師を招聘し、学生が地域の医療を考える機会を設けた。また、小松市民病院やソフィア病院などの小松市内の病院での病院実習を通じて、学生が地域に触れ、地域について考える機会を創出した。 【国際文化交流学科】 「地域実習」では、①滝ケ原フィールドワーク、②加賀海岸の地域環境保全活動から考えるサステナビリティ、③未来型図書館基本計画策定に向けての取り組み、④九谷焼振興と観光活性化、⑤地域の芸術・文化支援の5つのプログラムに別れ、地域と連携した実習に取り組んだ。なお、2月には、実習の成果を発表する合同発表会を実施した。	4

中期計画	番号	年度計画	所管部署	業務の実績	自己評価
	Ⅱ-1-6	全学部学生のTOEIC受験を奨励するとともに、中期計画の教育指標の目標値達成に向け、スコアの分析を踏まえ授業改善や特別講座を実施する。	国際文化交流学科、教育企画委員会	１年次の共通教育科目において、主にTOEIC受験を射程に入れた、実践的なコミュニケーション能力の育成を図るために「英語Ⅲ」を設置・開講している。「英語Ⅲ」は、国際文化交流学部の学生だけでなく、生産システム科学部や保健医療学部の学生も履修している。なお履修した学生は、２月のTOEICIPを受験した。 【学内TOEICIP受験結果】 ＜全学部＞ ・2024/2/16　TOEIC受験結果 対象：全学科希望者（国際文化交流学部は1年生限定） 受験者数：116名（生産23名、看護3名、臨床8名、国際82名） 平均点：505点（R4年度：486点） ＜国際文化交流学部＞ ・2023/9/22　TOEIC受験結果 対象：4年生（R6年3月卒業者） 対象：12名 平均点：576点（目標点数600点）※600点以上は5名（41.6%） ・2024/2/16　TOEIC受験結果 対象：1年生 対象：82名 平均点：528点（R4年度：533点）	3
	Ⅱ-1-7	幅広い視野と豊かな人間性の育成を図るため、分野横断的なテーマを扱う授業を実施する。	各学部、教育企画委員会	共通教育科目の一般科目（人間力）において、コミュニケーション能力、表現力の要請を通じて豊かな人間性の育成を図るための授業を開講した（「哲学」「心理学」「人間の発達と心」「日本の伝統芸能」「人文地理学」「文化人類学」「医療と文化」「文章表現法」「言葉と文化」）。また、全学科対象の「南加賀の歴史と文化」は横断型科目として、全学生に対して地域への理解を深めた。	3

中期計画	番号	年度計画	所管部署	業務の実績	自己評価
②専門教育 ・確かな基礎知識と高度な専門能力の修得に向けた講義、演習を行う。 ・ディプロマポリシーに掲げる専門能力を強化するため、各学部・学科に対応した地域あるいは海外の課題と取組むProject-based Learning（課題解決型学習）を行う。	Ⅱ-1-8	学生が専門分野に対して関心を持って学習に取り組むよう、教育方法の改善に努め、質の高い教育を実施する。	各学部、教育企画委員会	【生産システム科学科】 北陸地区の多業種が出展する展示会 MEX金沢（5/18～20）とe-messe金沢（5/26～27）にそれぞれ2年生65名、71名が参加した。機械工学と情報工学に関連する製品やシステムを見学する機会を設けることによって専門分野への学習意欲の向上を図った。また、「環境適合技術論」では、地域における環境施設などの事態を知るため、エコロジーパークこまつの見学を行い、環境技術の現場を体感することによって質の高い教育を目指した。 【看護学科】 学科全体の授業内容・方法を共有し、各領域で一連のつながりを意識した授業を実施している。学生の授業評価アンケートの結果等から、教員・外部講師の経験を活かした授業内容の充実が図られていると考えられる。 今年度で3年目となるJICA青年研修「保健医療（地域保健）B」（12/1～26）では、カンボジア研修員19名を対面で受け入れた。今年度は前年度に比べさらに多くの学生が参加し、研修員との交流を通して海外の状況や課題について知り、交流や学びを深めることができた。 【臨床工学科】 「医用機器学概論」および「医用治療機器学」では、医療機器の原理の理解に必要となる微分と積分概念を講義で丁寧に教えるように努めた。「生化学」では、高校で生物学を学んでいない受講者が多いことを意識して、細胞生物学や遺伝学などの生物学の基礎知識を丁寧に教えるように努めた。 【国際文化交流学科】 2年次前期までの専門基礎科目と2年次後期からの専門科目の履修への連続性を担保するために、今年度より新カリキュラムが導入され、1年次から連続して専門教育を行い、徐々に学修進度を深める形を明確にした。 また、基礎から応用・実践の積み上げ式のカリキュラムの成果が卒業論文として反映されているかどうかを昨年度に引き続き検証した。検証にあたっては、卒業論文提出後の口頭試問において、複数の教員によって多角的に確認している。 また、専門科目「世界遺産を学ぶ」に関連して受検を勧奨している世界遺産検定（NPO法人世界遺産アカデミー）において、本学から延べ95名が受検し、3級受検者71名のうち69名と、2級受検者24名のうち21名が認定を受け、団体受検主体としては最高賞の団体優秀賞を受賞した。	4
	Ⅱ-1-9	**【Ⅱ-1-4】再掲** 各教員の自己点検・評価シートや授業評価アンケートの結果を、集計・分析し、アセスメントプランに基づきPDCAサイクルを機能させ、教員の質の向上を図る。	各学部、教育企画委員会、学生課	【教員用自己点検・評価シート】 前期・後期の半期ごとに、教育の質の向上のため、教員が自らの講義についての自己点検・評価を行う教員用自己点検・評価シートの作成を講義行う全教員を対象に実施した。 自己点検・評価シートは学生課にてとりまとめ後、各学部・学科長を通してフィードバックを行った。 【授業評価アンケート】 前期・後期の半期ごとに、学生の理解度や満足度を把握し、授業内容や教授法の改善に役立てるため、全学生を対象とした授業評価アンケートを実施した。 アンケート結果は授業改善に活用するため、各教員へフィードバックされるとともに、学生コメントや全体評価等は大学全体で共有している。アンケート結果および学生コメントに記載された講義に対する意見をもとに、各学科・教員が授業方法の改善策を検討し、教育の質の向上に向けた対策を講じている。 また、今年度前期授業評価アンケートから、履修した学生に対しても、アンケート結果を開示するとともに、後期からはアンケート結果に「教員コメント」欄を設け、担当教員から履修学生に対するメッセージを記載することを可能とした。 ［授業満足度（5点満点）］ ・学部：全体　平均4.25 （前期　平均4.25　／　後期　平均4.24） ・大学院：　全体　平均4.34 （前期　平均4.38　／　後期　平均4.19）	4

中期計画	番号	年度計画	所管部署	業務の実績	自己評価
	Ⅱ-1-10	・コース選択にあたっては、入学時のオリエンテーションにおいて十分な説明を行う。また、適切なコース選択が行われるよう、学生の適性、関心、希望を踏まえた教員による進路の相談・助言を定期的に行う。 ・卒業研究、論文の作成に向け、学習計画の立案を支援する。学内での研究発表を実施する。 ・現行カリキュラムを内部質保証の方針に照らして点検・評価し、改正の是非を検討する。 ・「課題探求プロジェクト」、「学外技術体験実習A、B」において受入企業等と連携協力し、課題抽出や課題設定、授業方法などの改善に取り組む。	生産システム科学科	[コース選択] 1年生に対しては前期後期のオリエンテーションにおいて2コースの概要を説明した。2年生に対しては前期のオリエンテーションにおいてコース配属条件の詳細を説明、前期終了近くにおいてコース選択の希望調査を実施、結果として85名のうち生産機械コース40名、知能機械コース45名の希望者が確認できた。なお、コース配属には一定の単位数の取得が必要となるため、 単位取得数が少ない学生については面談を実施して今後の学習態度について指導を行った。 また、2年終了時のコース配属では、生産機械コース32名、知能機械コース39名の計71名の学生のコース配属が確定し、10名の学生はコース分けの単位数の条件を満たせず未配属となった。未配属の学生に対しては、引き続き、必要な単位数の取得に向けた指導を行った。 [卒業研究] 卒業研究については各指導教員または各研究室において研究指導を行っている。研究室ごとに随時進捗状況を確認するほか、夏休み前に卒業研究の中間的な発表を行うなどして卒業研究の進捗状況を確認している。また、2月21日に卒業研究発表会を実施した。 [カリキュラム改正] 7月12日の第86回教育研究審議会において審議・承認のうえ、令和6年度からのカリキュラムが一部改正となった。新カリキュラムの実施に向けて、旧カリキュラムが混在する時間割の作成、単位の読み替えについて検討し、学生の負担が増えないように努める。 [課題探求プロジェクト、学外技術体験実習] 「課題探求プロジェクト」では、教員と学生のミスマッチを避けるため、学生の志望と教員側の意向に沿うように教員への配属を行った。特定の教員への志望者が多い場合には、GPAを基に配属を決定した。また、令和5年度の成果発表の方法については各教員に任されたが、次年度は学科としての成果発表会を実施を検討する。 「学外技術体験実習」では、本学の協力企業をはじめとする40社の企業に学生83名を派遣し、5日間のインターンシップを実施した。実際に実習の受入を行っていただいた企業は40社であったが、キャリアサポートセンターや学科の就職担当教員を通して新たに22社に学生の受け入れを了承していただき、学外技術体験実習生受入を打診した企業99社のうち53社から受入可能との回答をいただいた。実習終了後は、学外技術体験実習報告書を担当教員に提出し、自身の実習体験の報告を行った。	4

中期計画	番号	年度計画	所管部署	業務の実績	自己評価
	Ⅱ-1-11	・コース選択にあたっては、入学時のオリエンテーションにおいて十分な説明を行う。また、適切なコース選択が行われるよう、学生の適性、関心、希望を踏まえた教員による進路の相談・助言を定期的に行う。 ・近隣の保健・医療機関や社会福祉施設、認定こども園などと連携し、各種臨地実習を実施する。 ・卒業研究、論文の作成に向け、学習計画の立案を支援する。学内での研究発表を実施する。 ・看護師、保健師の国家試験に向けて、個々の学生に応じた試験対策を継続して実施する。 ・各看護学領域において実施される「看護実習」等において、PBLを行う。学修成果を分析し、授業方法の改善に取り組む。 ・現行カリキュラムを内部質保証の方針に照らして点検・評価し、改正の是非を検討する。	看護学科	[コース選択] 保健師養成課程のコース選択ニーズに関してさらなる充足を図るために、履修案内の内容の改善、説明会の実施等を通して情報提供、相談体制を整えた。 2年次の終わりに、保健師養成課程のコース選択を行い、3年次12月から4年次にかけて講義を履修している。 2023年度　保健師コース選択者　20名（定員上限25名） [臨地実習] 各実習を担当する領域の教員及び各領域の連携・協働を図るための実習検討部会が調整を行い、各学年の臨地実習を滞りなく実施している。COVID-19による影響がみられた場合は、実施施設の感染対策に準じ、柔軟に対処している。 [卒業研究] 卒業研究サポート委員会が中心となり、「卒業研究実施要領」・「卒業論文執筆要項」に基づいた卒業研究を進めている。卒業研究についてはグループで行う方法が確立されつつあり、教員のもと、グループで研究プロセスを学んでいる。研究指導・方法に関する学生の満足度は高いが、引き続き学生の相談を受けることができる体制をとり、適切な指導を実施する。 [国家試験] 国家試験サポート委員会、担任が中心となって、学科内全体で学生の看護師・保健師の国家試験にむけて、模擬試験、補講、勉強方法の相談・支援を行った。また、今年度看護師国家試験を受験する卒業生（昨年度不合格者）に対しても支援を行った。結果、看護師・保健師ともに、国家試験合格100%であり、昨年度不合格となった卒業生も合格した。 今後は、国家試験新出題基準の内容を授業に含める、学習時間を確保する等、全体、個別の対応を行っていくとともに、引き続き、不合格となった学生の支援も継続していく。 [看護師国家試験] 合格者:52名　合格率100%　／全国合格率　87.8% ※合格者52名のうち1名は既卒者 [保健師国家試験] 合格者:20名　合格率100%／全国合格率　95.7%	4
	Ⅱ-1-12	・専門科目の講義、演習、学内実習にあたっては、各種実習機器やシミュレーションモデルを積極的に活用する。 ・卒業研究、論文の作成に向け、学習計画の立案を支援する。学内での研究発表を実施する。 ・臨床工学技士の国家試験に向けて、個々の学生に応じた試験対策を継続して実施する。	臨床工学科	[実習機器やシミュレーションモデルの活用] 動物実験を行う外部研修を実施した。また、2024年度から開始される臨床工学技士教育における教育プログラム改革に伴う新カリキュラムでは、内視鏡の実習が追加されるため、シミュレーションモデルを活用する対面の学内実習の準備を進めた。また、実習に必要となる内視鏡等の医療機器は医療機関から無償譲渡いただいており、今後の実習に活用していく。 [卒業研究] 各指導教員が丁寧に指導を行い、12月13日に卒業研究発表会を実施した。 [国家試験] 担当教員を選定し、学部4年の学生を対象とした臨床工学技士国家試験対策講座を実施した。今年度の合格率は89.6%（前年度:100%）であった。合格率が低下した原因の一つとして、今年度は国家試験対策の開始時期が遅かったことが挙げられるため、次年度は国家試験対策講座の開港時期と学生への通知を早期に行うように改善するとともに、国試対策講座への参加が必要と考えられる学生については配属先の教員からも講座への出席を指導するよう努める。 また、第2種ME2技術実力検定試験は計19名（学部4年1名、学部3年10名、学部2年8名）、第1種ME技術実力検定試験は計3名（学部3年1名、学部4年1名、修士1年1名）が合格した。 [臨床工学技師国家試験] 合格者:26名（合格率89.6%）　※全国合格率79.5%	4

中期計画	番号	年度計画	所管部署	業務の実績	自己評価
	Ⅱ-1-13	・コース選択にあたっては、入学時のオリエンテーションにおいて十分な説明を行う。また、適切なコース選択が行われるよう、学生の適性、関心、希望を踏まえた教員による進路の相談・助言を定期的に行う。 ・地域実習、インターンシップ、異文化体験実習、海外語学研修の実施にあたっては、受入先企業や大学、行政などと担当教員が連携協力し、課題解決能力や実践能力の養成を図る。 ・卒業論文の執筆に向け、学習計画の立案を支援する。	国際文化交流学科	［コース選択］ ２年次進級時にコース選択に関する説明会を実施した。コース選択の動機が明確でない学生については、年度初めの4月から5月にかけて、国際文化交流学科の18名の相談教員が個々の学生に指導を行った。 2023年度　2年生　国際観光・地域創生コース　55名／グローバルスタディーズコース　23名 ［海外語学研修、異文化体験実習］ ・湖西大学（韓国）夏季語学研修　4名（8/7～8/19） ・東南大学（中国）短期研修（オンライン開催）　3名（8/21～8/24） ・オークランド大学（ニュージーランド）English Language Academy語学研修　6名（2/9～3/11） ・建国科技大学（中国）中国語研修　10名（3/7～3/21） ・オースティン・ピー州立大学（米国）語学研修　1名（3/12～3/27） ・アンコール世界遺産インターンシップ（カンボジア）　5名（9/6～9/15） ［地域実習、インターンシップ］ 【II-I-5】、【II-I-31】参照 ［卒業論文］ 「卒業研究」の開講科目数は全部で16ある。それぞれの科目に指導教員1名、副指導教員1名が当てられ、現行の2名体制はうまく機能している。	4

(2) 大学院課程教育

中期目標	確かな基礎知識と高度な専門能力の修得に向けた講義、演習を行うとともに、実践的な課題解決型学習を行う。これにより、主体的な学びの姿勢を育み、日本と世界に広く通用しうる課題発見・解決能力の醸成を図る。

中期計画	番号	年度計画	所管部署	業務の実績	自己評価
1　教育に関する目標を達成するための措置　－　(2) 大学院課程教育					
大学院は、1研究科3専攻で組織し、それぞれの専門領域及び分野横断的領域において学術の理論及び応用を教授研究し、その深奥を究めて、又は高度の専門性が求められる職業を担うための深い学識及び卓越した能力を培い、文化の進展と産業の振興に寄与する。	Ⅱ-1-14	大学院設置認可申請書に記載した教育課程を体系的、組織的に実行するとともに、自己点検評価・内部質保証推進会議の指示のもと、教育改革に関する企画立案を行うほか、IRの推進について検討する。	サステイナブルシステム科学研究科委員会	大学院設置認可申請書に基づく教育体制を体系的、組織的に実行している。 講義については引き続き対面での授業を行うとともに、必要に応じてオンライン又はオンデマンドを併用した授業を行っていく。また、博士後期課程の授業体制を整備し、令和6年度以降も支障なく授業が実施出来るよう調整を図る。 【開講科目】 ・前期 専門共通科目5科目 専門応用科目1科目 専攻専門科目11科目(うち分野横断的専攻専門科目5科目) 修了科目 ・後期 専門応用科目1科目 専攻専門科目14科目(うち分野横断的専攻専門科目2科目) 修了科目 ※なお、下記講義についてはMicrosoftTeamsを使用し、対面授業と同時に配信方式でも授業を行い、3キャンパスに配信し、オンデマンドでも視聴できるよう体制を整えている。 前期:専門共通科目5科目、専門応用科目1科目、専攻専門科目7科目(うち分野横断的専攻専門科目5科目) 後期:専門応用科目1科目、専攻専門科目2科目(うち分野横断的専攻専門科目2科目) 【外国人留学生への対応】 日本語が不得手なタイからの留学生に対しては、オープンAIの翻訳ソフトをカスタマイズして開発した自動翻訳システムを導入して講義を行っている。 なお、このシステムは、生産システム科学専攻2年に在籍する大学院生が開発した。	4
	Ⅱ-1-15	主任指導教員及び副指導教員による指導体制で、修士論文作成に向けた研究指導を行う。専門分野を超えた課題研究に関し、他専攻からもアドバイザー教員を配置し、分野横断的研究を推進する。	研究科	学生本人と個別面談を行い、学生が希望する指導教員及び研究内容の確認のうえ主任指導教員、副指導教員、アドバイザー教員を決定し、研究指導体制を整えた。なお、各学生の指導教員は、5/10開催の研究科委員会にて情報共有され、アドバイザー教員との面談記録は、専攻長が管理している。 主任指導教員、副指導教員、アドバイザー教員による定期的な面談、適切な研究指指導により、令和5年度は生産システム科学専攻13名、ヘルスケアシステム科学専攻4名、グローカル文化学専攻1名の修了生を送りだすことができた。	4

中期計画	番号	年度計画	所管部署	業務の実績	自己評価
	Ⅱ-1-16	各教員の自己点検・評価シートや授業評価アンケートの結果を、集計・分析し、アセスメントプランに基づきPDCAサイクルを機能させ、教員の質の向上を図る。	研究科、学生課	学生の理解度や満足度を把握し、授業内容や教授法の改善に役立てるため、前期・後期ごとに授業評価アンケートを実施した。アンケート結果は授業改善に活用するため、全教員にフィードバックされ、学長や研究科長から、授業内容の改善等に関する必要な指示がなされた。 また、教員用の自己点検・評価シートでは、授業評価アンケートの結果も踏まえ、各教員が実施する授業の自己点検・評価を実施した。 [授業評価アンケート] ・学部 前期:9/6 第5回教育研究審議会にてアンケート結果を報告 後期:3/6 第11回教育研究審議会にてアンケート結果を報告 ・大学院 前期:9/7 第7回研究科委員会にてアンケート結果を報告 後期:4/3 令和6年度第1回研究科委員会にてアンケート結果を報告 ・教員用自己点検・評価シート 提出されたシートは、各教員が所属する学科ごとにまとめた上で各学部・学科長へ情報共有し、組織レベルでの点検が行われた。 前期:10/11、後期:4/18 各学部・学科長へ共有 [授業満足度(5点満点)] ・学部:全体 平均4.25 (前期 平均4.25 ／ 後期 平均4.24) ・大学院: 全体 平均4.34 (前期 平均4.38 ／ 後期 平均4.19)	4

(3) 入学者選抜

中期目標	大学の入試広報を積極的・計画的に行い、アドミッションポリシーにもとづいて目的意識・学習意欲・学力の高い入学者確保に努める。

中期計画	番号	年度計画	所管部署	業務の実績	自己評価
1　教育に関する目標を達成するための措置　ー　(3) 入学者選抜					
①本学のアドミッションポリシーにもとづいて、目的意識・学習意欲・学力の高い入学者を確保するため、入試広報を積極的・計画的に行う。	Ⅱ-1-17	オンラインの活用も図りながら、大学説明会の開催或いは合同説明会への参加、オープンキャンパスや高校訪問を実施し、学生募集活動を展開する。 引き続き、入学者の声及びこれまでの教育の成果を積極的に入試広報に活用する。	教育企画委員会（入試部会）	北陸三県・東海・信越地方など各地の高校に対して入学者選抜要項、大学案内等の送付に加え、高等学校進路指導教諭対象大学説明会、高校訪問において延べ88校に対して本学の概要を説明するなど入学定員の充足に努めた。オープンキャンパスは７月に３キャンパスにおいて実施し、396名が参加した。 ［オープンキャンパス］ 参加人数に制限ををかけた上で実施した。 日　　程：７月15日 参加人数：３キャンパス（3学部4学科）合計396名 （内訳　生産79名、看護97名、臨床124名、国際96名） ※参考：令和４年度参加人数　281名 ［大学見学］ オープンキャンパスに参加できなかった受験生等の見学の受け入れを行った。 ※夏休み期間のみの対応 生産：2組、臨床：3組、国際：2組 ［高等学校進路指導教諭担当大学説明会］ 北陸三県の高校教諭（進路指導）を対象とした大学説明会を２会場（小松、金沢）で開催し、37校の参加となった。 ※会場別参加校 小松会場（7/3）：15校、金沢会場（6/30）：22校 ［高校訪問］ 教員・事務職員による高校訪問を６月及び９月に実施。 北陸三県の高校から出願が多い高校にアポイントを取り実施した。 6月36校、9月15校（令和4年度訪問実績、6月：23校、9月17校） ［進学相談会］ 業者主催の進学相談会に参加した。 金沢7回、小松3回、富山2回、福井4回、名古屋3回、大阪1回（オンライン） ※大学コンソーシアム石川主催の合同進学説明会「ガクフェス」は今年度より中止。 今後は他県の高校教員を迎えるキャンパスツアーの開催に力を入れていく予定。 今年度はキャンパスツアーの情報交換会に参加した。	4

中期計画	番号	年度計画	所管部署	業務の実績	自己評価
	Ⅱ-1-18	大学院博士前期課程及び博士後期課程（令和６年４月開設予定）の入学者確保に向けた取組を検討し、計画的に学生募集活動を実施する。	研究科	一般選抜、外国人特別選抜、社会人特別選抜の３つの区分で入学者選抜を実施し、すべての入試区分から多様な学生を受け入れることができた。入学者確保に向けては、来年度から生産システム科学専攻博士前期課程の入試を、第1期に加えて第2期入学試験も行うこととした。また、業務の効率化を図るため、各専攻の入学試験日程の見直しを行い、可能な限り各専攻の日程を統一して入学試験を行った。 ［博士前期課程］ ・入学試験実績 生産システム科学専攻：受験者19名、合格者19名、入学者19名 ヘルスケアシステム科学専攻：受験者１名、合格者１名、入学者１名 グローカル文化学専攻：受験者３名、合格者３名、入学者２名 ５月31日　大学ホームページで募集要項を公表（英語版含む） ６月１日　近隣大学の関係する学部宛に募集要項を郵送 （石川県11校、富山県9校、福井県10校） ３月８日　大学ホームページでグローカル文化学専攻2次募集の募集要項を公表 ［博士後期課程］ ・入学試験実績 生産システム科学専攻：受験者３名、合格者３名、入学者３名 ヘルスケアシステム科学専攻：受験者４名、合格者３名、入学者３名 グローカル文化学専攻：受験者３名、合格者３名、入学者３名 10月３日　大学ホームページで募集要項を公表（英語版含む） 10月４日　近隣大学の関係する研究科宛に募集要項を郵送 （石川県8校、富山県5校、福井県8校） 12月22日　大学ホームページでヘルスケアシステム科学専攻2次募集の募集要項を公表	4
②入学者選抜の結果を検証し、入試制度・方法の改善につなげる。	Ⅱ-1-19	今後の入試に向け、内部質保証およびエビデンスに立脚した入試結果の分析及び入学者の追跡調査による検証を行う。	教育企画委員会（入試部会）	入試部会において2023年度入試の志願者数、志願者出身高校、合格者の得点率等のデータの分析を在学生のGPA等の学力調査結果などを基に行った。入学者選抜区分との相関の分析を各学科で行ったが、選抜区分による有意な差は見られなかった。 ［募集要項の公表］ ・9/15学生募集要項（学校推薦型選抜、社会人選抜）をHP上に掲載 ・11/1学生募集要項（一般選抜）をHP上に掲載	3

中期計画	番号	年度計画	所管部署	業務の実績	自己評価
	Ⅱ-1-20	これまでの入試結果を踏まえて、入試の種類及び種類ごとの定員を再検討する。	教育企画委員会（入試部会）	●選抜方法、区分毎の入学者定員の検討 　入試部会が中心となり、学生のGPA等の学力調査結果を基に入学者選抜区分との相関の分析を各学科で実施したところ、選抜区分による有意な差は確認できなかったため、区分毎の入学者定員は現状維持とした。 　今後、実験・実習を除いたGPAなどの指標を用いた分析についても検討し、選抜方法の点検材料とする。 ●入学者選抜における科目等の検討 　また、令和７年度からの共通テストの出題教科、科目の変更に伴う対応として、「情報」は課さないこととし、大学ホームページに公表した。 　国際文化交流学科 一般選抜（中期日程）では、成績を利用する科目の選択方法の見直しを行い、令和7年度入学者選抜より、以下のとおり変更することを12月大学ホームページにて公表した。 変更後の科目選択方法： 『地理歴史、公民、数学、理科』については、当該教科の中から得点上位の 2 教科 2 科目の成績を利用します。ただし、次の点にご注意ください。 （１）『地理歴史、公民』で２科目受験している場合は、第 1 解答科目の成績を利用します。 （２）『理科』で２科目受験している場合は、第１解答科目の成績を利用します	3

(4) 学生支援

中期目標	地域との連携・協力のもとに、教職員が一体となって組織的に学生一人ひとりの学業・生活を支援する。また、学生が１年次から自ら目指すべき将来像を明確にし、社会的・職業的自立を図るために必要となる能力を形成できるようキャリア教育を充実させるとともに、キャリアサポートセンター等によるキャリア形成支援を行う。

中期計画	番号	年度計画	所管部署	業務の実績	自己評価
1　教育に関する目標を達成するための措置　－　(4) 学生支援					
①職員が一体となって、学生一人ひとりの学業・生活を支援する体制を構築し、安心して学べる環境を提供する。	Ⅱ-1-21	大学生活の基本を学ぶとともに、交流を深めるため新入生を対象としたオリエンテーションなどを実施する。	各学部	新入生を対象として実施している「きずな合宿」を各学部・学科で開催し、入学生間、学生－教員間、入学生－先輩間で交流を行い、絆を深めた。 （新入生244名、上級生42名参加） 【生産システム科学部】 「きずな合宿」において、実験室や研究室の見学、新入生同士に加え、上級生や教員と交流を行うことで、縦横の繋がりを構築することができた。新入生オリエンテーションでは１年生と相談教員との顔合わせを行い、相談体制の周知を図った。 【保健医療学部】 看護学科及び臨床工学科では、履修ガイダンスと共に、「キャリアデザイン・チーム論Ⅱ」において合同で学部教育や支援体制等の内容を説明した。また、「きずな合宿」においては、臨床工学科は他県からの入学者が多いことから、学生を孤立させないよう学生間や教員との交流促進に努めた。 【国際文化交流学部】 「きずな合宿」では、キャンパス周辺施設の案内やレクリエーションを通して入学生同士、上級生や教員との交流や情報交換を行った。 また、10/21に開催した青松祭では、各教員の研究活動や各教員の研究する国々を紹介する学部紹介ブースや、学生による留学体験や地域活動に関するプレゼンテーションを実施し、学部教育・研究活動を周知するとともに、学生や参加者の勉学意欲を向上を図った。	4
	Ⅱ-1-22	相談教員または指導教員が、個々の学生に応じたきめ細かな支援を行う。	各学部、研究科	生産システム科学科では、全教員が相談教員として、各学年４名程度の学生の修学支援や生活面の相談を行っている。各学期開始前のオリエンテーションに合わせて相談教員ガイダンスを行い、個々の学生に対して単位の修得状況や学生生活の確認・指導を行った。単位取得状況に応じて、相談教員と学科長が連携して面談を行うなど学修意欲の向上を促している。 看護学科では、ひと学年４名体制での担任制度を取ることで学生一人ひとりの理解を深め、相談対応や面談等を通してきめ細やかな支援を行っている。また、教員会議において各担任が学生の状況を報告し、学生への支援を全教員で検討している。また、各学年の担任と学科長間で各学年の学生生活、経済上の問題、学業、進路等で気がかりな状況や、学年運営上で気になる事について相談、検討している。 臨床工学科では、各学年にアカデミックアドバイザー教員を２名ずつ配置し、学生の学修支援や生活指導等について丁寧かつ適切に対応した。また、必要な場合は、保健管理センター員と学生の健康状況について情報共有し、対応にあたった。また、必要に応じ、アカデミックアドバイザー教員が担当する学年の様子を毎月の学科会議において報告した。 国際文化交流学科では、5月末までに1～3年生までの全学生を対象とした相談教員による面談を実施した。4年生に対しては、「卒業研究」の指導教員1名に加え、副指導教員2名を付けた3名体制で指導及び支援を行った。なお、面談結果等については、学科長がとりまとめ教授会にて情報共有を行った。	4

中期計画	番号	年度計画	所管部署	業務の実績	自己評価
	Ⅱ-1-23	健康診断の徹底や新型コロナウイルスなどの感染症予防、健康相談、保健情報提供等、健康支援のための取組を推進する。また、学生相談を３キャンパスで随時実施する。	保健管理センター	①学生定期健康診断 実施日：4月6日、7日 受診状況：受診者1006名／対象者（全学生）1036名　受診率97.1% 検査結果に対する対応： 　血圧・尿検査異常者91名に対し再検査を実施 　　血圧再検査異常者12名（学校医指示による指導8名、経過観察4名 　　尿再検査異常者5名（経過観察1名、顕微鏡的血尿2名、I型糖尿病1名） 　健診結果「要医療・要精検・要再検査」17名に対し医療機関への受診を勧奨 　　14名は医療機関受診済み 　　未受診の３名へは次年度の健診結果を注視し、必要に応じて受診勧奨・経過観察 ②学校医来学 ７月４日　健康診断受診者1005名の結果の確認（生活指導・経過観察・受診勧奨対象者：９名） 11月10日　健康診断受診者１名、医療機関要受診14名の結果の確認（要指導・要観察対象者：なし） 　　学生健康相談：２名実施 ③健康調査 学生の健康状態を把握する健康調査を実施。身体面、精神面で気になる点がある学生へメール等で連絡し、現状把握及び相談対応を実施。 連絡対象者：157名 学生相談実施者：８名（生産３名、国際５名） ④４種（麻疹・風疹・水痘・流行性耳下腺炎）予防接種 1年生の感染症調査票および健診結果をもとに、4種予防接種の接種歴と抗体価を確認。必要な予防接種の接種勧奨を実施した。 ・勧奨数：生産14名、看護22名、臨床工学18名、国際17名 ・接種者数:生産14名、看護22名、臨床工学18名、国際14名 ⑤新型コロナウイルス感染症対策 ・5類感染症変更（5/8～）後サーモグラフィー体温計を撤去 ・感染状況の把握、報告（5月7日まで：随時関係者報告、5月8日以降：安全衛生委員会にて報告） 　罹患者：122人（内訳：学生103人、職員19人）	4

中期計画	番号	年度計画	所管部署	業務の実績	自己評価
				⑥インフルエンザ予防接種 小松市医師会と委託契約を行い、８医療機関に依頼し実施。（申し込みはMicrosoft Formsを使用） 　対象者：全学生、全教職員 　接種費用：学生は保護者会費により費用の全額を助成 　　教職員は大学より費用の一部を助成 　実施日：各キャンパスでの集団接種　10/17、11/16、11/29。12/1、12/5、12/6、12/7、12/14 　　医療機関での個別接種　12/15～12/22 　接種状況：学生582名（接種率56%）、教職員106名（接種率81.5%）、計688人（58.8%） 　罹患者数：48名（内訳：学生46名、職員２名） ⑦B型肝炎集団予防接種、抗体検査 　対象者：保健医療学部1年生83名 　医療機関：やわたメディカルセンター健診センター 　接種費用：学生自己負担なし（今年度より接種費用を大学全学負担） 　予防接種実施日：5月12日、6月9日、10月26日 　抗体検査実施日：12月21日（抗体検査結果：全員陽性） ⑧臨床心理士による学生相談 　実施日：週4日間(月～木）午後13時～18時 ［令和５年度相談者数］ 　前期：新規６名、継続３名、相談再開２名、合計11名（相談回数延べ82回） 　後期：新規６名、継続６名、相談再開１名、合計13名（相談回数延べ80回） ⑨「ほけかんだより」の発行 年５回（4月・5月・7月・10月・1月）発行し、学内に掲示。 5月はタバコの害、7月は梅毒・性感染症関について取り上げ、1月は学内で開催されるHPVワクチン接種セミナーについての周知を行う等、学生の健康に関する情報提供や健康保持・増進の啓発を行った。 ⑩研修への参加 ・東海北陸大学保健管理研究集会（静岡県　7月27日、28日）1名参加 ・第1回石川県保健管理担当職研究会（金沢大学　8月30日）１名参加 ・全国大学保健管理研究集会（石川県　10月4・5日）5名参加 ・北陸地区保健管理担当職研究会（富山県　11月8日）2名参加 その他、石川県産業保健総合支援センターのWeb研修に随時参加（5月～１月に26回参加）。	

中期計画	番号	年度計画	所管部署	業務の実績	自己評価
	Ⅱ-1-24	国の高等教育の修学支援新制度に基づいて確実に支援を実施すると同時に、引き続き大学独自の支援策も実施する。	学生課	・高等教育修学支援新制度、日本学生支援機構奨学金 高等教育修学支援新制度の更新確認申請書を6月22日に小松市役所に提出した。 在学生に対し、4月4日、6日、7日に修学支援新制度を含む日本学生支援機構奨学金の募集説明会を実施した。 ・公立小松大学学生短期貸付金制度 アルバイト収入が途絶える等の理由で、生活に極めて困窮している学生を対象に、無利子で７万円以内を貸し付けを行っている。 　令和５年度実績：本学の貸付金制度の利用者はなし。	3
	Ⅱ-1-25	奨学金受給、安全なアルバイト情報の提供など、学生生活の経済的な支援を引き続き行う。	学生課	4月のオリエンテーションにおいて、授業料免除や奨学金などの経済支援について、学生に情報周知を行った。申請書類の不備などは学生に細やかな連絡を行い、適切に申請手続きを行った。 　アルバイト情報については、求人内容や事業者をよくチェックし、学内掲示を行っている。 　また、中央キャンパスに通う学生への昼食補助として、周辺店舗で使用できる補助券（200円×10枚）を月々交付し、学生への経済支援とあわせ、地域経済にも寄与した。 　さらに、物価高に対する本学独自の経済支援として日本学生支援機構給付型奨学金の支給対象者に対して支援区分に応じた経済支援金を支給した。 ［奨学金制度情報の提供］ 　各種奨学金制度の案内を大学ホームページ及び各キャンパス掲示板において周知。 　・地方公共団体及び民間育英団体奨学金制度　44件 　・返還支援制度　４件 ［授業料免除］ 　前期修学支援新制度認定者　　全額免除：56人、2/3免除：32人、1/3免除：18人　計106人 　後期修学支援新制度認定者　　全額免除：57人、2/3免除：27人、1/3免除：16人　計100人 ［奨学金　※2023年度新規受給者］ 　　日本学生支援機構奨学金　　給付：38人／貸与一種：53人／貸与二種：48人 　　地方公共団体及び民間育英団体奨学金　給付：１人／貸与：12人 ［アルバイト情報の提供］※掲載期間は1か月 　各キャンパス掲示板において周知。 　令和５年度掲載　全227件 ［ランチ助成券］ 　　配布月：8か月（4月、5月、6月、7月、10月、11月、12月、1月） 　　対象：前期　全学部1・2年生、国際3・4年生、留学生（合計648人） 　　後期　全学部1年生、国際文化交流学部2・3・4年生、留学生 　　大学院グローカル文化学専攻1・2年生（合計487人） 　　利用（換金）実績：8,065,200円 　　ランチ助成 対象店　27店舗 ［経済支援金の支給］※本学独自 　物価高に対する経済支援として日本学生支援機構給付型奨学金の支給対象者に支援区分に応じた経済支援金を支給。 　20,000円支給：58人／15,000円支給：32人／10,000円支給：18人	4

中期計画	番号	年度計画	所管部署	業務の実績	自己評価
	Ⅱ-1-26	サークルの立ち上げや活動の場の提供、サークル活動助成金制度などにより、学生の課外活動を支援する。学生交流の活発化に向けた取り組みを検討する。	学生課	サークルの設立や継続、学外での活動を行う際には、学生課へ設立届出書や継続届、学外活動届など必要書類の提出を求め、必要に応じて大学からの支援や指導が可能な体制を整えている。 また、学生に向けたサークルの紹介は学内掲示板への掲示だけでなく、大学ホームページや学生ポータルサイトを活用し、オンラインでの紹介も行っている。 なお、課外活動の満足度について、令和５年度卒業生を対象にしたアンケートにおいて、77%の卒業生が「課外活動を楽しんだ」との回答が得られた。 ［令和５年度サークル登録数］ 33団体（継続25団体、新規8団体）　※令和４年度：29団体 ［サークル代表者会議］ 学生の課外活動の推進及び安全な活動環境をつくるための情報交換を行うことを目的として、6月21日および2月28日にサークル代表者を対象とした会議をオンラインで開催し、サークル活動に関する注意事項や活動についての情報提供、連盟などの団体登録料・大会参加費の補助等について説明を行った。 ［サークル活動助成］ 公立小松大学基金、保護者会費を財源に、サークル活動支援に係る助成金を支給した。 ・サークル活動助成金 サークル活動の支援として、申請があった団体に対し、１団体につき5,000円を支給。 助成実績：19団体 ・サークル活動宿泊助成金 サークル活動の活性化を図るため、合宿を行ったサークルの参加者1名1泊2,000円を支給。 （昨年度までは新型コロナウイルス感染症対策としてサークルでの合宿を禁止） 助成実績：１件（ダンスサークル８名２泊分）　32,000円 ・学生団体活動支援費 保護者会より学生団体活動支援費としてサークルの構成員1名につき500円をから支給。 助成実績：33団体　498名　249,000円 ［大学祭での活動］ 10/21（土）第６回大学祭「青松祭」開催 茶道サークルによるお茶会や、有志のサークルによる模擬店が出展された。 小松駅前市民公園特設ステージでは軽音・吹奏楽・ダンスサークル等がパフォーマンスを披露した。	4

中期計画	番号	年度計画	所管部署	業務の実績	自己評価
	Ⅱ-1-27	学部学科、研究科専攻の専門性に沿った学術書の充実を図り、学生の自主的な学修を支援する。また、利用教育を充実させ、学生の図書館利用の促進を図る。	附属図書館	(1)図書館利用促進に向けた取り組み ①新入生に対し、「情報処理基礎」の授業の中で、図書館利用法のガイダンスを実施 国際文化交流学部5/12、保健医療学部5/11、生産システム科学部6/19 ②三館連携しての企画展示を実施 ・４月～５月：企画展示「大学生活応援図書」 中央図書館:13冊、粟津図書館:９冊、末広図書館:９冊 ・７月：オープンキャンパスに向けた企画展示「大学生活応援図書」 中央図書館:19冊、粟津図書館:11冊、末広図書館:15冊 ・１月：企画展示「SDGｓ関連図書」 中央図書館:20冊、粟津図書館:17冊、末広図書館:22冊 ・随時：就職活動支援についての企画展示 中央図書館:20冊、粟津図書館:17冊、末広図書館:22冊 ③シラバス参考図書を三館で購入 三館合計購入冊数　図書：32冊 97,054円 ④資料の整備、充実 ・資料受入 図書　　：2,268冊（中央:974冊、粟津:419冊、末広：875冊） 視聴覚　：107点　（中央：６点、粟津：62点、末広： 39点） 電子書籍：24点　　（※電子書籍は所蔵館の設定なし） ・所蔵資料数 中央:図書 15,383冊、逐次刊行物 4157冊、視聴覚 605点 粟津:図書 37,232冊、逐次刊行物 1694冊、視聴覚 519点 末広:図書 16,501冊、逐次刊行物 1068冊、視聴覚 386点 電子書籍(三館):160点 ※電子書籍は所蔵館の設定なし ・電子ジャーナル、データベース 電子ジャーナル契約数：8出版社　契約金額(合計)　11,195,419円 データベース契約数　：6出版社　契約金額(合計)　4,220,065円 ⑤相互貸借（他の図書館との連携） 「石川県図書館情報ネットワーク」を通じた公共図書館との相互貸借を実施。対象エリアを石川県内から東海北陸地区[福井・富山・愛知・岐阜]に拡大し、利便性の向上、学修・研究支援の充実図った。 ・ネットワークを利用した三館合計冊数：借用124冊、貸出53冊】 ・ネットワーク外の図書館を利用した三館合計冊数：借用11冊、貸出1冊】	4

中期計画	番号	年度計画	所管部署	業務の実績	自己評価
				⑥利活用方法および利用教育の情報発信 利用マナーの向上を図り、「マナーアップ汚破損本展示」の巡回展示を実施 末広図書館:7月-9月上旬、中央図書館:9月末-11月末、粟津図書館:12月-1月末 ⑦利用教育関連コンテンツの整備 中央キャンパスデジタルサイネージに図書館利用案内コンテンツを追加 (2)貸出実績 ［貸出冊数/貸出人数（延べ） 4/1～3/31］ ・学生 4,332冊/2,432人（R4年度：4,704冊/2,422人） ［生産システム科学科］ 718冊/473人 （R4年度： 847冊/475人） ［看護学科］ 1,271冊/610人 （R4年度：2,008冊/865人） ［臨床工学科］ 991冊/577人 （R4年度： 633冊/360人） ［国際文化交流学科］ 985冊/580人 （R4年度：1,069冊/621人） ［サステイナブルシステム科学研究科］ 361冊/186人（R4年度：147冊/101人） ［科目等履修生・聴講生・研究生］ 6冊/6人 ・教員 986冊/374人（R4年度：1,039冊/422人） ［中央図書館］ 224冊/106人（R4年度：175冊/ 88人） ［末広図書館］ 670冊/220人（R4年度：531冊/223人） ［粟津図書館］ 92冊/ 48人（R4年度：109冊/ 43人） ・職員 686冊/336人（R4年度：687冊/340人） ［中央図書館］ 257冊/128人（R4年度：333冊/162人） ［末広図書館］ 297冊/155人（R4年度： 94冊/ 54人） ［粟津図書館］ 132冊/ 53人（R4年度： 56冊/ 28人） (3)蔵書点検 末広：8/15～8/17実施（点検冊数 14,631点 うち紛失点数 18点） 粟津：8/21～8/25実施（点検冊数 35,652点 うち紛失点数 14点） 中央：1/9 ～1/11実施 （点検冊数 19,781点 うち紛失点数 44点） 紛失図書の改善に向けた対応策を検討・実施 ・電子書籍での購入が可能な場合は資料形態を切り替え ・三館紛失図書リストを館内掲示、図書館HPに掲載 (4)図書館運営委員会、司書ミーティングの開催 委員会：計７回（4/26、7/26、9/27、11/29、1/31、2/28、3/27） 司書ミーティング：計９回（4/12、4/19、6/21、7/18、9/21、11/22、1/25、2/21、3/21） (5)「NACSIS-CAT」 国立情報学研究所が運営する目録所在情報サービス「NACSIS-CAT」への研究室所蔵図書の情報を公開 研究室 登録件数 2,372点	
	Ⅱ-1-28	図書館と連携した自習室の学習環境の維持向上を図る。	附属図書館	自習室および閲覧席の環境改善に関する意見は、各館カウンターで随時受け付けている。 末広図書館では利用者より、空調・室内温度に関する意見(冬季寒い)があり、業者に設定の変更を依頼した。また、末広図書館では、保健医療学部教員の要望を受け、教員の研究に限って日曜・祝日も9:00～17:00の時間帯に利用できることとした。 粟津図書館ではこまつ未来箱に、「図書室の自習スペースにデスクライトを置いてほしい」と要望があり、貸出用のデスクライトを設置した。	3

中期計画	番号	年度計画	所管部署	業務の実績	自己評価
②将来の社会的・職業的自立に資するキャリア教育を実施するとともに、キャリアサポートセンター等によるキャリア形成支援を行う。	Ⅱ-1-29	就職ガイダンスや業界研究セミナーなど、必要なキャリア支援プログラムや学生相談を実施する。	キャリアサポートセンター	[セミナー、ガイダンス等の開催] ・キャリアデザインセミナー （保健1年生80名）キャリアデザインチーム論で実施　4/20 （国際1年生80名）キャリアデザインチーム論で実施　　5/23 （生産1年生80名）テーマ別基礎ゼミで実施　11/28、12/5、12/12、12/19、1/16、1/23 ・就職ガイダンス 4/26　進学就職ガイダンス　対象：生産3年生 5/10　就職・インターンシップガイダンス　対象：国際3年生 6/14　第１回就職ガイダンス　対象：保健3年生 8/25　第２回就職ガイダンス　対象：看護3年生 2/15　第３回就職ガイダンス　対象：看護3年生 ・10/9　就職活動丸ごと体験実践型セミナー　対象：学部3年生、修士1年生 参加者：96名（生産40名、国際55名、修士1名） 業界研究、現役採用担当者による面接・グループディスカッション指導等 【参加企業】10社 ・面接特訓セミナー すべての面接スタイルを攻略するため、実践を通した面接を練習した。 12/15　参加者：　7名（生産3名、国際4名） 1/10　参加者：　9名（生産4名、国際5名） 2/14　参加者：　9名（生産4名、国際5名） 2/21　参加者：10名（生産4名、看護2名、国際3名、修士1名） 2/28　参加者：10名（生産2名、国際8名） 3/ 6　参加者：　8名（生産3名、国際5名） 3/13　参加者：　9名（生産4名、国際4名、修士1名） 3/27　参加者：　5名（生産1名、看護3名、国際1名） ・面接練習会 中央キャンパス 〈初級編〉4/3、4/5、4/18、5/8、3/5、3/7、3/11、3/14、3/15 参加者：計24名 〈中級編〉4/3、4/4、4/5、4/18、4/20、4/21、5/8、3/5、3/7、3/11、3/12、3/15 参加者：計22名 〈上級編〉4/3、4/4、4/5、4/18、4/20、4/21、5/8、3/29 参加者：計13名 栗津キャンパス 〈初級編〉4/3、4/5、4/18、5/8、3/5、3/26 参加者：計12名 〈中級編〉4/3、4/4、4/5、4/18、4/20、4/21、5/8、3/6、3/12、3/27 参加者：計18名	5

中期計画	番号	年度計画	所管部署	業務の実績	自己評価
				・金沢大学附属病院応募者のための面接練習会 対象：看護学科３年生 面接対策①　6/ 9 参加者： 7名 面接対策②　6/16 参加者：10名 ・SPI試験対策講座〔オンライン〕 民間企業の採用試験において課されることが多いSPI適性検査を突破できるよう基礎から徹底的に学習 対象：学部３年生、修士１年生 講義：10/11、18、25 参加者：66名（生産16名、臨床3名、国際46名、修士1名） ・就活証明写真撮影会 対象：学部３年生 12/18　参加者：23名（生産7名、看護8名、国際8名） 12/22　参加者：20名（生産1名、国際19名） 12/27　参加者：23名（生産7名、看護1名、国際15名） ・インターンシップ事前研修（全8回） 対象：3年生　参加者合計143名 7/5（24名）、7/7（24名）、7/12（24名）、7/14（14名）、 7/19（24名）、7/21（23名）、7/26（16名）、8/4（8名） ・第37回いしかわ情報システムフェア「e-messe kanazawa 2023」 5/26　参加者37名 ・MEX金沢2023（第59回機械工業見本市金沢） 5/19　参加者37名 ・企業見学 対象：学部３年生 10/17　大阪税関小松空港出張所　参加者：15名（生産2名、国際10名） 10/18　㈱トランテックス　参加者： 2名（生産1名、国際1名） 11/29　コマツNTC㈱　参加者： 9名（生産8名、国際1名） 12/6　㈱別川製作所　参加者： 5名（生産4名、修士1名） 12/13　㈱ソディック　参加者： 5名（生産4名、修士1名） 12/20　小松マテーレ㈱　参加者：10名（生産5名、国際5名）	

中期計画	番号	年度計画	所管部署	業務の実績	自己評価
				・公務員講座フォロー講座 9/11、12、19、20　参加者：3名（生産2名、国際1名） ・公務員合格報告会 公務員内定者の4年生から合格体験談や試験勉強方法などを聞いた。 11/22　参加者：10名（生産1名、国際9名） ・公務員ガイダンス 公務員の種類、職務内容、試験内容の紹介、石川県庁の業務説明 5/17　参加者：32名（生産4名、保健1名、国際27名） ・公務員模試 3/4 参加者：5名（生産1名、国際4名） ・業界研究会 採用実績や協力企業、学生のニーズ等を多角的に判断し厳選した企業計58社が参加 日時　　：2/19、20 場所　　：中央キャンパス 参加企業：2/19　30社 2/20　28社 参加者　：2/19 109名（生産41名、看護1名、臨床2名、国際62名、修士3名） 2/20　97名（生産34名、看護1名、国際58名、修士4名） ・公立小松大学就職支援ブックの作成と配布 ㈱ディスコに依頼し、本学用就職支援ブックを作成。3年生全員に配布。	
	Ⅱ-1-30	新型コロナウイルス感染症による就職活動への影響や活動スケジュール等の変更を注視し、就職活動を行う学生が不利益を被らないよう支援する。	キャリアサポートセンター	・業界別内定者交流会 業界ごとに少人数制で開催。先輩から就活の苦労話や就活裏話などを聞いた。 6/23　金融　参加者：2名（国際2名） 6/29　建設機械　参加者：5名（国際5名） 7/ 4　航空　参加者：3名（国際3名） 7/ 6　広告・印刷　参加者：4名（国際4名） 7/13　パーテーション　参加者：5名（国際5名） 7/20　公務員　参加者：6名（国際6名） 11/21　自動車・鉄道　参加者：4名（生産4名） 1/23　情報通信機械器具　参加者：6名（生産5名、国際1名）	4

中期計画	番号	年度計画	所管部署	業務の実績	自己評価
	Ⅱ-1-31	各学部のセンター会議委員及び就職支援担当教員等が、就職先となる企業、医療機関、各種団体との関係づくりを促進し、積極的な情報提供及び情報交換を行う。	キャリアサポートセンター、各学部	生産システム科学科では、就職担当教員のもとに来学した企業に対し、大学案内を基に本学の説明を行い、学外技術体験実習先や協力企業への参画を依頼した。学生の就職先となった企業に対しては、採用いただいた御礼とともに企業説明会の開催等の情報を案内し、関係構築に努めた。 看護学科では、学生の履歴書作成のサポートに早期に取組、就職ガイダンスをキャリアサポートセンターと連携して実施した。また、キャリアサポートセンター委員と担任が中心となり、学生の就職活動の支援、就職先機関の来学時の対応を行った。就職先となる機関との関係づくり、採用の情報収集、卒業生の状況把握に努めている。 臨床工学科では、学生の臨床実習先の病院や非常勤講師の医療従事者との良好な関係を維持するように努めるとともに、卒業生が入職した医療機関との良好な関係づくりに努めた。また、金沢市および福井県の医療施設の臨床工学技士長（日本臨床工学技士会常任理事、石川県臨床工学技士会長）との良好な関係づくりに努め、学生の就職活動に有益な情報の提供と交換ができる環境を整えた。 国際文化交流学科では、キャリアセミナーの定期的開催に加え、学科教員が地元企業・行政組織を中心に各団体との連携を図り、インターンシップの場を学生に提供している。今年度は、12企業・団体をインターンシップとして紹介し、40～50名の学生が参加した。その他、キャリアサポートセンターを通じた地元企業や行政との連携、石川県ジョブカフェとも協力し、40社以上との連携を行った。 キャリアサポートセンターでは、キャリアサポートセンター会議の開催、地域企業、機関、団体との交流を通じて積極的な情報共有・情報交換に務めた。 ・キャリアサポートセンター会議 各学科における就職支援方針、体制、計画、状況などを把握し、学年進行に対応した支援プログラム作成指針（テーマ、ねらい）を検討した。 開催実績：4/27、5/25、6/29、7/27、9/28、10/26、12/14、1/25、2/29、3/25 ・地域企業、機関、団体との交流 小松市まちづくり市民財団職員研修 接遇研修　8/3 石川県 大学関係者会議　9/5 シーズ・ニーズマッチングシンポジウム　10/14 ・2024年卒業生　就職率（4/1現在） 全体　99.0%　就職希望者 195名中 193名就職 生産 100.0%　就職希望者　53名中　53名就職 看護 100.0%　就職希望者　49名中　49名就職 臨床　92.3%　就職希望者　26名中　24名就職 国際 100.0%　就職希望者　67名中　67名就職 修士 100.0%　就職希望者　13名中　13名就職	5
	Ⅱ-1-32	「キャリタスUC」を活用し、企業からの求人情報のほか、学生個々の志望・活動状況の蓄積を進め、キャリアサポートセンター、就職支援担当教員等による個別支援の強化に取組む。	キャリアサポートセンター	・キャリアサポートセンター専用LINE開設　登録者113名 ・相談件数 個別相談は対面もしくはオンラインで実施 【中央キャンパス】計1111件 4月：115件、5月：171件、6月：220件、7月：78件、8月：49件、9月：37件、 10月：70件、11月：65件、12月：85件、1月：110件、2月：104件、3月：165件 粟津・末広キャンパス　計538件 4月：68件、5月：60件、6月：99件、7月：34件、8月：3件、10月：26件、 11月：34件、12月：62件、1月：41件、2月：55件、3月：56件	4

中期計画	番号	年度計画	所管部署	業務の実績	自己評価
	Ⅱ-1-33	特に３・４年生へのキャリアサポートとして、キャリアサポートセンターや各学科の就職担当教員だけでなく、全ての教員が、学生の状況把握や支援を連携して行う。	各学部	生産システム科学科において、就職希望者からは就職先、内定の確約書、大学推薦書などに関する相談を受けた。大学院進学希望者からは、学費や奨学金、本学・他大学の入学試験の内容について相談を受け、指導を行った。なお、就職先の決定が遅れた学生に対しては、卒業研究の指導教員やキャリアサポートセンターと連携して指導を行った。 看護学科において、キャリアサポートセンター委員は1名であるが、4年生の担任がキャリアサポート補佐役となり、キャリアサポートセンターとの連携、学生の就職活動の支援、就職先機関来学時の対応を行っている。キャリアサポートセンター委員は教員会議で学科全体に就職活動状況を報告し、必要に応じて全教員で対応を行っている。また、在学生だけでなく卒業生のサポートも実施している。 臨床工学科において学生が複数の医療機関へ同時期に志願できる制度に基づき、キャリアサポートセンター委員及び各教員が学生の就職活動の支援を行っている。また、学生に対して学生自身の希望を第一に考えた就職活動が行えるよう指導している。 国際文化交流学科においては、キャリアサポートセンター委員およびキャリアサポートセンタースタッフが、「卒業研究」担当教員との連携により、学生個別の単位取得状況、生活状況を適宜確認するとともに情報共有を行った。また、4年生に対しては、4月から5月にかけてゼミ（卒業研究）の指導教員と連携し、内定取得状況等を早期に把握できるよう努めた。	4
	Ⅱ-1-34	就職状況に関するデータを収集・蓄積し、就職活動支援に活かすとともに、卒業生へのアフターフォローに着手する。	キャリアサポートセンター、各学部	生産システム科学科では、令和３～５年度の３年間の就職先および内定先のデータを蓄積した。令和３年度の第一期生の就職先は石川県内の企業が多かったが、年度が進むにつれて大企業に就職する者が多くなり、結果として県外の就職先が多くなる傾向がある。 看護学科では、就職状況に関するデータを収集・蓄積し、分析方法について検討を行っている。卒業生の状況把握については、卒業生が来学したり、連絡があった際に担任を中心とした多くの教員が、現状を聴取している。就職した病院を辞め、別の病院等に就職した卒業生もいるため、今後も情報を収集し、支援を行っていく。 臨床工学科では、複数の卒業生と在校生が参加する交流会をオンラインで開催し、卒業生が自身の就職活動の体験や就職後の業務などを在学生に説明した。卒業生へのアフターフォローに関しては、大学関係者との連絡が途絶えてしまう卒業生もいることから、卒業後の支援が困難になることがある。この問題の解決策を検討していく。 国際文化交流学科では、相談のあった卒業生に対しては、キャリアサポートセンターと連携し、転職支援等必要な支援を行っている。また、特に地元企業に就職した卒業生を中心に、在学生向けのセミナーを開催している。卒業後の離職状況については、キャリアサポートセンター、指導教員を通じて個別に情報収集を行っている。 キャリアサポートセンターでは、キャリタスUCを活用し、就職活動情報を収集している。また、卒業生へのアフターフォローについては、卒業後３年間の相談対応を行っている。 ・キャリタスUCによる就職活動情報の収集 就職活動報告書178件、進路決定届200件（2024年3月卒業生：249名） ・既卒者に対する個別相談　中央キャンパス　計2件	4

中期計画	番号	年度計画	所管部署	業務の実績	自己評価
③地域の連携･協力を得て、インターンシップや学外実習等を実施するほか、課外活動を含む学生生活の充実を図る。	Ⅱ-1-35	協力企業・機関・施設・団体等を幅広く募り、教育・研究・社会連携・大学運営にかかる、多様な連携協力のための体制を拡大する。	地域連携推進センター	協力企業等の依頼を継続し、連携体制の強化を図るとともに、協力企業等への定期的な情報発信や大学主催のシーズ・ニーズマッチングシンポジウムの開催を通して地域や企業のニーズとのマッチング機会を増やした。 ①協力企業との連携強化 ［連携協力体制］ ・協力企業等　累計392件（実数385件）　※R4年度：累計375件 （累計内訳　石川県：237、福井県：72、富山県：63、その他：18、海外：2） ［協力企業への情報発信］ ・３月　令和４年度産官学合同シリコンバレー研修開催案内 ・７月　研究シーズ集2023、大学案内2024 発送 ・９月　シーズ・ニーズマッチングシンポジウム開催案内 ・10月　Tachyon11号、Tachyon Academia3号 発送 ・12月　シリコンバレー研修企画に向けた企業ニーズアンケート ・３月　令和５年度産官学合同シリコンバレー研修開催案内 ③シーズ・ニーズマッチングシンポジウムの開催 ・10/14（土）シーズ・ニーズマッチングシンポジウム2023 全学合同開催（中央キャンパス） 産学共同で進める新たな人材戦略をテーマに実施。 参加者数：170名（企業：32社45名 、学生125名） 【プログラム】 ・特別講演① 「コマツのサステナビリティ推進と人材育成」 株式会社小松製作所取締役兼常務執行役員　横本 美津子　氏（本学アドバイザリー・フェロー） ・特別講演② 「企業が求める人材像」 株式会社PFU取締役執行役員常務/CTO(最高技術責任者) 宮内 康範　氏 ・協力企業の発表 「事業紹介及び求める人材像」　参加協力企業16社による発表 ・交流会 協力企業と大学(学生・教職員)との交流	5

中期計画	番号	年度計画	所管部署	業務の実績	自己評価
	Ⅱ-1-36	インターンシップや学外実習先の確保を進めるとともに、実習テーマ、実施体制等の具体的な内容について調整を行い、授業計画や到達目標に沿った活動とするための環境を整える。また、実施に当たって担当教員は、実習先の指導者と緊密に連携を図り、実習効果が上がる環境調整を行う。	各学部	生産システム科学科では、「学外技術体験実習」において、本学の協力企業をはじめとする40社の企業に学生83名を派遣し、5日間のインターンシップを実施した。実習終了後、学生からの報告書と受け入れ企業からの状況報告書をもとに実習状況の把握・評価を行った。また、実習期間中の学生の状況調査や実習受け入れの御礼のために教員が企業に訪問し、受け入れ企業との関係構築を図った。 看護学科においては、新型コロナウイルス感染症による影響がほとんどなくなり、臨地実習が可能となった。実習指導者と連携の上、感染状況を確認しながら教育課程のコアとなる臨地実習の機会を増やすことが出来た。 臨床工学科においては、実習担当教員を昨年度から6名増員し、8名でチームとして稼働できる体制を整えた。また、実習先病院として、石川県立中央病院が新たに加わり、2023年度の前期に6名の学生が実習を行った。さらに、国立循環器病センターと東京女子医科大学附属病院を新たな実習先として開拓し、来年度の学生の受け入れが決定している。 国際文化交流学科においては、「地域実習」では、40名の学生がが小松市、能美市、加賀市を含めた、行政・民間団体との連携により未来型図書館づくり、芸術・工芸、里山活性、環境保護などの５つのプログラムに取り組んだ。「インターンシップ」では、地元事業者からの協力もあり、夏期休暇中に半数以上の学生が地域の事業者で就業体験を行った。	4
	Ⅱ-1-37	国際・地域課題を直接観察するため、フィールドワークを通じたケーススタディやインターンシップを積極的に実施する。円滑な実施にあたり、担当教員らが行政や地域企業等との連携を密にする。	研究科	生産システム科学専攻において、４名が計１１社の短期インターンシップに参加した。また、１名が地元企業２社との共同研究の打ち合わせに参加した。 また、現状長期インターンシップ参加者はおらず、共同研究を進めるにあたり企業に長期滞在して研究を実施するようなテーマの設定を今後検討していく。 ヘルスケアシステム科学専攻において、北陸3県に加えて大学院生の出身地域の医療施設におけるインターンシップの開催状況の情報の収集、提供に努めた。インターンシップ参加者はいなかったが、大学病院の見学や臨床工学技士として働いている方との面談の機会を持つことができた。 今後は、看護師の資格を持つ教員が共同研究を行っている医療施設への学生のインターンシップの依頼等を検討する。 グローカル文化学専攻において、一部の授業では地域の施設へのフィールドワークも取り入れている。企業インターンシップへの参加者は現状いないが、適宜相談・情報の提供を行っている。 なお、主任指導および副指導教員らによる修士学生へのフィールドワークの指導や、個別の事例として、地元小松市在住のインドネシア人に複数回聞き取り調査（フィールドワーク）を行なった。 海外からの留学生が多く、意向調査や相談については積極的に場を設け、状況把握を行っていく必要がある。	4
	Ⅱ-1-38	国際情勢と研修地域の安全面に十分配慮した上で、カンボジア国立アンコール遺跡整備公団での海外インターンシップを実施する。	国際交流センター	今年度は全学部2年生以上および大学院生を対象に募集を行ったところ、10名の学生から応募があり、５名の学生が本インターンシップに参加した。 なお、今後はこれまでの実績を振り返りつつ、より本学オリジナルのインターンシップとなるよう改善を行うため、次年度の実施は見送り、再来年度から新形式での実施を検討している。 2023/9/4～9/17 参加学生：5名（国際文化交流学部2年生、3年生、4年生） 在カンボジア日本大使館の「日カンボジア友好70周年記念事業」及び「日ASEAN友好協力50周年記念事業」に認定された。 2024/1/29 アンコール遺跡整備公団インターンシップ報告会 2024/2/29 アンコール遺跡整備公団インターンシップ報告書完成	4

中期計画	番号	年度計画	所管部署	業務の実績	自己評価
	Ⅱ-1-39	地域行事への学生参加を支援する。 　産官学合同シリコンバレー研修を実施し、地域の活性化に資するプロジェクト企画への発展を試みる。	地域連携推進センター	［地域行事への参加］ ①５/13（土）お旅まつり　曳山行列曳き手体験 　小松市が主催するお旅まつり曳山行列曳き手体験に参加予定であったが、雨天のため中止となった。 　参加予定学生異数：15名（うち留学生４名）※雨天中止のため未実施 ②10/7（土）　どんどんまつり　あんどん行列 　国際交流センター公認サークルKOMAFriend（コマフレンド）のメンバーを中心に本学学生及び留学生が参加した。また、本学学長・副学長も学生とともに参加し、地域との交流を図った。 　参加学生数：18名(うち留学生7名) ［産官学合同シリコンバレー研修］ ①特別講座（PBL）「グローバル人材と持続的開発プロジェクト」 　産学合同シリコンバレー研修の事前学習として、問題分析及び解決方法のスキルの向上を目的に、国際交流センターの岸本特任教授及び桝本特任教授による特別講座（全8回）を行った。企業参加者も講義に参加し、産学合同シリコンバレー研修に向けたワークショップを行った。 ②産官学合同シリコンバレー研修 　米国シリコンバレーオフィスを拠点に学生と企業人を派遣して実施してきた本研修に、今年度より小松市が参加者として新たに加わり、「産官学合同シリコンバレー研修」と名称を改めて実施した。企業・小松市からの参加者と学生が、シリコンバレーの最新動向に触れつつ、現地でのグループワークを通した課題解決型学習に取り組んだ。 　また、本学学長と小松市長が本研修に同行し、現地オフィスでの情報交換やフィールドワークを通して産官学の連携推進を図った。 　また、学生への支援として小松市から参加学生に対して1人あたり10万円の補助金を支給いただいた。 期　間：8/20～8/25（5泊7日） 場　所：シリコンバレー（アメリカ カリフォルニア州） 参加者：学生12名、企業参加者5名（うち小松市役所職員1名）、随行教職員4名 研修への同行：宮橋小松市長、山本学長、小松市随行職員1名 ③成果報告会 　9/28（木）「産官学合同シリコンバレー研修」成果報告会 　シリコンバレー研修に参加した学生12名が、４つのグループごとに行政や企業の課題に対する解決策の提案や現地での活動を通しての気づきや学びなど、研修で得た成果を発表した。 　報告会には、企業・小松市からの参加者４名と研修に同行いただいた宮橋小松市長にご出席いただいたほか、学内の教職員、学生が聴講した。 ＜成果報告会　次第＞ ・開会あいさつ（宮橋勝栄小松市長、山本博学長） ・研修の概略（上田芳弘 地域連携推進センター長） ・課題研究の成果発表（４グループ） ・閉会あいさつ（横川善正副学長）	4

(5) 地域の教育機関との連携

中期目標	地域の教育機関等と連携し、望ましい高大接続のあり方に向けた改革を行う。また、地域の小学校・中学校・高等学校等との連携・協力により、子どもたちの教育の充実を支援する。 社会の諸問題を解決し、また、教員・学生の質の向上を図るため、経費等につき十分検証しながら、大学院設置の可能性を追求する。

中期計画	番号	年度計画	所管部署	業務の実績	自己評価
1　教育に関する目標を達成するための措置　ー　(5) 地域の教育機関との連携と大学院					
①地域の教育機関等と連携し、望ましい高大接続のモデルを策定する。 ②地域の小学校・中学校・高等学校等との連携・協力により、子どもたちの教育の充実を支援する。	Ⅱ-1-40	高大接続のモデル策定に向けた検討を継続すると同時に一部試行する。	教育企画委員会	小松市立高校と高大連携事業の基本方針について、協議を進めるとともに、４学科の教員が全4回高大連携授業を実施した。 ・小松市立高校高大連携クラスにて本学教員が授業を実施。 ①７月６日（木） 担当：坂本一磨助教（生産） 分野：データサイエンス ②７月７日（金） 担当：髙木祐介教授（看護） 分野：運動生理学、スポーツ栄養学 ③11月８日（水） 担当：鈴木郁斗助教（臨床） 分野：生体医工学 ④11月17日（金） 担当：朝倉由希准教授（国際） 分野：文化政策	3
	Ⅱ-1-41	地域の高等学校等と連携して教育プログラムを実施する。	教育企画委員会	サイエンスヒルズこまつにて、大学の紹介展示をはじめ、小学生の自由研究相談や、夏休み体験教室の実施、イベントへの教員の参加によって、地域の小学生や中学生の教育の充実を支援した。 ●大学紹介展示を更新 学部紹介、研究者紹介など ９月　生産：粕谷准教授、史准教授 看護：上田准教授 臨床：山岡禎教授 国際：西村教授 ３月　生産：酒井教授、上野助教 臨床：山田准教授 国際：清准教授 ●自由研究相談 7/22（土）　生産：村山教授、臨床：鈴木助教 7/23（日）　生産：池田准教授、国際：清准教授 ●夏休み体験教室 7/29（土）　臨床：李教授 8/10（金）　生産：梶原准教授 ●サイエンス・フェスタ2023 12/10(土)　生産：坂本助教	4

(6) 社会人教育

中期目標	身近な学びの拠点として、社会人教育プログラム、市民公開講座等を実施するとともに、附属図書館、英語カフェ等の施設の市民利用を図り、地域の人びとが学びに触れ、自らを豊かにする場を創出する。

中期計画	番号	年度計画	所管部署	業務の実績	自己評価
1　教育に関する目標を達成するための措置　－　(6) 社会人教育					
①社会人教育プログラム、市民公開講座等を実施する。	Ⅱ-1-42	社会人教育プログラムを実施する。社会の環境変化やニーズに対応したプログラムを検討する。	地域連携推進センター	(1)ものづくり人材スキルアッププログラム ものづくり企業の従業員を対象とした実践的教育プログラムを実施し、年間42名が受講した。 A：生産管理技術、B：工場経営管理、総合：A+B 【前期】5/15～9/1開催 総合：2名　A：2名　B：3名　選択A：7名　選択B：8名　合計22名 【後期】10/16～1/26開催 総合：1名　A：2名　B：5名　選択A：5名　選択B：7名　合計20名 (2)品質管理検定受験対策講座 【前期】3級受験対策　8人受講（うち、遠隔受講6名） 【後期】未実施 受講生募集については、講師１名と受講生募集業務委託を締結し、会社訪問によるプログラムのPRなど積極的に募集を行った。	4
	Ⅱ-1-43	学内のシーズ・ニーズと産業界のニーズ・シーズのマッチングを図るシンポジウムを開催する。	地域連携推進センター	（１）シーズ・ニーズマッチングシンポジウムの開催 10月14日（土）13時00分～17時00分　中央キャンパス3階 参加者：170人（企業32社45名、学生125名） ＜特別講演＞ 講演①「コマツのサステナビリティ推進と人材育成」 ㈱小松製作所　取締役兼常務執行役員　横本 美津子　氏（本学アドバイザリー・フェロー） 講演②「企業が求める人材像」 ㈱PFU　取締役執行役員常務/CTO(最高技術責任者) 宮内 康範　氏 ＜協力企業の発表＞ 「事業紹介及び求める人材像」（協力企業16社が発表） ＜交流会＞ 協力企業と大学(学生・教職員)との交流	4

中期計画	番号	年度計画	所管部署	業務の実績	自己評価
	Ⅱ-1-44	小松市と連携し、こまつ市民大学を開催する。地域ニーズ等を踏まえて講座内容等の見直しを行う。	地域連携推進センター	「こまつ市民大学」は地域連携推進センター長が運営委員として参画し、開講する多くの講座の講師を本学教員が務めている。ものづくり、健康、語学、国際情勢など、本学の特徴を生かした多彩な内容となり、また、昨年度に引き続き講義多くのは、本学中央キャンパスを会場とした。 ①講義の開催 ・第5期講座（4月～8月）※本学教員が担当したもの 講座数：2　講師数（延べ）：7人　会場：公立小松大学中央キャンパス 「お口の健康」受講生：６名 「世界の都市を歩く」受講生：30名 ・第6期講座（9月～3月）※本学教員が担当したもの 講座数：4 講師数(延べ)：10人　会場：公立小松大学中央キャンパス 「公立小松大学学長・副学長特別講座」受講生：19名 「楽しく学ぶクラシック音楽講座」受講生：25名 「人生の最終段階を考える大切さ～最期まで自分らしく生きるために～」受講生：24名 「大学教員から聴く！からだと健康・医療のアレコレ耳より講座」受講生：16名 ②運営委員会 5/31（水）　第8回運営委員会 第6期事業計画及び令和5年度予算案の審議	4
②附属図書館、英語カフェ等の施設の市民利用を図る。	Ⅱ-1-45	地域住民等に向けて、本学の運営に支障のない範囲で各キャンパスの附属図書館を開放する。	附属図書館、総務課	各キャンパスの附属図書館については、前年度から継続して学外者の入館を制限しているが、オープンキャンパスや入学宣誓式に併せて参加者や来学者に図書館を公開している。 ・４月２日　入学宣誓式 中央キャンパス　公開 ・７月15日　オープンキャンパス 各キャンパス　公開 オープンキャンパス参加者に向けた企画展示を実施 また、相互貸借サービスを通し、地域住民へ最寄りの図書館を窓口に、附属図書館の資料を提供している。令和5年度は「石川県図書館情報ネットワーク」参加館の依頼に対応し53冊を貸出した。	3

中期計画	番号	年度計画	所管部署	業務の実績	自己評価
	Ⅱ-1-46	小松市・小松市国際交流協会と連携し、英語カフェにおいて国際交流プログラムを定期的に開催する。	国際交流センター	①英会話カフェの開催 　小松市・小松市国際交流協会と連携し、英会話カフェを実施した。参加者は、小松市国際交流協会会員、小松市国際交流ボランティア、本学学生、および高校生等。 （開催日および参加学生数） 開催日　　5/23, 5/29, 6/13, 6/27, 7/13, 8/10, 9/12,10/12,10/31,12/21,1/9,1/22,2/8,3/14 参加学生　40名 ②中国語カフェの開催 　中国、台湾からの交換留学生および大学院生が講師となり、中国語カフェを実施した。 （開催日および参加学生数） 開催日　　5/10, 5/24, 6/21, 7/5 参加学生　26名 ③海外文化体験の開催 　国際交流センター公認サークルKOMAFriendを立上げ、山中温泉街歩きツアーなど学生たちが主体的に留学生との交流活動を実施した。また、英会話カフェの応用編として、「TabiするKitchen」と題し、小松市国際交流員や小松市内のALTが講師となり、本学の学生限定で料理を通した交流活動を行った。その他、市内で生け花教室を運営する方を講師に迎え、留学生を対象とした生け花教室を実施した。 ・2023/7/8　　山中温泉街歩きツアー　参加学生：15名 ・2023/7/9　　浴衣着付け体験　　参加学生：10名 ・2023/7/15　TabiするKitchen（オーストラリア編）　参加学生：9名 ・2023/7/19　TabiするKitchen（ロシア編）　　参加学生：9名 ・2023/9/23　TabiするKitchen（シンガポール編）　参加学生：9名 ・2024/2/17　TabiするKitchen（メキシコ編）　　参加学生：2名 ・2023/11/30　生け花教室①　　参加学生：5名 ・2023/12/6　生け花教室②　　参加学生：6名 ・2023/1/17　生け花教室③　　参加学生：5名 ・2023/2/7　　生け花教室④　　参加学生：5名	4
	Ⅱ-1-47	大学施設の効率的・効果的な運用・管理を図り、本学の運営に支障のない範囲で大学施設の市民利用を推進する。	財務課	こまつ市民大学の実施など本学の運営に支障のない範囲で大学施設の貸付を行った。 ［施設貸付の実績］ ・粟津キャンパス　177件（うち148件は運動場、19件は体育館の利用） ・中央キャンパス　28件（うち26件はこまつ市民大学） ・末広キャンパス　0件 総計　205件 （年度計画目標値　25件）	3

２　研究に関する目標

(1) オリジナルな研究の推進

中期目標	南加賀の研究拠点として、特色ある基礎研究、応用研究、学際研究、分野融合型研究に取り組み、発明・発見と新たな学術分野の開拓に努めるとともに、成果を世界に発信する。併せて、地域が抱える課題解決や住みよさ向上等のニーズに応じた研究を組織的に推進する。

中期計画	番号	年度計画	所管部署	業務の実績	自己評価
２　研究に関する目標を達成するための措置　－　(1) オリジナルな研究の推進					
①南加賀の研究拠点として、特色ある基礎研究、応用研究に取組、発明・発見と新たな学術分野の開拓に努めるとともに、成果を世界に発信する。	Ⅱ-2-1	学部学科、研究科専攻の研究内容や研究計画を踏まえ、研究機器の整備、各種規程やガイドラインの制定、研修の実施及び研究に関する審査委員会の開催等、ソフト・ハードの両面における研究環境の向上に努める。 研究活動の活発化に伴い、安全な研究環境を実現するため、規程等遵守に努める。	研究・社会連携委員会	［研修］ ・日本学術振興会研究倫理eラーニングの実施 対象：新規採用教員10名 実施期間：7/3～7/31 受講後、競争的研究費等の管理に係る誓約書の提出を求め、事務局に提出 （令和6年度より研究倫理eラーニングは全教員毎年実施することとする） ［各種規程・ガイドラインの制定］ ・所持薬品の調査の実施（4月）【新規】 全教員を対象に薬品の使用および研究室における所持薬品の調査を実施 有機溶剤、特定化学物質等を所持する教員に関しては特殊検診を実施（保健管理センター管轄） ・生産システム科学科　有機溶剤：2件、特定化学物質：4件 ・臨床工学科　有機溶剤：2件、特定化学物質：3件 ・作業環境測定の実施【新規】 労働安全衛生法に則り特化物（第2類）を使用している研究室等の作業環境測定を実施 1回目（9/14） 特定化学物質（第2類）を使用している研究室・実習室を対象に作業環境測定を実施→「適切」 【対象研究室・実習室】 ・末広キャンパス生理学実習室 ・粟津キャンパス先進生産工学研究室 2回目（2/16） 特定化学物質（第2類）を使用している研究室・実習室を対象に作業環境測定を実施→「適切」 【対象研究室・実習室】 ・末広キャンパス生理学実習室 ・粟津キャンパス先進生産工学研究室 ・技術コンサルティング制度の整備【新規】 地域企業との連携の一つとして、技術的な相談に応じることを目的に開設。 コンサルティングの後、研究の対象となる場合には受託研究・共同研究に移行させることを想定。 ［各種委員会］ ・研究・社会連携委員会の開催 定例会議：毎月第1水曜日16:00～ 令和5年度開催実績　15回（うち、書面開催3回） ・審査委員会の開催 ・人を対象とする医学系研究倫理審査委員会：16回（うち、通常審査2回） ・動物実験審査委員会：5回 審査実績 ・人を対象とする医学系研究倫理審査：23件 ・利益相反審査：3件 ・遺伝子組み換え実験審査：0件（該当なし） ・動物実験審査：5件	4

中期計画	番号	年度計画	所管部署	業務の実績	自己評価
	Ⅱ-2-2	重点研究「つよみ」の助成等により、生産システム科学・看護学・臨床工学・国際文化学の複数の分野にまたがる本学ならではの教学上の「つよみ」の候補となる共同研究を支援する。 「研究発展・向上費」等の活用により、各学部学科が特色ある研究の支援を図る。	研究・社会連携委員会	［重点研究「つよみ」］ 分野横断型の研究であること、複数人の研究グループであることを要件とした「公立小松大学重点研究『つよみ』」を今年度も公募し、2件の応募があった。本事業では、本学ならではの「つよみ」の候補となる研究の支援を行う。選考委員会による審査の結果、1件の研究グループが採択された。 ・研究期間：2年間 ・助成金額：総額300万円～500万円 ・支援概要 支援金額：1研究計画につき総額300万円～500万円 研究期間：2年間 採択件数：新規 1件程度／年 ・令和5年度採択研究 研究グループ： 臨床 橋本教授（研究代表者） 臨床 李教授 生産 梶原准教授 研究課題： 「歩行回復を目指すブレイン・マシン・インタフェースシステムの開発」 ○11/20　公立小松大学重点研究「みらい」研究成果報告会実施（11月Salon de Kにおいて） 報告者：重点研究「みらい」令和3年度採択者 ・看護　片山講師　「ストレングスモデルを活用した教育効果と関連する波及効果」 ・生産　坂本助教　「WebデータとSNSの投稿を用いて自動生成した文章を活用した ユーザの属性推定に関する研究」 ・臨床　鈴木助教　「採血不要なポータブル血液多成分計測システムの開発」 ・国際　朝倉准教授「自然環境と文化の結びつきに関する研究 ～小松市内の里山をフィールドとして～」 学長、副学長のほか教員4名が対面で参加し、19名の教員がオンラインで参加した。 ［研究発展・向上費］ 各学科の裁量で使用することができる研究助成金（上限50万円／学科）として設定し、個別研究テーマについて支援した。 ・各学科研究テーマ 生産システム科学科　山下幸三准教授 「静電界計測に基づいた雷雲監視IoT システムの開発」 看護学科　津田裕子助教 「革新的な観察手技によるおむつ内皮膚障害のアセスメントツールの開発と検証」 臨床工学科　山岡禎久教授 「生体深部観察のための光音響イメージング技術の開発」 国際文化交流学科　清剛治准教授 「地方地域の産業創生に資するイノベーションシステムの研究」	4

中期計画	番号	年度計画	所管部署	業務の実績	自己評価
	Ⅱ-2-3	複合・融合領域の研究を誘起するため、学部横断型の研究会を定期的に開催し、大学院生を含めた研究者交流を図る。	研究・社会連携委員会、研究科	学内交流会「Salon de K」は、令和3年度より事務局主体の運営から方針を変更し、各学科から教員2名を運営部会員として任命し、運営部会を組織して運営を行った。参加者は全教員を対象とし、月1回程度の定期開催とした。（※すべて対面とオンラインによるハイブリッド開催） ［開催実績］ 7/26　生産 細川教授「潤滑性と耐熱性を兼ね備えたPVDコーティング工具の開発」 8/24　看護 伊藤教授「細菌学の実験手技を看護にとりこんだ経過と成果」 8/29　Limerick大学 Vynnycky教授「Dissolution of solid particles 」 9/14　臨床 藤田准教授「人工知能の現状」 10/27 国際 劉教授「中国語発音教育の理念と音読について」 11/20 公立小松大学重点研究「みらい」研究成果報告会（再掲） ・看護 片山講師「ストレングスモデルを活用した教育効果と関連する波及効果」 ・生産 坂本助教「WebデータとSNSの投稿を用いて自動生成した文章を活用した ユーザの属性推定に関する研究」 ・臨床 鈴木助教「採血不要なポータブル血液多成分計測システムの開発」 ・国際 朝倉准教授「自然環境と文化の結びつきに関する研究 ～小松市内の里山をフィールドとして～」 12/4　東京工業大学 火原教授「マイクロ流体を用いる化学・バイオ分析法」 12/22 大学院生 山本さん「Image-to-Textと共起行列を用いた道路の生成画像の自動評価」 河村さん「人工汗液サンプルにおけるカチオン濃度推定手法の検討」 竹内さん「スキーと見なしたガラス板に対する雪の押し込み試験」 1/22　看護 髙木教授「キリマンジャロから始まる私の運動生理学・スポーツ栄養学」 2/14　信州大学 鈴木准教授「量子の世界の酔っ払い」 3/4　旭川医科大学 井上准教授「フレキシブルセンサによる生体情報計測」 実験動物中央研究所 圦本主任「実験動物コモンマーモセットの紹介、マーモセット家族を対象とした非侵襲行動解析装置の開発」 実験動物中央研究所 関布主任「マーモセットにおける聴覚刺激による awake functional MRI」 大阪工業大学 平郡准教授「非化学量論組成を持つfulleridesの空間・時間反転対称性」 3/22　大学院生 ナスルッラーさん「日本における技能実習生問題と課題解決に向けた考察 ーインドネシア人技能実習生へのインタビュー調査を基に」 開催回数合計：12回　（令和4年度開催回数：8回）	4
	Ⅱ-2-4	論文・著書の発表や国際シンポジウム等での発表を奨励するとともに、ＩＲの一環としてこれらの実績の把握・とりまとめを行う。	研究・社会連携委員会	上半期、下半期の年2回、教員の研究業績の取りまとめを行った。令和5年度も昨年度に引き続きいずれの項目においても中期計画の目標値を上回った。 ［研究関連業績］ ・学会報告　：213件（完成年度目標値：100件）R4年度：204件 ・学術論文　：109編（完成年度目標値：70編）R4年度：117編 （うち外国語論文：79編（完成年度目標値：30編）R4年度：87編） ・著　書　：17編（完成年度目標値：5編）R4年度：19編 ・共同研究･受託研究数：17件（完成年度目標値：10件）R4年度：14件	4

中期計画	番号	年度計画	所管部署	業務の実績	自己評価
	Ⅱ-2-5	研究活動を広く市民に還元するため、市民公開フォーラムを開催する。	研究・社会連携委員会	令和5年4月に新たに開設した「次世代考古学研究センター」による、マヤ文明世界遺産研究部門と小松の石文化（日本遺産）研究部門それぞれの視点からの国際貢献と地域貢献の研究成果を、広く市民に発信することを目的に実施。 市民公開フォーラム：「次世代考古学が拓く未来 ～マヤ文明世界遺産における国際貢献と小松の石文化を用いた地域貢献～」 （公立小松大学を支える会共催） 日時：10月29日（日）14時00分～16時00分 場所：サイエンスヒルズこまつ ３Ｄスタジオ 講演：①大学院サステイナブルシステム科学研究科／次世代考古学研究センター 特任助教　小川 雅洋 「マヤ文明世界遺産における次世代考古学研究センターの国際協力」 ②大学院サステイナブルシステム科学研究科／次世代考古学研究センター長 特別招聘教授　中村 誠一 「革新的科学技術が拓く次世代の考古学研究」 ②次世代考古学研究センター 特任准教授　野口 淳 「小松市の文化財と次世代考古学研究センターの取り組み」 来場者：80名（教職員：24名、学生：15名、一般参加：41名）	4
	Ⅱ-2-6	研究活動や成果をホームページや広報誌、プレスリリースを通じて発信する。	広報室	ホームページや大学案内冊子での研究者紹介のページの更新、シーズ集の発行、広報誌Tachyonでの研究者紹介など、本学の研究力を広く地域に発信する新たな取組を行った。 ［ホームページ・大学案内］ 研究者一覧ページの更新（日本語版・英語版） ［研究業績のホームページへの随時掲載］ 7/11　仲田教授（臨床）が日本アンドロロジー学会賞（基礎部門）を受賞 7/25　木村繁男副学長が日本機械学会北陸信越支部から感謝状を授与 12/4　盛永特任教授（大学院）が『安楽死を考えるために』を出版 12/21 李教授（臨床）を責任著者とする、VR環境と定量的運動評価システムを用いた研究内容がScientific Reportsに掲載 1/10　仲田教授（臨床）と井関尚一特任教授を著者とする「ヒト精巣上体頭部における精巣輸出管と精巣上体管の三次元解析」に関する論文がAndrologyに掲載 1/10　朴准教授（生産）を筆頭著者とする「βトランザス近傍での大圧下加工熱処理による純チタンの超微細粒の形成と機械的特性」に関する論文がMaterials Science and Engineering Aに掲載 2/2　上田隆司特任教授(生産）が中日国際超精密加工会議で功労賞を受賞 2/16　朴准教授(生産）を筆頭著者とする論文「高速旋削による中炭素鋼における切削表面の超微細粒の形成メカニズム」がJournal of Manufacturing Processesに掲載	4

中期計画	番号	年度計画	所管部署	業務の実績	自己評価
				［研究シーズ集・研究者要覧2023］ 本学研究者のシーズを掲載した研究シーズ集を毎年度改定し、発行 6月　1,500部　改訂発行（協力企業、高校等へ発送） ［広報紙Tachyonでの研究者紹介］ 11号　上田芳弘教授（生産システム科学科） 12号　橋本泰成教授（臨床工学科） ［広報紙Tachyon Academia］ 広報誌Tachyonの研究版として本学研究者の研究をより詳しく紹介 3号　細川晃教授（生産システム科学科） 「ものづくりを支える 生産工学・精密加工学」 山岡哲二教授（臨床工学科） 「バイオマテリアル研究で新たな医療戦略を拓く」 鍾以江教授（国際文化交流学科） 「日本を研究する、日本研究から学ぶ」 ［YouTubeの活用］ ・ラジオこまつ広報番組「世界に向かって飛び立て！公立小松大学」 出演者写真付き音声データを大学のYouTubeチャンネルにアップ ※ラジオこまつでの放送後随時追加 公開動画数：12本 内訳：①酒井教授（生産）及び生産システム科学科学生、②史准教授及び生産システム科学専攻大学院生、③青松祭実行委員、④生産システム科学科学生、⑤坂本教授（看護）、⑥看護学科学生、⑦橋本教授（臨床）、⑧臨床工学科学生、⑨山岡禎久教授及びヘルスケアシステム科学専攻大学院生、⑩鍾教授（国際）、⑪国際文化交流学科学生、⑫朝倉准教授及びグローカル文化学専攻大学院生	
②地域が抱える問題解決等に資する研究を推進する。	Ⅱ-2-7	個々の教員の研究課題及び卒業研究、修了研究を通して、地域が抱える産業、医療、国際上の問題等発見・解決に向けた研究の醸成を図る。	研究・社会連携委員会、地域連携推進センター	【※Ⅱ-2-2一部再掲】 ［重点研究「つよみ」］ 分野横断型の研究であること、複数人の研究グループであることを要件とした「公立小松大学重点研究『つよみ』」を今年度も公募し、2件の応募があった。本事業では、本学ならではの「つよみ」の候補となる研究の支援を行う。選考委員会による審査の結果、1件の研究グループが採択された。 ・研究期間：2年間 ・助成金額：総額300万円～500万円 ・支援概要 支援金額：1研究計画につき総額300万円～500万円 研究期間：2年間 採択件数：新規 1件程度／年 ・令和5年度採択研究 研究グループ： 臨床 橋本教授（研究代表者） 臨床 李教授 生産 梶原准教授 研究課題： 「歩行回復を目指すブレイン・マシン・インタフェースシステムの開発」 ［共同研究・受託研究］ ・共同研究実施件数　10件（うち南加賀の企業・団体1件） ・受託研究実施件数　 7件（うち南加賀の企業・団体6件）	4

中期計画	番号	年度計画	所管部署	業務の実績	自己評価
				［サイエンスヒルズこまつとの連携］ ・大学紹介展示を更新 学部紹介、研究者紹介など （9月） 生産システム科学科：粕谷准教授、史准教授　　看護学科：上田准教授 臨床工学科：山岡禎教授　　国際文化交流学科：西村教授 （3月）※看護学科は年1回の更新 生産システム科学科：酒井教授、上野助教　　臨床工学科：山田准教授 国際文化交流学科：清准教授 ・「自由研究相談」 7/22（土）　生産システム科学科：村山教授、臨床工学科：鈴木助教 7/23（日）　生産システム科学科：池田准教授、国際文化交流学科：清准教授 ・「夏休み体験教室」 7/29（土）　臨床工学科：李教授 8/10（金）　生産システム科学科：梶原准教授 ・「サイエンス・フェスタ2023」 12/10(土)　生産システム科学科：坂本助教 ［シーズ・ニーズマッチングシンポジウム］【※Ⅱ-1-43再掲】 ・10/14（土）シーズ・ニーズマッチングシンポジウム2023 全学合同開催（中央キャンパス） 産学共同で進める新たな人材戦略をテーマに実施。 参加者数：170名（企業：32社45名 、学生125名） 【プログラム】 ・特別講演① 「コマツのサステナビリティ推進と人材育成」 株式会社小松製作所取締役兼常務執行役員　横本 美津子　氏（本学アドバイザリー・フェロー） ・特別講演② 「企業が求める人材像」 株式会社PFU取締役執行役員常務/CTO(最高技術責任者) 宮内 康範　氏 ・協力企業の発表 「事業紹介及び求める人材像」　参加協力企業16社による発表 ・交流会 協力企業と大学(学生・教職員)との交流	

(2) 共同研究

中期目標	地域における「知の源泉」として研究を活性化させ、地域とともに発展していくため、他大学、企業等と共同研究や受託研究等の産官学連携を推進する。

中期計画	番号	年度計画	所管部署	業務の実績	自己評価
2　研究に関する目標を達成するための措置　－　(2) 共同研究					
地域における「知の源泉」としての役割を果たすため、他大学、企業等と共同研究や受託研究等の産官学連携を推進する。	Ⅱ-2-8	近隣自治体や民間企業等とのネットワークを強化し、共同研究、受託研究の推進に努める。	研究・社会連携委員会、地域連携推進センター	研究関連イベントへの出展、産官学連携担当特任教授（4名）による北陸３県を中心とした企業訪問により、大学と企業や各種団体との関係構築を推進している。また、地域連携推進センターページに技術相談問い合わせフォームにおいて地元企業等からの相談受付体制を整備している。 ［産官学連携担当特任教授］ 4名配置 ・訪問活動実績（協力企業の依頼等）　162件（オンライン含む） ・共同研究獲得実績　1件 ［企業等との連携協力体制］ ・協力企業等　392件　※R4年度：375件 内訳　石川県：237、福井県：72、富山県：63、その他：18、海外：2 ［協力企業への情報発信］ ・4月　産官学合同シリコンバレー研修案内 発送 ・7月　研究シーズ集2023、大学案内2024 発送 ・9月　シーズ・ニーズマッチングシンポジウムのチラシ 発送 ・10月　Tachyon11号、Tachyon Academia3号 発送 ・12月　企業ニーズアンケート（シリコンバレー研修企画に向けて）メール ・3月　産官学合同シリコンバレー研修案内　メール ［共同研究・受託研究］ ・共同研究　：10件　※R4年度:11件 ・受託研究　：7件　※R4年度: 3件 （完成年度目標値：合計10件）	4
	Ⅱ-2-9	本学の研究シーズを外部に継続的に発信するとともに、他大学、企業や各種団体、自治体等との各種プロジェクト活動を推進する。 若手教員の萌芽的研究や学部学生の卒業研究、大学院学生の修了研究からの共同研究やシーズ育成の可能性を追求する。	研究・社会連携委員会、地域連携推進センター	「シーズ・ニーズマッチングシンポジウム」の開催などにより、地域課題解決に向けた連携協力体制の構築の強化を図った。また、産学官連携イベントへの出展や広報媒体による発信も積極的に行い、研究シーズの発信や地域連連携推進センターの活動をPRした。 ［研究シーズの発信］ ●シーズ・ニーズマッチングシンポジウムの開催 10/14（土）13時00分～17時00分 参加者：170名（企業：32社 45名 、学生125名） 産学共同で進める新たな人材戦略をテーマに実施 ※詳細は、Ⅱ-1-43参照 ●研究シーズ集・研究者要覧2023　※毎年度更新予定 6月　1,500部　改訂発行　協力企業、高校等への発送 ●広報誌Tachyon Academia 9月　3号　3,500部発行 協力企業、高校等への発送 細川教授（生産）、山岡哲二教授（臨床）、鍾教授（国際）の紹介 ●広報誌Tachyon 9月　11号 3,500部発行　研究者紹介：上田芳弘教授（生産システム科学科） 3月　12号 3,500部発行　研究者紹介：橋本泰成教授（臨床工学科）	4

中期計画	番号	年度計画	所管部署	業務の実績	自己評価
				［産学官連携イベントへの出展］ ●MEX金沢2023 5/18（木）～20（土） 石川産業展示館 出展：細川教授、粕谷准教授、朴准教授、山下准教授（生産システム科学科） ●e-messe kanazawa 5/26（金）～27（土） 石川産業展示館 出展：梶原准教授（生産システム科学科） ●北陸技術交流テクノフェア 10/19（木）～20（金） 福井産業会館 出展：佐藤准教授（臨床工学科） ●T-Messe2023 10/26（木）～28（土） 福井産業会館 出展：上野助教（生産システム科学科） ●Matching HUB Hokuriku 11/10（金） ANAクラウンプラザホテル金沢 出展：鍾教授（国際文化交流学科） ［サイエンスヒルズこまつとの連携］ ●大学紹介展示を更新 学部紹介、研究者紹介など ・生産システム科学科：酒井教授、粕谷准教授、史准教授、上野助教 ・看護学科：上田准教授 ・臨床工学科：山岡禎久教授、山田准教授 ・国際文化交流学科：西村教授、清准教授 ●「自由研究相談」 ・7/22（土）生産システム科学科：村山教授、臨床工学科：鈴木助教 ・7/23（日）生産システム科学科：池田准教授、国際文化交流学科：清准教授 ●「夏休み体験教室」 ・7/29（土）臨床工学科：李教授 ・8/10（金）生産システム科学科：梶原准教授 ●「サイエンス・フェスタ2023」 ・12/10（土）生産システム科学科：坂本助教	

(3) 外部資金

中期目標	研究を充実・発展させるため、科学研究費補助金等の外部資金の獲得に向けた組織的な取組みを推進し、自己財源確保に努める。

中期計画	番号	年度計画	所管部署	業務の実績	自己評価
2　研究に関する目標を達成するための措置　－　(3) 外部資金					
科学研究費補助金等の外部資金の獲得に向けた組織的な取組を推進し、自己財源確保に資する。	Ⅱ-2-10	科学研究費補助金等の外部資金獲得に向け、情報収集やＦＤ研修会の開催を通じて、申請及び採択の拡大に努める。 各種財団の研究助成、産学官連携に関わる助成情報などを随時学内ネットワークに掲載し、各教員の外部資金獲得支援に供する。	研究・社会連携委員会、財務課	研究助成や産官学連携に関する情報を学内において一元管理・発信するため、Microsoft365 sharepointを活用し、情報公開用のサイトを公開し、随時掲載情報の拡張を実施。 ・直近90日のアクセス状況 人気ページ閲覧数：13回 また、研究・社会連携委員会の定例会議において月ごとの助成金獲得状況（科研費含む）や、各学科の委員の報告による特筆すべき研究業績（受賞等）を共有している。 ［科研費実績］ ・新規　12件（挑戦的（萌芽）　1件、基盤Ｂ 3件、基盤Ｃ 5件、若手 3件） ※令和4年度　13件 ・継続　41件（基盤Ｓ 1件、基盤Ｂ 1件、基盤Ｃ 27件、若手 7件、挑戦的（萌芽）1件、 挑戦的（開拓）1件、新学術領域 1件、特別研究員奨励費 2件） ※令和4年度　33件 計　　53件（完成年度以降目標値 15件） ※令和4年度　計46件 ・R5年度新規採択率　34.29%（12/35） ［科研費応募実績］ ・R6年度科研費事業（9月19日締切）　47件 ［その他外部資金の実績］ ・助成金 新規 15件（生産 9件、臨床 3件、国際 1件、大学院 1件、国際交流センター 1件） 継続　9件（生産 3件、看護 1件、臨床 5件） 移管分 2件（臨床 2件） 計　26件 ・奨学寄附金 新規　1件（臨床 1件）、 継続　2件（生産 2件） ・応募型受託研究（臨床 3件、地域連携推進センター 1件、次世代考古学研究センター 1件） （完成年度以降目標値　5件） ［共同研究・受託研究の実績］ ・共同研究 10件（生産 7件、臨床 3件） ・受託研究　7件（生産 4件、国際 2件、大学院 1件） （完成年度以降目標値 10件）	4

３　国際交流に関する目標

（1）海外大学等との交流

中期目標	協定締結校を開拓するとともに、海外大学等との教職員・学生交流、国際共同研究、シンポジウム・セミナー開催等を推進する。これにより、公立小松大学独自の国際的な教育研究シーズの育成を図る。

中期計画	番号	年度計画	所管部署	業務の実績	自己評価
３　国際交流に関する目標を達成するための措置　－　（1）海外大学等との交流					
①公立小松大学独自の国際的な教育研究シーズの育成を図るため、協定締結校を開拓する。 ②公立小松大学独自の国際的な教育研究シーズの育成を図るため、海外大学等との職員・学生交流、国際共同研究、シンポジウム・セミナー開催等を推進する。	Ⅱ-3-1	引き続き、海外大学等との交流協定締結を拡大するとともに、学生交流をはじめとした協定校等との交流活動を展開する。	国際交流センター	新たに国際機関等との協定を1件締結し、協定は累計19件（大学間：11件、部局間：5件、その他：3件）となった。また、長期交換留学は10人派遣、7人受入を行った。 ［新たな協定の締結］ ○大学間交流協定 ・グアテマラ　デル・バジェ大学（2023/8/10） ［交換留学、短期留学実績］ ○長期留学　派遣　10人 ・マレーシア　トゥンクアブドゥルラーマン大学 （2023/5～2023/10）　1人 トゥンクアブドゥルラーマン大学 （2023/5～2024/1）　1人 ・中国　東南大学（2023/4～2024/3）　1人 東南大学（2023/10～2024/3）　1人 ・台湾　建国科技大学（2023/4～2024/3）　1人 建国科技大学（2023/10～2024/8）　1人 ・韓国　湖西大学校（2022/9～2023/8）　1人 湖西大学校（2023/8～2024/3）　1人 ・米国　オースティン・ピー州立大学（2024/1～2024/5）　1人 オースティン・ピー州立大学（2024/1～2024/12）1人 ○長期留学　受入　7人 ・中国　常州大学（2022/10～2023/8）　2人 常州大学（2023/10～2024/3）　1人 東南大学（2023/10～2024/3）　1人 ・台湾　建国科技大学（2022/10～2023/3）1人 建国科技大学（2023/10～2024/8）1人 ・韓国　湖西大学校（2023/4～2023/8）　1人	5

中期計画	番号	年度計画	所管部署	業務の実績	自己評価
				○短期留学　派遣　30人（うちオンライン3人） ・米国　オースティン・ピー州立大学（2024/3/12～2023/3/27）　1人 ・ニュージーランド　オークランド大学English Language Academy 英語研修（2024/2/9～2024/3/11）　6人 ・台湾　建国科技大学中国語研修（2024/3/7～2024/3/21）10人 ・中国　東南大学中国語研修（オンライン開催） （2023/8/21～2023/8/25）3人 ・韓国　湖西大学校異文化体験実習（2023/8/7～2023/8/19）4人 ・タイ　泰日工業大学サマープログラム（2023/8/23～2023/8/31）1人 ・カンボジア　アンコール遺跡整備公団インターンシップ（2023/9/4～2023/9/17）　5人 ○短期留学　受入　5人 ・マレーシア　トゥンクアブドゥルラーマン大学スタディツアー（2023/10/15～2023/10/24）5人 ○大学院留学生　6人 ・中国　2人 ・インドネシア　2人 ・タイ　2人 ○その他派遣　7人 ・石川県世界農業遺産国際スタディプログラム　イタリア派遣（2023/7/1～2023/10/21）1人 ・外務省対日理解促進プログラム「カケハシ・プロジェクト」カナダ派遣 （2024/3/3～2024/3/11）6人 〔その他交流活動実績〕 ○留学生との交流　6件 ・2023/4/4　留学生歓迎会＆お花見パーティ　21人 ・2023/8/8　留学生さよならパーティ　7人 ・2023/8/9　Study Trip to Noto with Foreign Students　20人 ・2023/10/7　どんどんまつりあんどん行列　20人 ・2023/10/11　留学生歓迎会　15人 ・2024/2/2　留学生さよならパーティ　6人 〔奨学金、助成金〕 ○交換留学（派遣）を対象とした公立小松大学留学支援奨学金制度 ［公立小松大学留学支援奨学金支給実績］ 建国科技大学（台湾）　留学者2人 湖西大学校（韓国）　留学者1人 東南大学（中国）　留学者1人 ラーマン大学（マレーシア）留学者1人 ○日本学生支援機構留学支援奨学金（協定派遣）追加採択 事業名：公立小松大学交換留学プログラム 助成額：254万円 対象学生：6人 ○中島記念国際交流財団助成　2023年度留学生地域交流事業 事業名：Study Trip to Komatsu 2023 助成額：36万円	

中期計画	番号	年度計画	所管部署	業務の実績	自己評価
	Ⅱ-3-2	交換留学生や短期研修プログラム参加者の受入にあたり、新型コロナウイルス感染症をはじめとする各種規制の変更等を注視し、派遣元大学との連絡など、担当教員と国際交流センターが連携してあたる。小松市国際交流協会や行政等と連携する。	国際交流センター	〔留学生への支援体制〕 交換留学生7人に対し、指導教員は受入開始時および終了時に面談を行った。また、チューター学生が市役所等での手続きや日常生活の支援などを実施した。 国際交流センター公認サークルKOMAFriend（コマフレンド）を立上げ、約50名の学生が加入した。留学生を対象とした交流イベントの企画、運営を実施した。 ［協定校からの訪問実績］ 協定校から国際交流担当者等が本学を訪問。今後の交流計画等の打ち合わせを実施した。 ・米国　オースティン・ピー州立大学（2023/6/20） 広野達教授（社会福祉学科）	4
	Ⅱ-3-3	外国人留学生のための日本語教育体制の充実を図る。	国際交流センター	交換留学生に対し、日本語授業（座学）を週1回、日本文化体験に関する授業を隔週で実施した。 ［日本語コンテストへの参加］ ・小松市国際交流協会主催日本語スピーチコンテスト（2024/1/21） 交換留学生2人出場、うち1人優勝	4
	Ⅱ-3-4	国際シンポジウムの開催や国際共同研究に向け、協定校等との学術交流を推進する。	研究・社会連携委員会、国際交流センター	・2023/12/1～2023/12/26　保健医療学部によるJICA青年研修事業 2023年度JICA青年研修事業に保健医療学部が採択され、カンボジアの医療従事者（20歳～35歳程度）を対象とした研修を実施した。 本学側参加教員：12人（保健医療学部） JICA研修員：19人	5

(2) 地域における国際貢献

中期目標	「国際都市こまつ」の一層の推進に資するため、地域の国際活動や国際関連課題解決に協力し、地域と世界の懸け橋としての役割を果たす。

中期計画	番号	年度計画	所管部署	業務の実績	自己評価
3　国際交流に関する目標を達成するための措置　ー　(2) 地域における国際貢献					
地域と世界の懸け橋として、「国際都市こまつ」の発展に貢献するため、国際活動や国際関連課題解決への支援・協力を行う。	Ⅱ-3-5	地域の多文化理解や国際化に資する取組を行う。	地域連携推進センター、国際交流センター	小松市や小松市国際交流協会等と連携し、英会話カフェを実施することで語学力を向上させるとともに小松市在住の外国人と交流を深めた。また、「こまつ市民大学」にて多文化理解に係る講座を実施するなど、多様な取組により「国際都市こまつ」の発展に貢献した。 ［国際化・多文化理解の促進に向けた取組、連携実績］ ・「英会話カフェ」の開催 小松市国際交流員やALT等と、グループに分かれてフリートークを実施。市内高校生や社会人、本学学生などが参加した。 ［開催実績］ 5/23, 5/29, 6/13, 6/27, 7/13, 8/10, 9/12,10/12,10/31,12/21,1/9,1/22,2/8,3/14 合計：14回開催 参加学生：40人　一般：131人 ・「中国語カフェ」の開催 中国、台湾からの交換留学生および大学院生が講師となり、中国語カフェを実施。 ［開催実績］ 5/10, 5/24, 6/21, 7/5 合計：4回開催 参加学生：26人 ・海外文化体験の開催 国際交流センター公認サークルKOMAFriendや、小松市国際交流協会と連携し、海外文化体験を開催。 ［開催実績］ KOMAFriend主催　7/8, 7/9 小松市国際交流協会共催世界の料理教室　7/15, 7/19, 9/23, 2/17 国際交流センター主催生け花教室　11/30, 12/6, 1/17	4

Ⅲ　地域貢献に関する目標

1　地域貢献のための体制構築と地域との連携活動の推進

中期目標	教育研究成果及び大学がもつ知的資源の社会への還元を果たし、もってまちの活力と未来を創生するため、地域の企業、医療・福祉施設、教育機関等との多様な連携を構築し、ものづくり、健康福祉、教育、文化、観光等の領域における地域との連携活動を推進する。

中期計画	番号	年度計画	所管部署	業務の実績	自己評価
1　地域貢献のための体制構築と地域との連携活動の推進					
① 地域の企業、医療・福祉施設、教育機関等との多様な連携を構築する。 ② ものづくり、健康福祉、教育、文化、観光等の領域における地域との連携を推進する。	Ⅲ-1-1	自治体や地域の各種団体等からの要請に応じて、各種審議会や委員会の委員やアドバイザーとして積極的に参画し、各委員の専門性を社会へ発信する。	地域連携推進センター	小松市等が設置する各種委員会等の委員として専門的知識を有する教員を派遣した。 59件（小松市：22件　その他:37件）　※令和４年度　113件（小松市：20件、その他：93件） ［派遣した委員会］ ・空とこども絵本館　活動推進実行委員会 ・小松市奨学金貸与審査委員会 ・小松市明るい選挙推進協議会 ・小松市企業立地等促進委員会 ・健康づくり推進協議会　　など	4
	Ⅲ-1-2	**【Ⅱ-1-35】再掲** 協力企業・機関・施設・団体等を幅広く募り、教育・研究・社会連携・大学運営にかかる、多様な連携協力のための体制を拡大する。	地域連携推進センター	協力企業等の依頼を継続し、連携体制の強化を図るとともに、協力企業等への定期的な情報発信や大学主催のシーズ・ニーズマッチングシンポジウムの開催を通して地域や企業のニーズとのマッチング機会を増やした。 ①協力企業との連携強化 ［連携協力体制］ ・協力企業等　累計392件（実数385件）　※R4年度：累計375件 （累計内訳　石川県：237、福井県：72、富山県：63、その他：18、海外：2） ［協力企業への情報発信］ ・３月　令和４年度産官学合同シリコンバレー研修開催案内 ・７月　研究シーズ集2023、大学案内2024 発送 ・９月　シーズ・ニーズマッチングシンポジウム開催案内 ・10月　Tachyon11号、Tachyon Academia3号 発送 ・12月　シリコンバレー研修企画に向けた企業ニーズアンケート ・３月　令和５年度産官学合同シリコンバレー研修開催案内 ③シーズ・ニーズマッチングシンポジウムの開催 ・10/14（土）シーズ・ニーズマッチングシンポジウム2023 全学合同開催（中央キャンパス） 産学共同で進める新たな人材戦略をテーマに実施。 参加者数：170名（企業：32社45名 、学生125名） 【プログラム】 ・特別講演① 「コマツのサステナビリティ推進と人材育成」 株式会社小松製作所取締役兼常務執行役員　横本 美津子　氏（本学アドバイザリー・フェロー） ・特別講演② 「企業が求める人材像」 株式会社PFU取締役執行役員常務/CTO(最高技術責任者) 宮内 康範　氏 ・協力企業の発表 「事業紹介及び求める人材像」　参加協力企業16社による発表 ・交流会 協力企業と大学(学生・教職員)との交流	5

中期計画	番号	年度計画	所管部署	業務の実績	自己評価
	Ⅲ-1-3	大学紹介や教育研究成果を地域に還元するため、各種媒体を通じて情報発信を積極的に行う。	広報室	各種媒体を活用して以下のとおり情報発信を行った。 ［各種媒体を活用した大学及び研究者紹介］ ①大学案内2024の発行 2023年6月　10,000部発行 令和5度着任教員追加・更新、卒業後の進路及び国家試験合格率を追記 ②英語版大学案内の更新 令和5度着任教員追加・更新、大学院及びキャンパスライフを追記 ③ホームページの運用 令和5年度着任教員追加・更新 令和6年能登半島地震関連情報の更新 その他、各種情報のアップ及び随時更新 ④英語版ホームページの運用 大学院ページを追加 ⑤広報誌「Tachyon」「Tachyon Academia」の発行 ●Tachyon 2023年9月　第11号　3,500部発行　教員紹介：上田教授（生産システム科学科） 2024年3月　第12号　3,500部発行 教員紹介：橋本教授（臨床工学科） ●Tachyon Academia 2023年9月　第3号　3,500部発行 研究紹介：細川教授（生産システム科学科）、山岡教授（臨床工学科）、鍾教授（国際文化交流学科） ⑥ラジオ広報番組での発信（放送日・出演者） 9/2・9　酒井教授、生産4年生 9/16・23・30　史准教授、大学院修士1年生（生産システム科学専攻） 10/7・14　青松祭実行委員 10/21・28 生産システム科学科学生 11/4・11　坂本教授（看護） 11/18・25　看護学科1年生 12/2・9　橋本教授（臨床） 12/16・23・30　臨床工学科2年生 1/6・13　山岡禎久教授、大学院修士1年生（ヘルスケアシステム科学専攻） 1/20・27 鍾教授（国際） 2/3・10　国際文化交流学科4年生 2/17・24　朝倉准教授、大学院修士1年生（グローカル文化学専攻）	4

中期計画	番号	年度計画	所管部署	業務の実績	自己評価
				⑦動画の活用 ・9月～ラジオこまつの広報番組「世界に向かって飛び立て!公立小松大学」の音声データをYouTubeチャンネルに公開 公開動画数：12本 ・生産システム科学科の学べる分野、教員の研究分野の紹介、在学生の声などを盛り込んだ動画をYouTubeチャンネルに公開 ⑧SNSの活用 7/10～13　カメラ研修写真 7/19　助成券が使える店に行ってみたvol.2 7/27　助成券が使える店に行ってみたvol.3 11/14 広報室学生委員メンバー紹介 11/15 青松祭vol.1-4 12/1　映えスポット（安宅のモニュメント） 12/12 助成券が使える店に行ってみたvol.4 12/22 助成券が使える店に行ってみたvol.5 ［その他］ ・北國新聞 10/21　ジャパンテント協賛（青松祭告知広告） ・広報こまつ（市広報紙）掲載 5月号　大学職員募集 ・サイエンスヒルズこまつ　大学紹介展示 9月　展示内容更新（学部紹介、研究者紹介など）	

中期計画	番号	年度計画	所管部署	業務の実績	自己評価
	Ⅲ-1-4	本学の研究シーズを外部に継続的に発信するとともに、他大学、企業や各種団体、自治体等との各種プロジェクト活動を推進する。	研究・社会連携委員会、地域連携推進センター	(1)研究シーズの発信 ①広報媒体を通した研究シーズの発信 【※Ⅱ-2-6　掲載】 ③シーズ・ニーズマッチングシンポジウムの開催【※Ⅱ-1-35　一部再掲】 ・10/14（土）シーズ・ニーズマッチングシンポジウム2023 産学共同で進める新たな人材戦略をテーマに実施。 参加者数：170名（企業：32社45名 、学生125名） 【プログラム】 ・特別講演① 「コマツのサステナビリティ推進と人材育成」 株式会社小松製作所取締役兼常務執行役員　横本 美津子　氏（本学アドバイザリー・フェロー） ・特別講演② 「企業が求める人材像」 株式会社PFU取締役執行役員常務/CTO(最高技術責任者) 宮内 康範　氏 ・協力企業の発表 「事業紹介及び求める人材像」　参加協力企業16社による発表 ・交流会 協力企業と大学(学生・教職員)との交流 (1)サイエンスヒルズこまつとの連携（企画、展示）【※Ⅱ-1-41　一部再掲】 ①体験教室　開催協力 ・自由研究相談 7/22（土）　生産：村山教授、臨床：鈴木助教 7/23（日）　生産：池田准教授、国際：清准教授 ・夏休み体験教室 7/29（土）　臨床：李教授 8/10（金）　生産：梶原准教授 ・サイエンス・フェスタ2023 12/10(土)　生産：坂本助教 ②大学紹介展示 学部紹介、研究者紹介など ９月　生産：粕谷准教授、史准教授／看護：上田准教授／臨床：山岡禎教授／国際：西村教授 ３月　生産：酒井教授、上野助教／臨床：山田准教授／国際：清准教授	4

２　社会人教育（再掲）

中期目標	身近な学びの拠点として、社会人教育プログラム、市民公開講座等を実施するとともに、附属図書館、英語カフェ等の施設の市民利用を図り、地域の人びとが学びに触れ、自らを豊かにする場を創出する。

中期計画	番号	年度計画	所管部署	業務の実績	自己評価
２　社会人教育（再掲）					
①社会人教育プログラム、市民公開講座等を実施する。	Ⅲ-2-1	**【Ⅱ-1-42】再掲** 社会人教育プログラムを実施する。社会の環境変化やニーズに対応したプログラムを検討する。	地域連携推進センター	(1)ものづくり人材スキルアッププログラム ものづくり企業の従業員を対象とした実践的教育プログラムを実施し、年間42名が受講した。 A：生産管理技術、B：工場経営管理、総合：A＋B 【前期】5/15～9/1開催 総合：2名　A：2名　B：3名　選択A：7名　選択B：8名　合計22名 【後期】10/16～1/26開催 総合：1名　A：2名　B：5名　選択A：5名　選択B：7名　合計20名 (2)品質管理検定受験対策講座 【前期】3級受験対策　8人受講（うち、遠隔受講6名） 【後期】未実施 受講生募集については、講師１名と受講生募集業務委託を締結し、会社訪問によるプログラムのPRなど積極的に募集を行った。	4
	Ⅲ-2-2	**【Ⅱ-1-43】再掲** 学内のシーズ・ニーズと産業界のニーズ・シーズのマッチングを図るシンポジウムを開催する。	地域連携推進センター	（１）シーズ・ニーズマッチングシンポジウムの開催 10月14日（土）13時00分～17時00分　中央キャンパス3階 参加者：170人 ＜特別講演＞ 講演①「コマツのサステナビリティ推進と人材育成」 ㈱小松製作所　取締役兼常務執行役員　横本 美津子　氏（本学アドバイザリー・フェロー） 講演②「企業が求める人材像」 ㈱PFU　取締役執行役員常務/CTO(最高技術責任者）宮内 康範　氏 ＜協力企業の発表＞ 「事業紹介及び求める人材像」（協力企業16社が発表） ＜交流会＞ 協力企業と大学(学生・教職員)との交流	4

中期計画	番号	年度計画	所管部署	業務の実績	自己評価
	Ⅲ-2-3	【Ⅱ-1-44】再掲 小松市と連携し、こまつ市民大学を開催する。地域ニーズ等を踏まえて講座内容等の見直しを行う。	地域連携推進センター	「こまつ市民大学」は地域連携推進センター長が運営委員として参画し、開講する多くの講座の講師を本学教員が務めている。ものづくり、健康、語学、国際情勢など、本学の特徴を生かした多彩な内容となり、また、昨年度に引き続き講義多くのは、本学中央キャンパスを会場とした。 ①講義の開催 ・第5期講座（4月～8月）※本学教員が担当したもの 講座数：2　講師数（延べ）：7人　会場：公立小松大学中央キャンパス 「お口の健康」受講生：６名 「世界の都市を歩く」受講生：30名 ・第6期講座（9月～3月）※本学教員が担当したもの 講座数：4 講師数(延べ)：10人　会場：公立小松大学中央キャンパス 「公立小松大学学長・副学長特別講座」受講生：19名 「楽しく学ぶクラシック音楽講座」受講生：25名 「人生の最終段階を考える大切さ～最期まで自分らしく生きるために～」受講生：24名 「大学教員から聴く！からだと健康・医療のアレコレ耳より講座」受講生：16名 ②運営委員会 5/31（水）　第8回運営委員会 第6期事業計画及び令和5年度予算案の審議	4
②附属図書館、英語カフェ等の施設の市民利用を図る。（再掲）	Ⅲ-2-4	【Ⅱ-1-45】再掲 地域住民等に向けて、本学の運営に支障のない範囲で各キャンパスの附属図書館を開放する。	附属図書館、総務課	各キャンパスの附属図書館については、前年度から継続して学外者の入館を制限しているが、オープンキャンパスや入学宣誓式に併せて参加者や来学者に図書館を公開している。 ・４月２日　入学宣誓式 中央キャンパス　公開 ・７月15日　オープンキャンパス 各キャンパス　公開 オープンキャンパス参加者に向けた企画展示を実施 また、相互貸借サービスを通し、地域住民へ最寄りの図書館を窓口に、附属図書館の資料を提供している。令和5年度は「石川県図書館情報ネットワーク」参加館の依頼に対応し53冊を貸出した。	3

中期計画	番号	年度計画	所管部署	業務の実績	自己評価
	Ⅲ-2-5	**【Ⅱ-1-46】再掲** 小松市・小松市国際交流協会と連携し、英語カフェにおいて国際交流プログラムを定期的に開催する。	国際交流センター	①英会話カフェの開催 　小松市・小松市国際交流協会と連携し、英会話カフェを実施した。参加者は、小松市国際交流協会会員、小松市国際交流ボランティア、本学学生、および高校生等。 （開催日および参加学生数） 開催日　　5/23, 5/29, 6/13, 6/27, 7/13, 8/10, 9/12,10/12,10/31,12/21,1/9,1/22,2/8,3/14 参加学生　40名 ②中国語カフェの開催 　中国、台湾からの交換留学生および大学院生が講師となり、中国語カフェを実施した。 （開催日および参加学生数） 開催日　　5/10, 5/24, 6/21, 7/5 参加学生　26名 ③海外文化体験の開催 　国際交流センター公認サークルKOMAFriendを立上げ、山中温泉街歩きツアーなど学生たちが主体的に留学生との交流活動を実施した。また、英会話カフェの応用編として、「TabiするKitchen」と題し、小松市国際交流員や小松市内のALTが講師となり、本学の学生限定で料理を通した交流活動を行った。その他、市内で生け花教室を運営する方を講師に迎え、留学生を対象とした生け花教室を実施した。 ・2023/7/8　　山中温泉街歩きツアー　参加学生：15名 ・2023/7/9　　浴衣着付け体験　　参加学生：10名 ・2023/7/15　TabiするKitchen（オーストラリア編）　参加学生：9名 ・2023/7/19　TabiするKitchen（ロシア編）　　参加学生：9名 ・2023/9/23　TabiするKitchen（シンガポール編）　参加学生：9名 ・2024/2/17　TabiするKitchen（メキシコ編）　　参加学生：2名 ・2023/11/30　生け花教室①　　参加学生：5名 ・2023/12/6　生け花教室②　　参加学生：6名 ・2023/1/17　生け花教室③　　参加学生：5名 ・2023/2/7　　生け花教室④　　参加学生：5名	4
	Ⅲ-2-6	**【Ⅱ-1-47】再掲** 大学施設の効率的・効果的な運用・管理を図り、本学の運営に支障のない範囲で大学施設の市民利用を推進する。	財務課	こまつ市民大学の実施など本学の運営に支障のない範囲で大学施設の貸付を行った。 ［施設貸付の実績］ ・粟津キャンパス　177件（うち148件は運動場、19件は体育館の利用） ・中央キャンパス　28件（うち26件はこまつ市民大学） ・末広キャンパス　0件 総計　205件 （年度計画目標値　25件）	3

３　学びをまちの活力に

中期目標	多くの企業、施設、店舗、町内会等の理解のもとに、サークル活動やボランティア活動を含む学生生活を広くまち全体で展開し、若者のエネルギーがみなぎる「まちなかキャンパス」づくりを推進する。

中期計画	番号	年度計画	所管部署	業務の実績	自己評価
３　学びをまちの活力に					
若者のエネルギーがみなぎる「まちなかキャンパス」づくりを推進するため、企業、施設、店舗、町内会等のご理解のもと、サークル活動やボランティア活動等を広く展開する。	Ⅲ-3-1	学生の自主的活動(大学祭、サークル、ボランティア等)に関わる必要な指導・支援を実施する。	学生課	学生による自主的・自律的な活動を原則としつつ、教員が顧問としてサークル活動を監督するとともに、事務局学生課が中心となって各種の学生活動を支援した。また、地域とのつながりの中で学び、大学として地域に貢献していくため、地域における行事等に積極的に参加した。参加は学生の希望に基づいて行うことを基本とし、学生の自主性や積極性を重視した。 ［大学祭］ ・10/21（土）　テーマ「Break the Limit～ハジけろ！みらいへ！～」 第６回大学祭「青松祭」を開催。昨年に引き続き対面開催となり、中央キャンパスでは、縁日、脱出ゲームなどの催し物や学科紹介ブース、進学相談ブース、各サークルによる模擬店の出店を行った。また、小松駅前市民公園の特設ステージでは、吹奏楽、ダンス、軽音サークル等がパフォーマンスを披露した。 令和５年度青松祭実行委員数　66名 ［サークル活動］ ・令和５年度サークル総数 33団体（体育系13団体、文化系20団体）※令和４年度：29団体 ・サークル代表者会議 学生の課外活動の推進及び安全な活動環境をつくるための情報交換を行うことを目的として、6月21日および2月28日にサークル代表者を対象とした会議をオンラインで開催し、サークル活動に関する情報提供や連盟などの団体登録料・大会参加費の補助等について説明を行った。 第1回会議（Teams開催）　6月21日　参加数：28団体 第2回会議（Teams開催）　2月28日　参加数：31団体 ・サークル活動助成 公立小松大学基金、保護者会費を財源に、サークル活動支援に係る助成金を支給した。 ①サークル活動助成金 サークル活動の支援として、申請があった団体に対し、１団体につき5,000円を支給。 助成実績：19団体 ②サークル活動宿泊助成金 サークル活動の活性化を図るため、合宿を行ったサークルの参加者1名1泊2,000円を支給。 （昨年度までは新型コロナウイルス感染症対策としてサークルでの合宿を禁止） 助成実績：１件（ダンスサークル８名２泊分）　32,000円 ③学生団体活動支援費 保護者会より学生団体活動支援費としてサークルの構成員1名につき500円をから支給。 助成実績：33団体　498名　249,000円 ・施設利用 学生の課外活動を支援するため、大学施設は無料で利用可能としている。 また、小松市まちづくり市民財団のご協力のもとに体育施設の料金割引が適用されている。	4

中期計画	番号	年度計画	所管部署	業務の実績	自己評価
	Ⅲ-3-2	学生と地域の社会人、シリコンバレーオフィスを結ぶプロジェクトを引き続き実施する。ICTを活用しながら、学生と地域がともに学び、活動するプラットフォームづくりを推進する。	地域連携推進センター	［産学合同シリコンバレー研修］【※Ⅱ-1-39　一部再掲】 ①特別講座（PBL）「グローバル人材と持続的開発プロジェクト」 　産学合同シリコンバレー研修の事前学習として、問題分析及び解決方法のスキルの向上を目的に、国際交流センターの岸本特任教授及び桝本特任教授による特別講座（全8回）を行った。企業参加者も講義に参加し、産学合同シリコンバレー研修に向けたワークショップを行った。 ②産学合同シリコンバレー研修 　米国シリコンバレーオフィスを拠点に学生と企業人を派遣して実施してきた本研修に、今年度より小松市が参加者として新たに加わり、「産官学合同シリコンバレー研修」と名称を改めて実施した。企業・小松市からの参加者と学生が、シリコンバレーの最新動向に触れつつ、現地でのグループワークを通した課題解決型学習に取り組んだ。 　また、本学学長と小松市長が本研修に同行し、現地オフィスでの情報交換やフィールドワークを通して産官学の連携推進を図った。 　また、学生への支援として小松市から参加学生に対して1人あたり10万円の補助金を支給いただいた。 期　間：8/20～8/25（5泊7日） 場　所：シリコンバレー（アメリカ カリフォルニア州） 参加者：学生12名、企業参加者5名（うち小松市役所職員1名）、随行教職員4名 研修への同行：宮橋小松市長、山本学長、小松市随行職員1名 ③成果報告会 　9/28（木）「産官学合同シリコンバレー研修」成果報告会 　シリコンバレー研修に参加した学生12名が、４つのグループごとに行政や企業の課題に対する解決策の提案や現地での活動を通しての気づきや学びなど、研修で得た成果を発表した。 　報告会には、企業・小松市からの参加者４名と研修に同行いただいた宮橋小松市長にご出席いただいたほか、学内の教職員、学生が聴講した。 ＜成果報告会　次第＞ ・開会あいさつ（宮橋勝栄小松市長、山本博学長） ・研修の概略（上田芳弘 地域連携推進センター長） ・課題研究の成果発表（４グループ） ・閉会あいさつ（横川善正副学長）	4

Ⅳ　業務運営の改善及び効率化に関する目標

1　組織運営の改善に関する目標

(1)　機動的な管理体制の構築と適切性の確保

中期目標	経営の責任者である理事長と教学の責任者である学長のリーダーシップのもとに、各種組織・会議の役割と責任を明確にし、速やかで適確な大学運営を行う。

中期計画	番号	年度計画	所管部署	業務の実績	自己評価
1　組織運営の改善に関する目標を達成するための措置　ー　(1)　機動的な管理体制の構築と適切性の確保					
①理事長及び学長を中心とした管理体制を確立し、ガバナンスの強化を図る。	Ⅳ-1-1	経営の責任者である理事長と教学の責任者である学長の指揮のもと、理事会や審議会及び各種委員会等を適切に運営する。	総務課	理事長と学長の適切な役割分担、トップマネジメントのもと、理事会や各種審議会等の組織体制を構築、重要事項について審議を行った。引き続き、各会議において審議すべき議題の調整・整理を行い、適切な会議運営に努める。 【監事監査】 ・６月20日　業務監査・会計監査 【理事会・経営審議会】 ・６月29日　令和４年度事業報告書・決算・監査 ・９月27日　予算編成・博士後期課程認可 ・１月18日　第２期中期計画 ・３月28日　令和６年度予算 【教育研究審議会】 ・上半期（４月～９月）　７回（書面附議１回） ・下半期（10月～３月）　10回（書面附議０回） 【学長選考会議】 学長選考　４回 学長の業績評価　３回（書面附議２回） ・５月16日～22日（書面附議） 令和４年度学長の業績評価の確定・公表 ・６月22日　学長候補者選考スケジュール、実施要領の確認 学長候補適任者推薦受付（7/3～8/18） ⇒学長候補適任者の推薦：１名 ・９月４日　学長候補適任者の審議、決定・通知 所信を聴く会、意向調査の実施方法の確認 学長候補適任者の決定・公表 ・９月20日　学長候補適任者の所信を聴く会（学長候補適任者の所信表明・質疑応答） 意向調査（9/20～9/27） ・11月９日　学長候補適任者個別面談 学長候補者選考・決定・公表 氏名　山本　博（公立大学法人公立小松大学学長） 任期　令和６年４月１日～令和８年３月31日　２年 ・３月４日　令和５年度学長の業績評価（面談） ・３月11日～18日（書面附議） 令和５年度学長の業績評価の確定 ・３月23日　議長→理事長・学長へ評価書の通知・報告（面談） 評価書の公表（3/25大学ホームページ） 評価　Ａ　優れた業績である	4

中期計画	番号	年度計画	所管部署	業務の実績	自己評価
②各種組織・会議の役割を明確にする。 ③各組織・会議は、互いに良好な連携を図りつつ、それぞれのミッションを果たす。	Ⅳ-1-2	自己点検評価・内部質保証推進会議を定期的に開催し、各組織のミッションと進捗状況について情報共有するとともに、組織間の連携を図る。	自己点検評価・内部質保証推進会議、総務課	評価室による年２回のヒアリングを経て、年度計画に基づく各部局等組織の業務進捗状況について把握・共有し、自己点検及び評価を取りまとめた業務実績報告書を作成した。これに基づき、自己点検評価・内部質保証推進会議にて全学的な観点から審議を行い、必要に応じて改善指示を行うなど、内部質保証に基づく教育改革を推進した。 【令和４年度業務実績】 ・４月13日・14日　評価室ヒアリング（令和４年度） ・５月　業務実績報告書の作成 ・６月14日　自己点検評価・内部質保証推進会議へ報告 ・６月　教育研究審議会・経営審議会・理事会承認 令和４年度業務実績報告書を小松市へ提出 ・７月　法人評価委員ヒアリング ・７月31日　小松市公立大学法人評価委員会 ・９月　小松市議会承認・評価書の公表 【令和５年度業務実績】 ・10月　業務実績のとりまとめ（上半期） ・10月23日･24日 評価室ヒアリング（上半期） ・３月　業務実績のとりまとめ ・４月12日･15日 評価室ヒアリング（下半期） （R5年度実績・第１期中期目標期間終了時業務実績）	4
	Ⅳ-1-3	設置団体が示すビジョンを踏まえ、大学の自主性・自立性に基づいた第２期中期計画を令和５年度に策定する。策定にあたっては、認証評価機関、法人評価委員会ほか、多様なステークホルダーの意見を聴取し、社会の要請の把握に努める。	自己点検評価・内部質保証推進会議、総務課	第２期中期目標・計画策定にあたり、法人評価を始め、教育研究審議会、経営審議会・理事会、認証評価、パブリックコメントなど学内外から意見を聴取し、社会の要請の把握に努めた。 策定された第２期中期目標・計画は、２月に大学ホームページに公表するとともに、４月に全教職員へ周知した。令和６年度は、第２期中期目標達成のため、学内の各所属に第２期中期計画を周知し、計画に基づく業務遂行・業務進捗管理の徹底に努める。 【第２期中期目標・計画】 ・第２期：令和６年４月１日～令和12年３月31日 ・７月31日　第１回法人評価委員会 第１期中期目標終了時の検討 ・８月29日　第２回法人評価委員会 第２期中期目標・計画素案の審議 ・９月　法人評価委員意見集約 学内意見集約 経営審議会委員・理事意見集約 ・10月　中期目標市民意見募集（10/2～20） ⇒市民意見無し ・11月　第２期中期計画修正案の意見集約 ・12月　第２期中期目標を市議会に提案・議決 ・１月30日　第３回法人評価委員会 修正意見を踏まえた修正案の審議 ・２月　第２期中期計画認可 大学ホームページにて目標・計画の公表	5

中期計画	番号	年度計画	所管部署	業務の実績	自己評価
④業務内容の変化や業務量の変動に柔軟に対応するため、適宜組織の見直しを行う。	Ⅳ-1-4	評価室及び自己点検評価・内部質保証推進会議による定期的な業務チェック、聞き取りなどにより、事務局内の構成及び業務の質・量の検証を行い、組織の適正化と職員の適正な配置を図る。	評価室、自己点検評価・内部質保証推進会議、総務課	令和５年４月１日付で、次世代型の考古学研究を中核として、他の大学・研究機関にない特色のある次世代考古学研究センターを創設し、必要な職員を配置した。 【大学組織】 ・４月1日　次世代考古学研究センターを新設 【業務進捗管理】 評価室及び自己点検評価・内部質保証推進会議による業務進捗管理を実施 ※Ⅳ-1-2参照	4

(2)　組織力の強化と構成員の資質・能力の向上

中期目標	公立小松大学としてふさわしい組織風土の醸成に努め、教職員全員が法人の目的及び自らの役割を認識した上でそれぞれの専門性を活かし、一体となって教育・研究・地域貢献等の機能を最大化させる。

中期計画	番号	年度計画	所管部署	業務の実績	自己評価
1　組織運営の改善に関する目標を達成するための措置　ー　(2)　組織力の強化と構成員の資質・能力の向上					
①職員全員が法人のビジョンを共有し、一体となって教育・研究・地域貢献等の機能強化に取り組む。	Ⅳ-1-5	大学憲章のもとに、職員に法人・大学の理念やビジョンを浸透させるとともに、中期目標及び年度計画等への理解を深め、ビジョンに基づいた業務の実施につなげる。	全学	４月13日に新規採用教育職員12人を対象として開催した新規採用職員研修において、学長より、大学憲章の基本理念や目標等について講話を行い、大学の理念について学び、意識の共有を図った。 　また、令和６年度からは年度計画が廃止となり、６年間の中期計画に一本化されたため、中期計画（評価指標等）に基づく自己点検評価の方法を新たに定め、同計画に基づく業務の遂行について、各組織への浸透を図るよう努める。 【法人ビジョンの浸透】 ・教育研究審議会等にて、方針・決定事項の周知 ・大学ホームページにて、大学憲章及び基本理念を周知 ・４月13日　新規採用教員９名、職員３名 　　山本学長・千葉事務局長講話 　　（大学憲章・大学理念他） ・２月　第２期中期目標・計画を大学ホームページに公表 ・４月　第２期中期目標・計画を全教職員にメール周知 【年度計画に基づく業務の進捗管理】 ・10月23日･24日 評価室ヒアリング（上半期） ・４月12日･15日 評価室ヒアリング（下半期） （R５年度実績・第１期中期目標期間終了時業務実績）	4
②ＦＤ及びＳＤ活動を実施し、構成員の資質・能力の向上を図る。	Ⅳ-1-6	効果的なＦＤ及びＳＤ活動を実施するため、教職員に共通する課題や、求められる知識及び技能を整理し、全学的な内部質保証の視点を踏まえ、研修を企画立案する。また、公立大学協会などの外部機関が主催する研修も積極的に取り入れる。	ＦＤ・ＳＤ推進委員会	年間を通じて研修会を開催し、職員の管理運営や教育・研究についての資質向上に取り組んだ。また、令和５年度は、各部局から要望のあった２テーマを取り上げ参加者のニーズに沿った研修を実施した。 　また、本学主催の研修のほか、公立大学協会や大学コンソーシアムなど複数の学外研修に多くの教職員がオンラインで参加した。 【公立小松大学】 ・４月13日　新規採用教職員研修 　山本学長・千葉事務局長講話「公立小松大学について知る」 　参加：教員９名、職員３名 ・９月７日　小松市消防本部救命講習会 　「心肺蘇生法、ＡＥＤの使用法（説明と実技）」 　参加：教員７名、職員11名 ・11月29日　第１回FD・SD研修 　森田育男氏「利益相反を含む研究不正防止」 　参加：教員42名、職員16名 ・12月26日　第２回FD・SD研修 　日本アイラック株式会社「教職員向け海外危機管理セミナー」 　参加：教員25名、職員19名 ・２月20日　第３回FD・SD研修 　坂原泰子氏　臨床心理士「危機状態の可能性がある学生への対応」 　参加：教員42名、職員28名	4

中期計画	番号	年度計画	所管部署	業務の実績	自己評価
				【公立大学協会研修（オンライン）】 ・６月９日 公立大学の研究活動促進に資するための勉強会 「科研費申請の最新動向採択をつかむためのポイント解説！」 中安豪氏（ロバストジャパン株式会社　代表取締役） 参加：教員15名 【その他主催（オンライン）】 ・８月18日　教職員・情報通信技術支援員（ICT支援員）著作権講習会 「デジタル社会を支える“知財人材”を育むために」 文化庁著作権課 参加：教員３名 ・９月15日　大学コンソーシアム 「生成AIのあれこれ」 長谷川忍氏（北陸先端科学技術大学院大学遠隔教育研究イノベーションセンター　教授） 参加：教員６名 ・11月6日　大学コンソーシアム 「合理的配慮について」 河野俊寛氏（北陸大学教授） 参加：教員６名、職員２名 ・３月12日　大学コンソーシアム 「金沢大学における教育 DX 推進について」 東昭孝氏（金沢大学学術メディア創成センター　助教） 参加：教員８名 ・３月25日　大学コンソーシアム 「科研費申請に向けて（２）」 稲垣美幸氏（金沢大学先端科学・社会共創推進機構　准教授） 参加：教員９名、職員１名 ※職員研修については一部【Ⅳ-３-３】に記載。	

２　教育研究組織の見直しに関する目標

中期目標	教育、研究に対する社会的ニーズを踏まえつつ、大学がその特色を活かしてより適切に機能し得るよう、教育研究組織について適宜見直しを行う。

中期計画	番号	年度計画	所管部署	業務の実績	自己評価
２　教育研究組織の見直しに関する目標を達成するための措置					
教育、研究に対する社会的ニーズを踏まえつつ、大学がその特色を活かしてより適切に機能するために、学部学科や入学者定員の改編、大学院の設置等の教育研究組織の見直しを行う。	Ⅳ-2-1	５年間の入試の結果を踏まえ、区分毎の入学者定員を再考する。	教育企画委員会、学生課	●選抜方法、区分毎の入学者定員の検討 　入試部会が中心となり、学生のGPA等の学力調査結果を基に入学者選抜区分との相関の分析を各学科で実施したところ、選抜区分による有意な差は確認できなかったため、区分毎の入学者定員は現状維持とした。今後、実験・実習を除いたGPAなどの指標を用いた分析についても検討し、選抜方法の点検材料とする。 ●入学者選抜における科目等の検討 　また、令和７年度からの共通テストの出題教科、科目の変更に伴う対応として、「情報」は課さないこととし、大学ホームページに公表した。 　国際文化交流学科 一般選抜（中期日程）では、成績を利用する科目の選択方法の見直しを行い、令和7年度入学者選抜より、以下のとおり変更することを12月大学ホームページにて公表した。 【変更後の科目選択方法（引用）】 　『地理歴史、公民、数学、理科』については、当該教科の中から得点上位の 2 教科 2 科目の成績を利用します。 　ただし、次の点にご注意ください。 　（１）『地理歴史、公民』で２科目受験している場合は、第 1 解答科目の成績を利用します。 　（２）『理科』で２科目受験している場合は、第１解答科目の成績を利用します ●募集要項の公表 ・9/15学生募集要項（学校推薦型選抜、社会人選抜）をHP上に掲載 ・11/1学生募集要項（一般選抜）をHP上に掲載	3

中期計画	番号	年度計画	所管部署	業務の実績	自己評価
	Ⅳ-2-2	文部科学省への大学院博士後期課程設置認可申請書の計画に沿って、開設準備を進める。	全学	令和５年３月に行った博士後期課程設置認可申請書の計画に沿って開設準備を進め、９月に文部科学大臣から博士後期課程設置認可を「可」とする旨の答申を受けた。 博士後期課程の開設に向け、入学者選抜や施設整備、広報活動、学内規則の整備などを連携して行った。第１期生となる令和６年度入学者は、定員を上回る人数を確保することができた。 【大学院博士後期課程認可申請】 ・３月17日　設置認可申請書提出 ・６月28日　博士後期課程設置認可申請に係る補正申請書提出 ・９月４日　文部科学大臣（大学設置・学校法人審議会）より 博士後期課程設置認可を「可」とする旨の答申（開設時期：令和６年４月） 【博士後期課程入学者選抜試験】 ・博士後期課程入学者 生産システム科学専攻3名、ヘルスケアシステム科学専攻3名、グローカル文化学専攻3名 ・第１期募集 生産システム科学専攻 11/11　受験者3名　合格者3名 グローカル文化学専攻 11/25　受験者3名　合格者3名 ・第２次募集 ヘルスケアシステム科学専攻 3/12 受験者4名　合格者3名 【施設整備】 ・４月　ビジネス創造プラザを小松市から全館借用 ・６月５日　末広キャンパス研究実験棟　竣工式 ・７月25日　末広キャンパス研究実験棟登記手続き完了 【広報活動】 令和６年４月大学院博士後期課程開設認可について ・８月30日　小松市・報道機関周知 ・９月１日　懸垂幕設置 （こまつアズスクエア、小松市役所） ・９月６日　大学ホームページニュース記事掲載 （認可について、懸垂幕の設置について） ・３月　Tachyon３月号に掲載 【規則・規程整備】 ・３月　各種規則・規程の制定、改正 改正：大学学則、大学院学則、研究科規程、学位規程、授業料規程、公印規則 制定：長期履修規程	5

３　人事の適正化に関する目標

(1)　人事管理の適切な運用

中期目標	適材適所の人材配置を行うとともに、教職員の資質向上のための研修制度を整備する。また、教職員のエフォート及び実績を適切に評価する制度を構築することによって、教職員のモチベーションを高め、教育研究活動及び業務の活性化を図る。

中期計画	番号	年度計画	所管部署	業務の実績	自己評価
３　人事の適正化に関する目標を達成するための措置　－　(1)　人事管理の適切な運用					
①ＦＤ及びＳＤ活動を実施し、構成員の資質・能力の向上を図る。（再掲）	Ⅳ-3-1	**【Ⅳ-1-6】再掲** 効果的なＦＤ及びＳＤ活動を実施するため、教職員に共通する課題や、求められる知識及び技能を整理し、全学的な内部質保証の視点を踏まえ、研修を企画立案する。また、公立大学協会などの外部機関が主催する研修も積極的に取り入れる。	ＦＤ・ＳＤ推進委員会	年間を通じて研修会を開催し、職員の管理運営や教育・研究についての資質向上に取り組んだ。また、令和５年度は、各部局から要望のあった２テーマを取り上げ参加者のニーズに沿った研修を実施した。 　また、本学主催の研修のほか、公立大学協会や大学コンソーシアムなど複数の学外研修に多くの教職員がオンラインで参加した。 【公立小松大学】 ・４月13日　新規採用教職員研修 山本学長・千葉事務局長講話「公立小松大学について知る」 参加：教員９名、職員３名 ・９月７日　小松市消防本部救命講習会 「心肺蘇生法、ＡＥＤの使用法（説明と実技）」 参加：教員７名、職員11名 ・11月29日　第１回FD・SD研修 森田育男氏「利益相反を含む研究不正防止」 参加：教員42名、職員16名 ・12月26日　第２回FD・SD研修 日本アイラック株式会社「教職員向け海外危機管理セミナー」 参加：教員25名、職員19名 ・２月20日　第３回FD・SD研修 坂原泰子氏　臨床心理士「危機状態の可能性がある学生への対応」 参加：教員42名、職員28名	4

中期計画	番号	年度計画	所管部署	業務の実績	自己評価
				【公立大学協会研修（オンライン）】 ・６月９日 公立大学の研究活動促進に資するための勉強会 「科研費申請の最新動向採択をつかむためのポイント解説！」 中安豪氏（ロバストジャパン株式会社　代表取締役） 参加：教員15名 【その他主催（オンライン）】 ・８月18日　教職員・情報通信技術支援員（ICT支援員）著作権講習会 「デジタル社会を支える“知財人材”を育むために」 文化庁著作権課 参加：教員３名 ・９月15日　大学コンソーシアム 「生成AIのあれこれ」 長谷川忍氏（北陸先端科学技術大学院大学遠隔教育研究イノベーションセンター　教授） 参加：教員６名 ・11月6日　大学コンソーシアム 「合理的配慮について」 河野俊寛氏（北陸大学教授） 参加：教員６名、職員２名 ・３月12日　大学コンソーシアム 「金沢大学における教育 DX 推進について」 東昭孝氏（金沢大学学術メディア創成センター　助教） 参加：教員８名 ・３月25日　大学コンソーシアム 「科研費申請に向けて（２）」 稲垣美幸氏（金沢大学先端科学・社会共創推進機構　准教授） 参加：教員９名、職員１名 ※職員研修については一部【Ⅳ-３-３】に記載。	
②職員のエフォート及び実績が処遇に適切に反映される評価制度を構築、実施する。	Ⅳ-3-2	事務職員について、職員評価制度に基づき、評価を実施する。教育職員については、評価制度の実施案を検討する。	総務課	【事務職員評価】 ・5月、11月　勤務成績評価実施要項に基づく勤務評価を実施	3

(2)　教職員の採用

中期目標	教職員の採用は、中長期的な視点に立って行うものとし、原則として公募により行う等、公平性、透明性及び客観性が確保される制度を構築する。また、採用にあたっては、次代を担う教職員を育成していくため、バランスのとれた教職員構成となるよう取り組む。

中期計画	番号	年度計画	所管部署	業務の実績	自己評価
3　人事の適正化に関する目標を達成するための措置　－　(2)　教職員の採用					
質の高い教育研究・管理運営を実施していくため、優秀な職員を採用、育成する制度を構築し、運用する。	Ⅳ-3-3	人員配置計画に沿った適正な職員採用を行うとともに、職員の能力向上を図るための研修を実施する。	総務課	質の高い人材確保に向け、公立小松大学教員選考基準及び定められた手続きに基づき、適正・公平に職員採用試験を実施した。事務職員についても、計画的に職員採用試験を実施し、欠員補充を行った。 また、職員の能力向上を図るため、職務内容やキャリアに応じ、必要な研修を受講させた。 【令和6年度教育職員採用】 ○生産システム科学科（機械力学・教授または准教授1名募集）応募者3名 第1次選考試験　合格者なし ○生産システム科学科（流体工学、安全工学・助教、准教授または教授1名募集）応募者7名 第1次選考試験　1名 8月31日　第2次選考試験　合格 ⇒令和6年4月1日採用予定 ○看護学科（公衆衛生看護学・准教授または講師、助教1名募集）応募者なし ○国際文化交流学科（中国語学、中国語教育・教授、准教授または講師1名募集）応募者24名 第1次選考試験　3名 9月9日　第2次選考試験　1名合格 ⇒令和6年4月1日採用予定 ○国際文化交流学科 （異文化コミュニケーション分野及び観光関連分野・教授、准教授または講師1名募集）応募者9名 第1次選考試験　2名 9月9日　第2次選考試験　1名合格 ⇒令和6年4月1日採用予定 ○看護学科（成人看護学・准教授、講師または助教1名募集）応募者1名、第1次選考試験　不合格 ○看護学科（在宅看護学・教授、准教授または講師1名募集）応募者1名、第1次選考試験　１名 12月４日　第2次選考試験　合格 ⇒令和6年4月1日採用予定 ○生産システム科学科（ロボティクス・メカトロニクス・教授または准教授1名募集）応募者6名 第1次選考試験　1名 12月25日　第2次選考試験　合格 ⇒令和6年4月1日採用予定 ○国際文化交流学科 （中東地域・イスラーム世界の政治・社会・歴史・教授、准教授または講師1名募集）応募者10名 第1次選考試験　3名 1月10日　第2次選考試験　1名合格 ⇒令和6年4月1日採用予定 ○看護学科（【再公募】公衆衛生看護学・准教授または講師、助教1名募集）応募者なし ○看護学科 ・老年看護学・教授・准教授または講師1名募集中（令和7年4月1日採用） ・成人看護学・准教授・講師または助教1名募集中（令和6年6月1日採用） ・小児看護学・教授・准教授・講師または助教1名募集中（令和6年6月1日採用）	4

中期計画	番号	年度計画	所管部署	業務の実績	自己評価
				【令和5年度採用・令和6年度採用　職員採用試験】 令和5年度採用 2人程度、令和6年度採用 2人程度募集 ・5月上旬　広報こまつ、新聞広告、大学HPで募集 ・5月中旬　受験申込受付 応募者：令和5年度採用　8名 令和6年度採用　8名 ・6月18日　第1次試験 令和5年度採用：受験者8名のうち5名合格 令和6年度採用：受験者7名のうち4名合格 ・7月22日　第2次試験 令和5年度採用：受験者4名のうち2名合格（うち1名辞退） 令和6年度採用：受験者4名のうち3名合格（うち1名辞退） 【職員研修】 ・4月6日　初任者研修　小松市役所主催 「ビジネスマナー」、「仕事の進め方」　事務職員4名参加 ・8月28・29日　公立大学協会職員セミナー　東京 「職員育成研修」職員1名 ・7月14日　共済事務担当者会議　京都 「共済年金制度、福祉事業の事務について」参加1名 ○小松市との間で研修を目的とした人事交流を実施。本学職員1名を派遣した。	
	Ⅳ-3-4	ダイバーシティ推進の観点から、年齢・国籍・性別・価値観・障がいの有無などの「多様性」を尊重した採用の実施を図る。	総務課	【障害者雇用】 障害者2名雇用。 令和5年10月現在、法定雇用率を達成している。	4

4　大学運営の効率化・合理化等に関する目標

中期目標	財源及び人的資源を効率的かつ合理的に運用できる組織体制を整備するとともに、適宜、機能強化に向けた取り組みや見直しを行う。また、事務処理の最適化、外部委託の活用、情報化の推進等により、業務の効率化・合理化を図る。

中期計画	番号	年度計画	所管部署	業務の実績	自己評価
4　大学運営の効率化・合理化等に関する目標を達成するための措置					
①資源を効率的かつ合理的に運用できる体制を整備する。 ②事務処理の最適化、外部委託の活用、情報化の推進等により、業務の効率化、合理化を図る。	Ⅳ-4-1	年間の予算や業務量、業務内容の状況について把握評価しつつ、適切な予算執行のための体制づくりを進めるとともに、複数キャンパス運営下での法人業務及び大学運営業務の最適化を図る。	総務課、財務課	評価室ヒアリングの実施により、事業の実績、進捗状況の確認、懸案事項の共有を行い、各所属における業務を把握、評価した。また、部局長等連絡会議等の定期開催により、部局・事務局間の調整、情報共有を行った。 ［会議開催等による部局間の情報共有］ ※【Ⅳ-１-１】、【Ⅳ-１-２】、【Ⅳ-１-５】に掲載。 ［システム活用・業務効率化］ ・９月に人事給与システム・財務会計システムに給与明細WEB閲覧機能を追加し、 配布作業に係る作業時間の削減、封筒代・印刷代等のコスト削減につなげた。 ・Microsoftアプリを活用したオンライン会議やデータ共有、アンケート等を実施。 全学的な会議でのオンライン活用（Teams） アンケート実施時の活用（Forms） 学内情報公開での活用（Sharepoint） 【マニュアル見直し】 ・４月　研究費等執行マニュアル、予算執行マニュアルが、現状と乖離がないか確認し修正した。 ・３月　北陸新幹線延伸に伴い出張の際の職員の負担軽減（特急支給要件の緩和）を図るため、 旅費申請マニュアルを改正した。	4
	Ⅳ-4-2	引き続き、研修等により職員のコスト意識を高め、経費の縮減に取り組む。職員の自発的な業務改善を促し、具体的な取り組み・改善につなげる。	総務課	人事給与システム・財務会計システムを適切に運用するとともに、Microsoft365の各種アプリの活用を推進し、事務処理の合理化に資した。 また、旅費申請マニュアルの改正を行い、出張の際の職員の負担軽減に繋げた。 ［業務改善］ ・人事給与システム・財務会計システムに給与明細WEB閲覧機能を追加。 給与明細配布作業に係る作業時間の削減、封筒代・印刷代等のコスト削減につなげた。 ・Microsoftアプリを活用したオンライン会議やデータ共有、アンケート等を実施。 全学的な会議でのオンライン活用（Teams） アンケート実施時の活用（Forms） 学内情報公開での活用（Sharepoint） ・旅費申請マニュアルの改正 北陸新幹線延伸に伴い出張の際の職員の負担軽減（特急支給要件の緩和）を図った。	3

Ⅴ　財務内容の改善に関する目標

１　自己収入の増加に関する目標

(1)　学生納付金

中期目標	法人運営における基礎的な収入である学生納付金については、入学定員の確保や社会情勢、他大学の水準及び法人収支の状況を勘案して、適切な料金設定と安定した収入確保に努める。

中期計画	番号	年度計画	所管部署	業務の実績	自己評価
１　自己収入の増加に関する目標を達成するための措置　－　(1)　学生納付金					
効果的な学生募集活動の展開による入学志願者の確保及び入学定員の充足に努め、安定した学生納付金の確保を図る。	Ⅴ-1-1	【Ⅱ-1-17】再掲 オンラインの活用も図りながら、大学説明会の開催或いは合同説明会への参加、オープンキャンパスや高校訪問を実施し、学生募集活動を展開する。 引き続き、入学者の声及びこれまでの教育の成果を積極的に入試広報に活用する。	教育企画委員会（入試部会）	北陸三県・東海・信越地方など各地の高校に対して入学者選抜要項、大学案内等の送付に加え、高等学校進路指導教諭対象大学説明会、高校訪問において延べ77校に対して本学の概要を説明するなど入学定員の充足に努めた。オープンキャンパスは７月に３キャンパスにおいて実施し、396名が参加した。 ［オープンキャンパス］ 参加人数に制限ををかけた上で実施した。 日　　程：７月15日 参加人数：３キャンパス（3学部4学科）合計396名 （内訳　生産79名、看護97名、臨床124名、国際96名） ※参考：令和４年度参加人数　281名 ［大学見学］ オープンキャンパスに参加できなかった受験生等の見学の受け入れを行った。 ※夏休み期間のみの対応 生産：2組、臨床：3組、国際：2組 ［高等学校進路指導教諭担当大学説明会］ 北陸三県の高校教諭（進路指導）を対象とした大学説明会を２会場（小松、金沢）で開催し、37校の参加となった。 ※会場別参加校 小松会場（7/3）：15校、金沢会場（6/30）：22校 ［高校訪問］ 教員・事務職員による高校訪問を６月及び９月に実施。 北陸三県の高校から出願が多い高校にアポイントを取り実施した。 6月36校、9月15校（令和4年度訪問実績、6月：23校、9月17校） ［進学相談会］ 業者主催の進学相談会に参加した。 金沢7回、小松3回、富山2回、福井4回、名古屋3回、大阪1回（オンライン） ※大学コンソーシアム石川主催の合同進学説明会「ガクフェス」は今年度より中止。 今後は他県の高校教員を迎えるキャンパスツアーの開催に力を入れていく予定。 今年度はキャンパスツアーの情報交換会に参加した。	4

(2)　外部資金等の獲得

中期目標	学生納付金及び運営費交付金に加え、科学研究費補助金をはじめとする競争的研究資金の獲得や、産学官連携、地域連携による共同研究費、受託研究費の確保に努める。また、基金・寄附金制度の設立等財源確保に向けて取り組む。

中期計画	番号	年度計画	所管部署	業務の実績	自己評価
1　自己収入の増加に関する目標を達成するための措置　ー　(2)　外部資金等の獲得					
①科学研究費補助金及び各種補助事業等による研究助成に関する情報収集・申請・受入等の研究支援体制を充実させ、外部研究資金の獲得増加を図る。 ②産学官連携、地域連携を推進し、共同研究費、受託研究費の充実を図るほか、寄附金等の獲得に努める。	V-1-2	科学研究費補助金及び各種補助研究助成への申請、獲得状況などについて教員別、学科別等に分析し、採択率向上に資する。産官学連携担当特任教授の活用等により、外部資金獲得に努める。	財務課	科研費・受託研究等については、採択件数、応募件数等ごとに一覧表を作成し申請・獲得状況を把握。 ※参考 【R5年度科研費実績】 ・新規　12件　基盤Ｂ　3件（生産 2件、臨床 1件） 基盤Ｃ　5件（看護1件、臨床2件、国際2件） 若手　3件（臨床2件、国際 1件） 挑戦的（開拓）1件（ｸﾞﾛｰｶﾙ1件） ・継続　41件　基盤Ｓ　1件（ｸﾞﾛｰｶﾙ1件） 基盤Ｂ　1件（臨床 1件）※延長1件含む 基盤Ｃ　27件（生産 8件、看護 12件、臨床 4件、国際 3件） ※延長6件含む 若手　7件（看護 5件、臨床 1件、国際 1件） ※延長1件含む 新学術領域 1件（生産1件） 挑戦的（開拓）　1件（臨床1件） 挑戦的(萌芽)　1件（臨床 1件） 特別研究員奨励員　2件（臨床2件） 【R6年度科研費応募に対する採択実績】 ・採択　13件　基盤Ｂ 2件（看護 1件、次考ｾﾝﾀｰ 1件） 基盤Ｃ 9件（生産 3件、臨床 3件、国際 2件、次考ｾﾝﾀｰ 1件） 若手　2件（生産 1件、臨床 1件） ・採択率　27.7%（13件/47件） 【R6年度科研費応募実績】 ・応募　47件　学術変革Ａ 3件（生産 1件、臨床 2件） 基盤Ｂ　7件（生産 1件、看護1件、臨床 3件、院 1件、次考ｾﾝﾀｰ 1件） 基盤Ｃ　25件（生産 10件、看護 2件、臨床 5件、国際 7件、次考ｾﾝﾀｰ 1件） 若手　5件（生産 2件、看護 2件、臨床 1件） 挑戦的萌芽 6件（生産 3件、看護1件、院 1件、次考ｾﾝﾀｰ 1件） 奨励研究　1件（生産 1件） 【その他外部資金の実績】 ・助成金 新規　15件（生産 9件、臨床 3件、国際 1件、院 1件、国際交流ｾﾝﾀｰ 1件） 継続　9件（生産 3件、看護 1件、臨床 5件） 移管分 2件（臨床2件） 計　26件 ・奨学寄附金 新規　1件（臨床 1件） 継続　2件（生産 2件） （完成年度以降目標値　5件） ※このほか、応募型受託研究　臨床3件、地連ｾﾝﾀｰ1件、院1件あり	4

中期計画	番号	年度計画	所管部署	業務の実績	自己評価
				【共同研究・受託研究の実績】 ・共同研究 10件（生産7件、臨床 3件） ・受託研究　7件（生産 4件、国際 2件、院 1件） （完成年度以降目標値 10件） 【産官学連携担当特任教授の活動】 産官学連携担当特任教授（4名）を配置し、北陸３県の企業等を中心として、本学で行っている研究分野やシーズの紹介、協力企業等への協力依頼を実施。 ［協力企業等団体数］ ・392団体 ［訪問活動実績（協力企業等の依頼）］ ・161件（オンライン含む）	
	V-1-3	積極的な情報発信により、公立小松大学基金の受入れを促進する。同窓会と連携し、卒業生を始め広く本学の教育研究等の成果を周知し、寄附金等の受入を促進する。	財務課	パンフレット「公立小松大学基金への寄附のご案内」の活用、ホームページでの基金の紹介、活用実績の掲載により基金の受け入れを促進している。 ［パンフレットの発行］ ・協力企業に大学広報誌を送付する際に同封 ・同窓生に対し会報を送付する際に同封 ［基金運営委員会］ ・5月9日開催 ［基金の活用事例］ 活用実績については大学HPに掲載 ・成績優秀者等への学長表彰 ・公認サークルへの助成 ［寄附の実績］ 月別内訳 ・ 4月　3件　1,007千円 ・ 5月　4件　115千円 ・ 6月　4件　75千円 ・ 8月　1件　100千円 ・10月　4件　3,450千円 ・11月　2件　399千円 ・12月　1件　50千円 ・ 1月　4件　4,150千円 ・ 2月　1件　10千円 ・ 3月　3件　105千円 計　27件　9,461千円 ［寄附者内訳］ ・大学関係者　8件　430千円 ・保護者　8件　331千円 ・一般　5件　6,050千円 ・企業　6件　2,650千円 計　27件　9,461千円 ※令和４年度実績　計47件　5,139千円	4

２　経費の抑制・効率化に関する目標

中期目標	安定的な大学運営を行うため、収支計画、資金計画、人員配置計画、施設・設備計画等を策定することにより、法人全体の収支構造を中長期的に把握するとともに、業務の効率化、契約方法の合理化、無駄の防止を図る業務改善、教職員のコスト意識の徹底等により経費の縮減に努める。

中期計画	番号	年度計画	所管部署	業務の実績	自己評価
２　経費の抑制・効率化に関する目標を達成するための措置					
①教育研究・地域貢献の水準の維持・向上と経費抑制に配慮した中長期の展望にもとづき、収支計画、人員配置計画、施設・設備計画等を策定し、実施する。	Ⅴ-2-1	各キャンパスの施設・設備の長寿命化計画に基づき、整備を適切に実施する。	財務課	キャンパス老朽度調査による長寿命化計画に基づく整備を進めた。第２期の整備に向け、業者との打ち合わせにより概算額を見積もった。粟津キャンパス分は、令和７年度予算等で対応する予定である。 ・粟津キャンパス 防水　11,600千円 屋根　143,600千円 外壁　105,600千円 LED化　45,000千円 内装　14,400千円 空調　30,600千円 ＷＣ　3,850千円　総額 328,000千円 設計　26,650千円 ・末広キャンパスＡ棟 防水　15,300千円 屋根　23,200千円 外壁　13,000千円　総額　47,600千円 設計　3,900千円	4
	Ⅴ-2-2	**【Ⅳ-1-4】再掲** 評価室及び自己点検評価・内部質保証推進会議による定期的な業務チェック、聞き取りなどにより、事務局内の構成及び業務の質・量の検証を行い、組織の適正化と職員の適正な配置を図る。	総務課	令和５年４月１日付で、次世代型の考古学研究を中核として、他の大学・研究機関にない特色のある次世代考古学研究センターを創設し、必要な職員を配置した。 【大学組織】 ・４月1日　次世代考古学センターを新設 【業務進捗管理】 評価室及び自己点検評価・内部質保証推進会議による業務進捗管理を実施 ※Ⅳ-1-2参照	4

中期計画	番号	年度計画	所管部署	業務の実績	自己評価
	V-2-3	中長期の大学運営を見据えて、人員配置計画を適宜見直す。必要に応じて、特定分野の専門知識を有する職員採用又は登用の検討を行う。	総務課	大学院博士後期課程の開設並びに完成年度後の適切な大学運営、教育研究活動を見据え、教職員の採用及び配置を行った。また、部局長、附属施設長、客員教授（大学院）、特任教授（業務担当別）の選任を行った。 ［人員配置実績］ R5.4.1（実績） 教育職員（常勤） 生産システム科学科 21 看護学科 25 臨床工学科 14 国際文化交流学科 18 サステイナブルシステム科学研究科 3 キャリアサポートセンター 1 医療職員 常勤 3 非常勤 1 技術職員 常勤 1 事務職員 常勤 27 非常勤 8 計 122 ※令和６年度教育職員採用、事務職員採用については【Ⅳ-3-5】参照	4
②職員のコスト意識を高め、契約方法の合理化、業務改善、経費縮減に取り組む。	V-2-4	**【Ⅳ-4-2】再掲** 引き続き、研修等により職員のコスト意識を高め、経費の縮減に取り組む。職員の自発的な業務改善を促し、具体的な取り組み・改善につなげる。	総務課	人事給与システム・財務会計システムを適切に運用するとともに、Microsoft365の各種アプリの活用を推進し、事務処理の合理化に資した。 また、旅費申請マニュアルの改正を行い、出張の際の職員の負担軽減に繋げた。 ［業務改善］ ・人事給与システム・財務会計システムに給与明細WEB閲覧機能を追加。 給与明細配布作業に係る作業時間の削減、封筒代・印刷代等のコスト削減につなげた。 ・Microsoftアプリを活用したオンライン会議やデータ共有、アンケート等を実施。 全学的な会議でのオンライン活用（Teams） アンケート実施時の活用（Forms） 学内情報公開での活用（Sharepoint） ・旅費申請マニュアルの改正 北陸新幹線延伸に伴い出張の際の職員の負担軽減（特急支給要件の緩和）を図った。	3
	V-2-5	業務内容の点検により、経費抑制のための分析を行う。また、予算編成方針・予算配分の見直しを実施し、予算を適正に活用する。	財務課	【長期継続契約の推進】 契約期間が複数年になることを受け、事務の効率化を図ることや、従来の見積合わせから競争入札による公正性・競争性の確保する見地より、「公立大学法人公立小松大学長期継続契約要綱」による長期継続契約を積極的に推進、令和６年度からの契約を目指している。（５年間） ・清掃業務（R2.4.1～R7.3.31） ・消防保守点検業務（粟津、A棟・C棟、B棟） ・昇降機保守点検業務（粟津、学生寮、末広） ・空調機保守管理業務（粟津、末広） 【駐車許可証の発行見直し】 「公立大学法人公立小松大学職員駐車場利用要綱」を一部改正し、許可期間を毎年更新から本学に勤務終了までに変更した。職員が本学に勤務する限り一職員一申請・許可とすることで、職員の駐車許可証交付申請の簡素化及び事務担当者の業務改善を図った。	4

３　資産管理の改善に関する目標

中期目標	大学施設や知的財産等、法人が保有する資産の適正な管理を図るとともに、資産の有効な活用に努める。

中期計画	番号	年度計画	所管部署	業務の実績	自己評価
３　資産管理の改善に関する目標を達成するための措置					
① 資産の状況を定期的に把握・分析し、適正に管理する。	Ⅴ-3-1	資産の活用状況を踏まえ、適正に管理する。また、各キャンパスを管理する部署との連携、情報共有を徹底する。	財務課	［資産管理］ 　インターネットバンキングによる預金残高を把握し、「公立大学法人公立大学会計規則」第44条の規定による資金の運用を図っている。また、適切な現金預金の運用を行うため、財務課内で勉強会の実施している。 　今後は、地方独立行政法人法第43条による余裕資金の運用方法として、市内金融機関より金利が高いネット銀行の活用や国債・地方債など債券による運用を検討していく。	3
② 大学の施設設備の適切かつ計画的な保守管理を行う。	Ⅴ-3-2	消防法や文部科学省からの通達を遵守し、大学の施設設備を定期的に点検し、保守管理する。	財務課	粟津・末広キャンパスにおいて各種点検を実施し、施設設備の現状の把握を行っている。また、中央キャンパスでは、各種の法定点検を建物の管理会社が実施しているほか、消防計画に基づいた消防設備、避難経路の点検を月に一度実施している。なお、老朽化が進む粟津キャンパス、末広キャンパス（Ａ棟）については、点検等により判明した設備の故障や不備について、随時小修繕を実施している。 ［点検の内容］ ・電気設備保安管理業務 ・合併浄化槽保守点検業務 ・学生寮及びキャンパス内エレベーター保守点検業務 ・消防用設備保守点検業務 ・受水槽水質検査 ［自主点検］ ・10月3日　粟津キャンパス消防訓練 消防署員による指導・訓練、通報および避難訓練、消火器取扱訓練 参加者：粟津キャンパス教職員、学生　45名	3
③ 大学運営に支障が生じない範囲内で施設の一般利用を促進し、適切な運用を図る。	Ⅴ-3-3	附属図書館など、大学運営に支障が生じない範囲内で、大学施設の市民利用を図る。	財務課	※【Ⅱ-1-47】参照 ［施設貸付の実績］ ・粟津キャンパス　177件（うち148件は運動場、19件は体育館の利用） ・中央キャンパス　28件（うち26件はこまつ市民大学） ・末広キャンパス　0件 総計　205件 （年度計画目標値　25件）	3

Ⅵ　自己点検・評価及び情報の提供に関する目標

１　評価の充実に関する目標

中期目標	大学の自己点検・評価体制を整備し、自己点検・評価を定期的に実施するほか、小松市公立大学法人評価委員会が行う法人評価の結果と併せ、大学運営を継続的に見直す。

中期計画	番号	年度計画	所管部署	業務の実績	自己評価
１　評価の充実に関する目標を達成するための措置					
① 教育研究水準の向上を図り、大学の目的及び社会的使命を達成するため、自己点検・評価委員会を設置し、教育研究活動等の状況について自己点検・評価を実施する。	Ⅵ-1-1	半期ごとに評価室ヒアリングを実施し、令和５年度における業務実績の進捗状況の取りまとめを行う。	総務課、評価室	【自己点検・評価】 進捗状況は、【Ⅳ－１－２】に記載。	4
	Ⅵ-1-2	評価室で取りまとめた各部局等の業務実績の進捗状況について、推進会議を開催し、全学レベルの自己点検及び評価を行うとともに、アセスメントプランに基づき、内部質保証体制の確立と向上を図る。 内部質保証は、多様なステークホルダーの視点を踏まえて行う。	自己点検評価・内部質保証推進会議	業務実績報告及び認証評価にかかる事項について適切な時期に自己点検評価・内部質保証推進会議を開催し、審議・報告を行った。自己点検評価・内部質保証推進会議においては、教育企画委員会と連携し、認証評価にかかる指摘事項への対応を行った。 【自己点検評価・内部質保証推進会議】 ・５月17日　第１回会議 　・認証評価（点検評価ポートフォリオ・実地調査） 　・卒業時アンケート、入学時アセスメントテスト ・６月14日　第２回会議 　・令和４年度業務実績報告書 ・２月14日　第３回会議 　・認証評価評価報告書の報告 　・認証評価指摘事項への対応	4

中期計画	番号	年度計画	所管部署	業務の実績	自己評価
	Ⅵ-1-3	令和５年度大学機関別認証評価の受審にあたり、点検評価ポートフォリオの作成、書面審査及び実地調査等に適切に対応する。	自己点検評価・内部質保証推進会議、総務課	本学初の受審となった認証評価では、書面審査及びオンラインによる実地審査等に適切に対応し、「大学評価基準を満たしている」との適合認定を受け、その結果を３月に大学ホームページを通じて社会に広く公表した。 なお、評価報告書にて指摘された「改善を要する点」２点は、学部・大学院のＡＰ及びＣＰに関する指摘であり、それぞれ教育企画委員会、研究科委員会にて対応を行った。「今後の進展が望まれる点」４点のうち２点（成績評価基準に関する事項、シラバスの項目に関する事項）においても同様に対応済みであり、残りの２点（学校教育法に基づく自己点検評価に関する事項、成績評価アンケートに関する事項）については、引き続き対応を検討していく。 また、受審結果は、第１期中期目標期間終了時における実績及び自己評価を内容とする業務実績報告書に、内容を反映させるとともに、内部質保証に基づく教育改革の推進に役立ていく。 【認証評価】 ・実施機関　（一財）大学教育質保証・評価センター ・実施時期　令和５年度受審 ・実施スケジュール ５月　点検評価ポートフォリオ提出 ７月　事務的な確認事項①回答 ８月　事務的な確認事項②回答 学生・教職員・卒業生へアンケート調査 ９月　書面による確認事項回答 実地調査事前提出資料提出 10月６日　実地調査　①大学責任者面談、②評価審査会 ⇒評価実施チーム指摘事項 改善を要する事項３件、 適切な対応を期待する事項５件 11月～２月　指摘事項への対応 追加確認事項の回答 意見申し立て（申し立て無し） ３月15日　評価報告書の通知 「大学評価基準を満たしている」 優れた点　２点 改善を要する点　２点　（※４月現在　２点とも対応済み） 今後の進展が望まれる点　４点　（※４月現在　２点対応済み、２点対応検討中）	5

中期計画	番号	年度計画	所管部署	業務の実績	自己評価
② 小松市公立大学法人評価委員会による評価を受け、課題を把握し、解決に向けた取り組みを進める。	Ⅵ-1-4	小松市公立大学法人評価委員会に法人の運営状況について適宜報告を行うとともに、評価委員会の指摘事項を全学で共有し、課題解決に向けた取り組みを進める。	総務課、評価室	【業務実績の進捗管理・報告】 進捗状況は、【Ⅳ-１-２】に掲載。 【小松市公立大学法人評価委員会の評価】 令和４年度の教育研究活動及び業務運営について、業務実績に係る自己点検評価及び法人評価委員会による評価の受審を行い、評価結果を大学ホームページにて公表した。指摘事項については全学会議で周知し、改善に努めた。 また、第２期中期目標・計画の策定においては、法人評価員会の評価・意見を反映させた。 令和４年度の業務実績：全体評価Ａ 第１期中期目標終了時の検討： 「引き続き中期目標達成に向け、法人に業務を継続させることが必要と判断」	4

２　情報公開と情報発信の推進に関する目標

(1)　積極的な情報提供の推進

中期目標	公共性を有する法人として、法人経営・大学運営の透明性を確保するため、教育研究活動や業務運営等に関する積極的な情報提供を行う。

中期計画	番号	年度計画	所管部署	業務の実績	自己評価
２　情報公開と情報発信の推進に関する目標を達成するための措置　－　(1)　積極的な情報提供の推進					
公立大学法人として法人情報の適切な管理に努めるとともに、市民に対する大学経営の透明性を図るため、大学の基本情報や経営情報、自己点検・評価、外部評価等についてホームページ等により積極的に情報を公開する。	VI-2-1	法令上公表が義務付けられている事項はもとより、法人運営の状況についてホームページ等を通じて情報を積極的に公開する。	総務課、広報室	法令上公表が義務づけられている事項について、引き続きＨＰで公開し、適宜最新の情報に更新した。また、理事会、経営審議会及び理事会の議事概要についても、随時最新情報に更新した。 ［ＨＰに法定や情報公開の点から掲載している情報］ ・大学運営に関する情報：各種会議の規則、名簿、議事概要 ・法人情報：定款、役員名簿、業務方法書等 ・計画・目標：中期目標、中期計画、年度計画 ・外部評価：業務実績報告書、業務実績の評価 ・財務情報：財務諸表、事業報告書、決算報告書、監査報告、決算概要 ・教育情報：学校教育法施行規則に定められている事項 ・その他：研究倫理規程、学長選考に関する情報　等	4

(2)　効果的な広報活動の推進

中期目標	大学が行う活動について広く社会に示すとともに、地域の理解を得ていくため、大学の広報や情報発信を組織的に行うための体制を構築し、特色ある教育研究活動や地域連携等の活動に関する広報を行う。

中期計画	番号	年度計画	所管部署	業務の実績	自己評価
2　情報公開と情報発信の推進に関する目標を達成するための措置　－　(2)　効果的な広報活動の推進					
学生募集や産学官連携、地域連携活動等の推進につなげていくため、大学の広報や情報発信を組織的に行う体制を構築し、ホームページ等の様々な広報媒体を活用して積極的な情報提供を行う。	VI-2-2	ホームページや大学広報紙、プレスリリースなどを通じて、本学の優れた教育、研究、地域連携及び国際交流等の取組に係る情報を幅広く発信する。中長期的な視点で広報活動を展開する。	広報室	広報マニュアルを踏まえ、広報室が中心となって、広報活動を展開した。 ［広報室の活動］ ・定例会議の開催（年10回） ・5/12 広報マニュアルの改訂・全教職員へ周知 ・7/11　HPニュース記事掲載事例を事務職員および教職員に周知【新規】 ［広報室学生委員の活動］ ・4/2　入学式新入生インタビュー→大学広報紙Tachyon9号で紹介 ・6/15　学生委員募集チラシを中央キャンパスに掲示 ・7/19　【新規】取材・撮影研修会開催（講師：ストアインク小林様、山本様） ・8月　【新規】広報室学生委員インスタグラムの開設 ・10月　サークル紹介ページ「突撃！サークル活動」を更新 （バスケットボールサークル追加） ［大学案内2023の発行］ ・2022年6月発行、全48ページ、10,000部 ・主な更新ページは以下のとおり P7・8　学部長・学科長・専攻長を写真付きで掲載。 理事・監事・特任教授を追記。 P13-28　各学科ページの学部長・学科長のあいさつ文を削除。 卒業後の進路を新規掲載。国家試験の合格率も追記。 P31-36　研究科紹介ページを6ページ追加（大学院入試情報含む）。 P37　教員一覧の更新 P44　3キャンパスの概要を1ページ追加。 ・大学案内英語版の更新（印刷製本は行わず、PDFで更新） 研究科ページ追加、キャンパスライフ追加、海外協定校追加 ［ウェブサイトの運用］ ・随時、サイト情報更新、NEWSページの作成 NEWS記事掲載 4月～3月：106（イベント10、ニュース96）※令和3年度：99 3月末時点　Webページ数：157ページ　※令和3年度：175ページ 4月～3月 PV（ページビュー）1,125,484（前年同期比-16.0%） ※前年同期　PV（ページビュー）1,340,086 ・英語版ウェブサイト 随時、サイト情報更新　Webページ数：16ページ ※前年同期：12ページ（大学院ページを4ページ追加）	4

中期計画	番号	年度計画	所管部署	業務の実績	自己評価
				［広報誌Tachyonの発行］ ①2022年9月　第9号　全8ページ　3,500部発行 　特集：第一期生就職実績 その他：トピックス、学長中米訪問、お旅まつり体験記、 輝く小松大生、教員紹介（岩橋教授（臨床））、令和5年度入試情報、 第5回青松祭 10/11　保護者、協力企業、北陸3県高校、市内公共施設、卒業生等に配付 ②2023年3月　第10号　全8ページ　3,500部発行 特集：青松祭 その他：トピックス、国際交流／海外連携事業、 教員紹介（橋本先生（国際））、将棋サークル紹介、同窓会 3/7　保護者、協力企業、北陸3県高校、市内公共施設、卒業生等に配布 ［広報誌Tachyon Academiaでの研究者紹介］ 2022年9月　2号　全8ページ　3,500部 歌野原教授（生産）「エネルギー産業へ貢献する熱流体工学研究」 松井教授（看護）「“がんサバイバー”が抱える皮膚の問題を解決するシステムの開発研究」 西村教授（国際）「公立小松大学本『勧進帳』で読み解く明治12年、芸能史の画期」 ［ラジオこまつの活用］ ①広報番組「世界に向かって飛び立て!公立小松大学」 　９月～毎週土曜日9：30～9：45 　学部学科紹介、研究紹介、学生の生の声など 　※放送済のものは、本学ウェブサイトで視聴可能 　9/3・10　坂本助教、大学院生、生産4年生 　9/17・24　歌野原教授、生産4年生 　10/1・8・15　青松祭実行委員 　10/22・29　岩田教授、大学院生（生産システム） 　11/5・12　松井教授（看護） 　11/19・26　看護1年生 　12/3・10　北浦教授（臨床） 　12/17・24・31　臨床3年生 　1/7・14　平山教授、大学院生（ヘルスケア） 　1/21・28　国際3年生 　2/4・11　朝倉准教授（国際） 　2/18・25　大学院生（グローカル）	

中期計画	番号	年度計画	所管部署	業務の実績	自己評価
				［Youtubeの活用］ ①ラジオこまつ広報番組「世界に向かって飛び立て!公立小松大学」の音声データをYouTubeチャンネルに公開　公開動画数：12本 ②PR動画を公開【新規】 受験生（高校生）に公立小松大学に入学した4年後の未来をイメージしてもらえるようなショート動画を制作。各学科の4年生が出演し、学科の魅力および本学で学んでよかったことを1～2分で語る。 公開動画数：4本 【SNSの活用】【新規】 8月　広報室学生委員インスタグラムの開設 学生目線での情報発信の強化を図り、大学や小松市の魅力等をより多くの人に写真と動画で伝えるため、広報室学生委員のインスタグラムアカウントを開設。 10/17　アカウント開設紹介 10/20　助成券使える店に行ってみたvol.1(町家食堂はるお) 10/22　青松祭ストーリーズ投稿 11/17　学内クリスマスツリーストーリーズ投稿 11/18　那谷寺ストーリーズ投稿 11/30　小松映えスポットvol.1（那谷寺） 12/26　小松映えスポットvol.2（駅前プロジェクションマッピング） ［その他媒体の活用］ ・各種広告掲載・新聞掲載 10/21　北國新聞　ジャパンテント協賛（青松祭告知広告） ・広報こまつ（市広報紙）掲載 8月号　大学職員募集 10月号　青松祭告知 ・サイエンスヒルズこまつ　大学紹介展示 9月　展示内容更新（学部紹介、研究者紹介など）	
	Ⅵ-2-3	学生・教員の取り組みや課外活動の成果などを、適切に把握・発信するため、広報マニュアルなどを通じて、教員からの各種報告の徹底を図る。	広報室	広報マニュアルの更新及び日々の新聞掲載のチェックを行っている。 ［主な取組］ ・5/12　広報マニュアルの改訂・全教職員へ周知 ・7/11　HPニュース記事掲載事例を事務職員および教職員に周知【新規】	3

Ⅶ　その他業務運営に関する目標

1　施設設備の整備及び活用に関する目標

中期目標	良好な教育研究環境の維持・向上のため、中長期的な構想に基づき、施設設備の充実整備を図る。

中期計画	番号	年度計画	所管部署	業務の実績	自己評価
1　施設設備の整備及び活用に関する目標を達成するための措置					
①良好な教育研究環境の維持・向上のため、中長期的な構想に基づき、施設設備の充実整備を図る。 ②キャンパスのバリアフリー化を進める。	Ⅶ-1-1	**【Ⅴ-2-1】再掲** 各キャンパスの施設・設備の長寿命化計画に基づき、整備を適切に実施する。	財務課	キャンパス老朽度調査による長寿命化計画に基づく整備を進めた。第２期の整備に向け、業者との打ち合わせにより概算額を見積もった。粟津キャンパス分は、令和７年度予算等で対応する予定である。 ・粟津キャンパス 防水　11,600千円 屋根　143,600千円 外壁　105,600千円 LED化　45,000千円 内装　14,400千円 空調　30,600千円 ＷＣ　3,850千円　総額 328,000千円 設計　26,650千円 ・末広キャンパスＡ棟 防水　15,300千円 屋根　23,200千円 外壁　13,000千円　総額　47,600千円 設計　3,900千円	4

中期計画	番号	年度計画	所管部署	業務の実績	自己評価
	Ⅶ-1-2	新型コロナウイルス感染防止対策を３キャンパス、その他施設で徹底する。アメニティの向上のための取組を実施する。	財務課、 学生課	［新型コロナウイルス感染防止対策］ ・手洗い用石鹸、手指消毒用アルコールは継続して設置 ［アメニティー向上］ ・全体 自動販売機の見直し（ユニバーサルデザイン、電子マネーの導入） ・粟津キャンパス 暑さ対策のため、図書館、学生ホールに業務用扇風機を設置(図書館：2台、学生ホール：2台) 学生からの要望より、図書館の学習スペース用にデスクライトの購入(3台) 学生寮運用（対象者拡大） 入寮状況　4年　男 5名（生産5名） 3年　男 5名（生産4名、臨床1名） 女 5名（生産1名、臨床3名、国際1名） 2年　男 3名（生産3名） 女 2名（臨床1名、国際1名） 院生　男 4名（生産2名、グローカル2名） 女 2名（グローカル2名） 留学　男 1名 女 2名 計　29名 ・中央キャンパス 昨年度に引き続き、講義室の上限人数を超える授業の一部については、映像設備装置を利用し、 複数の講義室に映像の同時配信を実施 ・末広キャンパス グランドピアノ寄贈（食堂に設置） 研究実験棟への移動用に自転車1台を配置	3
	Ⅶ-1-3	こまつビジネス創造プラザや町家の活用など、市や関係機関と連携し、設備の充実を図り、教育研究環境の向上につなげる。	総務課、 財務課	［町家ハウスDoihara］ 〇利用時間　平日9:00～21:00（土日祝使用不可） 4月にオリエンテーションで町家チラシを配布しPRを実施 月刊雑誌、観葉植物、四季の装飾で利用の促進を行っている ［ビジネス創造プラザ］ 1号室　ものづくり人材スキルアッププログラム講師控室 2・3号室　次世代考古学研究センター（国際文化交流学部と共同利用） 4・5号室　国際文化交流学部 6～9号室　グローカル文化学専攻研究室 10号室　小川特任助教研究室（大学院サステイナブルシステム科学研究科） 11号室　国際交流センター 12号室　盛永特任教授研究室（大学院サステイナブルシステム科学研究科） 13号室　島内教授研究室（国際文化交流学科） 14号室　中村特別招聘教授研究室（大学院サステイナブルシステム科学研究科） セミナールームはものづくり人材スキルアッププログラムの会場にも使用された。前期は5月～9月、後期は10月～1月の午前中に活用。なお、令和5年度よりセミナールームも含め、全館小松市から借用している。	4

２　安全衛生管理に関する目標

中期目標	学生及び教職員の健康及び安全を確保する体制を構築する。また、災害等による被害の発生に備えてリスク管理を徹底するとともに、災害等が発生した場合に適切かつ迅速に対応できる危機管理体制を整備する。さらに、個人情報を含む情報セキュリティ対策を講じる。

中期計画	番号	年度計画	所管部署	業務の実績	自己評価
２　安全衛生管理に関する目標を達成するための措置					
①学生及び職員の健康及び安全を確保する体制を構築する。	Ⅶ-2-1	職員を対象に定期健康診断とストレスチェックを実施するとともに、職員の安全衛生管理・健康管理を着実に行う。また、有給休暇の取得を促進するための取り組みを行う。	保健管理センター、安全衛生委員会、総務課	安全衛生委員会を定期的に開催。また、定期健康診断やストレスチェック等を実施し、職員の心身の健康の維持・増進に取り組んだ。 ［主な取組］ ・6/20～6/27　ストレスチェックの実施 ・9/21 定期健康診断実施 ・安全衛生委員会（上半期6回、下半期6回）開催 ・10/17～12/14　インフルエンザ予防接種の実施 ・9月・3月　特殊健康診断実施（有機溶剤及び特定化学物質を使用している教員5名） ［夏季休暇・有給休暇の取得促進］ 職員へ夏季休暇及び有給休暇の取得促進を通知。全職員の年5日以上の取得を実現した。 ［新型コロナウイルス感染症の予防対策］ 5類感染症移行によりサーモグラフィー体温計は撤去 手指消毒用アルコールおよび環境消毒用クロスの設置・補充等は継続 ［産業医による職場巡視］ 2か月に1度の職場巡視を徹底した ・実施日 末広キャンパス　6月・10月 中央キャンパス　7月・1日 粟津キャンパス　8月・12日 ・指摘事項 粟津キャンパスは次の事項の指摘を受けたため、改善した。 ①段ボールやディスプレイ等の重い物は棚の上に置かず、整理する ②ケーブル及び棚の固定 末広キャンパスは次の事項の指摘を受けたため、改善した。 ①研究室の火元責任者の表示	4

中期計画	番号	年度計画	所管部署	業務の実績	自己評価
	Ⅶ-2-2	【Ⅱ-1-23】再掲 健康診断の徹底や新型コロナウイルスなどの感染症予防、健康相談、保健情報提供等、健康支援のための取組を推進する。また、学生相談を３キャンパスで随時実施する。	保健管理センター	①学生定期健康診断 実施日：4月6日、7日 受診状況：受診者1006名／対象者（全学生）1036名　受診率97.1% 検査結果に対する対応： 　血圧・尿検査異常者91名に対し再検査を実施 　　血圧再検査異常者12名（学校医指示による指導8名、経過観察4名 　　尿再検査異常者5名（経過観察1名、顕微鏡的血尿2名、I型糖尿病1名） 　健診結果「要医療・要精検・要再検査」17名に対し医療機関への受診を勧奨 　　14名は医療機関受診済み 　　未受診の３名へは次年度の健診結果を注視し、必要に応じて受診勧奨・経過観察 ②学校医来学 ７月４日　健康診断受診者1005名の結果の確認（生活指導・経過観察・受診勧奨対象者：９名） 11月10日　健康診断受診者１名、医療機関要受診14名の結果の確認（要指導・要観察対象者：なし） 　　学生健康相談：２名実施 ③健康調査 学生の健康状態を把握する健康調査を実施。身体面、精神面で気になる点がある学生へメール等で連絡し、現状把握及び相談対応を実施。 連絡対象者：157名 学生相談実施者：８名（生産３名、国際５名） ④４種（麻疹・風疹・水痘・流行性耳下腺炎）予防接種 1年生の感染症調査票および健診結果をもとに、4種予防接種の接種歴と抗体価を確認。必要な予防接種の接種勧奨を実施した。 ・勧奨数：生産14名、看護22名、臨床工学18名、国際17名 ・接種者数:生産14名、看護22名、臨床工学18名、国際14名 ⑤新型コロナウイルス感染症対策 ・5類感染症変更（5/8～）後サーモグラフィー体温計を撤去 ・感染状況の把握、報告（5月7日まで：随時関係者報告、5月8日以降：安全衛生委員会にて報告） 　罹患者：122人（内訳：学生103人、職員19人）	4

中期計画	番号	年度計画	所管部署	業務の実績	自己評価
				⑥インフルエンザ予防接種 小松市医師会と委託契約を行い、８医療機関に依頼し実施。（申し込みはMicrosoft Formsを使用） 対象者：全学生、全教職員 接種費用：学生は保護者会費により費用の全額を助成 教職員は大学より費用の一部を助成 実施日：各キャンパスでの集団接種　10/17、11/16、11/29。12/1、12/5、12/6、12/7、12/14 医療機関での個別接種　12/15～12/22 接種状況：学生582名（接種率56%）、教職員106名（接種率81.5%）、計688人（58.8%） 罹患者数：48名（内訳：学生46名、職員２名） ⑦B型肝炎集団予防接種、抗体検査 対象者：保健医療学部1年生83名 医療機関：やわたメディカルセンター健診センター 接種費用：学生自己負担なし（今年度より接種費用を大学全学負担） 予防接種実施日：5月12日、6月9日、10月26日 抗体検査実施日：12月21日（抗体検査結果：全員陽性） ⑧臨床心理士による学生相談 実施日：週4日間(月～木）午後13時～18時 ［令和５年度相談者数］ 前期：新規６名、継続３名、相談再開２名、合計11名（相談回数延べ82回） 後期：新規６名、継続６名、相談再開１名、合計13名（相談回数延べ80回） ⑨「ほけかんだより」の発行 年５回（4月・5月・7月・10月・1月）発行し、学内に掲示。 5月はタバコの害、7月は梅毒・性感染症関について取り上げ、1月は学内で開催されるHPVワクチン接種セミナーについての周知を行う等、学生の健康に関する情報提供や健康保持・増進の啓発を行った。 ⑩研修への参加 ・東海北陸大学保健管理研究集会（静岡県　7月27日、28日）1名参加 ・第1回石川県保健管理担当職研究会（金沢大学　8月30日）１名参加 ・全国大学保健管理研究集会（石川県　10月4・5日）5名参加 ・北陸地区保健管理担当職研究会（富山県　11月8日）2名参加 その他、石川県産業保健総合支援センターのWeb研修に随時参加（5月～１月に26回参加）。	
	Ⅶ-2-3	新型コロナウイルス感染防止対策や予防接種において南加賀保健福祉センターや市内医療機関等との連携強化を推進する。	保健管理センター	【新型コロナウイルス感染症について】 第5類感染症移行（5/9～）後はインフルエンザ感染症と同様の扱いとした。 （出席停止期間：発症した後5日を経過し、かつ、症状が軽快した後1日を経過するまで） 主な対応 ・手指消毒用アルコールおよび環境消毒用クロスの設置・補充等は継続	3

中期計画	番号	年度計画	所管部署	業務の実績	自己評価
②防災・防犯のためのマニュアルを作成し、学生や職員を対象とした啓発や訓練を行う。 ③災害等が発生した場合に適切かつ迅速に対応できる危機管理体制を整備する。	Ⅶ-2-4	各種防災マニュアルに基づき、３キャンパスで計画的に訓練を実施するなど、危機管理のための取組を推進する。あわせて、学生・職員への啓発活動を行う。	総務課	危機管理マニュアルや自衛消防マニュアル、防災備蓄品を随時更新し、リスク管理に努めた。 防災計画に基づき、定期的に訓練・研修を実施した。 ［訓練・研修］ ・6/29　中央キャンパス自衛防災訓練（事務局員対象） ・10/3　粟津キャンパス及び学生寮避難訓練 （教職員・寮生・寮管理人対象） ・11/22　中央キャンパス自衛防災訓練（事務局員対象） ・2/29　末広キャンパス自衛防災訓練（事務局員対象）	4
	Ⅶ-2-5	防災訓練の一環として、安否確認システムの配信訓練を定期的に行い、登録率・応答率の向上を図る。	総務課	安否確認システム「Safetylink24」について、オリエンテーションで学生に周知した。また、昨年に引き続き安否確認システム配信訓練を年２回実施した。 ［安否確認システム配信訓練］ ・4月　オリエンテーションで安否確認システムを学生に周知 ・6/30　第1回安否確認システム配信訓練（1168名） ⇒回答数　828名（70.9%） ・11/28　第2回安否確認システム配信訓練（1168名） ⇒回答数　621名（69.2%） 訓練未回答者に対しては、アプリのインストールを個別に案内し、登録を促進した。 令和5年度は5月と1月に能登半島で震度5以上の地震が発生した。以下はそれぞれの回答実績である。 ・5/5　能登半島地震 配信：学生998名、教職員118名 回答：学生659名（66.0%） 教職員97名（82.2%） ⇒合計756名(67.7%) ・1/1　令和6年能登半島地震 配信：全8回（1/1 5回、1/2 1回、1/3 2回） 回答：全8回平均　学生551名（53.2%） 教職員84名（62.6%）	4
	Ⅶ-2-6	事前研修会や情報提供などにより、学生・職員の海外渡航時の危機管理意識の向上を図り、渡航時の事故や災害に備える。	学生課、国際交流センター、総務課	学生や教職員の海外渡航、留学時における学生管理の在り方を全学的視野から検討し、マニュアル及び緊急連絡網を整備した。 【学生対象危機管理セミナー等の開催】 ・7/12　夏季・秋季海外留学健康セミナー（日本アイラック株式会社主催）学生30名　参加 ・7/26　夏季海外留学健康セミナー（国際交流センター主催）学生30名　参加 ・12/13　春季海外留学健康セミナー（国際交流センター主催）学生21名　参加 ・12/20　春季海外留学危機管理セミナー（国際交流センター主催）学生21名　参加 【教職員対象危機管理訓練の開催】※第2回FD・SD研修 ・12/26　危機管理訓練（日本アイラック株式会社主催） 日本アイラック株式会社　スタッフ2名 教職員21名　参加	4
④個人情報を含む情報セキュリティ対策を講じる。	Ⅶ-2-7	引き続き、個人情報管理や情報ネットワークのセキュリティ等に必要な規定の整備を進める。 また、学内ネットワークの充実を図るとともに、情報セキュリティに関する研修を実施する。	総務課	【情報セキュリティ対策】 ・4月より随時　新規教職員へ情報セキュリティの対策を通知 （各種規程、PC利用、学内ネットワークの接続等） ・4月　ネットワーク機器一式リース契約に基づくサーバ機器リプレース （契約期間：令和5年3月1日～令和10年） 【個人情報管理】 ・個人情報保護法の改正に伴う個人情報保護等に関する規程の策定 ⇒令和6年度上半期中の策定・施行に向けて整備	3

３　法令遵守等に関する目標

(1)　法令遵守及び人権の尊重

中期目標	全ての学生や教職員に対して法令遵守を徹底し、適正な教育研究活動と業務運営を行う。また、人権を尊重し、全ての人がいきいきと活躍できる環境を、ソフト・ハード両面から整備する。

中期計画	番号	年度計画	所管部署	業務の実績	自己評価
３　法令遵守等に関する目標　－　(1)　法令遵守及び人権の尊重					
①すべての学生や職員に対して法令遵守を徹底し、適正な教育研究活動と業務運営を行う。 ②人権を尊重し、すべての人がいきいきと活躍できる環境を、ソフト・ハード両面から整備する。 ③ワークライフバランスに配慮し、誰もが働きやすい職場環境づくりに努める。	Ⅶ-3-1	継続的な啓発活動や研修等を実施し、学生や職員へハラスメントや研究費不正防止、情報セキュリティ、個人情報保護等のコンプライアンスを徹底する。	総務課	［具体的な実施内容］ ・11/29　第1回FD・SD研修 「利益相反を含む研究不正防止」 講師：東京医科歯科大学名誉教授　森田育男氏 参加：教員42名、職員16名 ・12/26　第2回FD・SD研修【Ⅶ-2-6再掲】 「教職員向け海外危機管理セミナー」 講師：日本アイラック株式会社 参加：教員25名、職員19名 ・2/20　第３回FD・SD研修 「危機状態の可能性がある学生への対応」 講師：臨床心理士　坂原泰子氏 参加：教員42名、職員28名	4
	Ⅶ-3-2	業務の量・質を各課内で精査し、担当業務の適正化・平準化を図る。	各課	［具体的な実施内容］ ・課内ミーティングを定期的に実施し、進捗状況、懸案事項などを共有し、業務の適正化・平準化を図った	3
	Ⅶ-3-3	業務改善・合理化に向けた職員の意識改革に取り組み、時間外勤務の削減、年休取得などワークライフバランスの適正化を促進する。	各課	［各課における業務改善］ ・夏季休暇及び年次有給休暇の取得促進を全教職員に通知。 ・年次有給休暇は、所属長や教職員への呼びかけなど全学的に呼びかけ、対象者全員が5日以上の取得を実現。	3
	Ⅶ-3-4	労働安全衛生法その他関係法令等に基づく安全衛生管理について、学内に周知徹底を行い、労働安全衛生に対する理解と意識の向上を図るとともに、薬品の使用等に係る安全衛生について適切に対応する。	安全衛生委員会	昨年度、薬品管理における有機溶剤、特定化学物質の使用に関する学内ルールを整備し、令和5年度より保健管理センターと連携し、所持薬品調査、特殊健康診断、作業環境測定を実施した。 4月　所持薬品調査…有機溶剤、特定化学物質等を使用する教員を調査 9月　作業環境測定（1回目）→第一管理区分（適切） 特殊健康診断（1回目）→有機溶剤及び特定化学物質を使用している教員5名を対象に実施し、いずれも異常なし 2月　作業環境測定（2回目）→第一管理区分（適切） 3月　特殊健康診断（2回目）→有機溶剤及び特定化学物質を使用している教員5名を対象に実施し、いずれも異常なし	4

(2)　内部監査体制の確立

中期目標	内部監査のための体制を整備し、内部監査を適正に実施する。

中期計画	番号	年度計画	所管部署	業務の実績	自己評価
3　法令遵守等に関する目標　－　(2)　内部監査体制の確立					
内部監査のための体制を整備し、内部監査を適正に実施する。	Ⅶ-3-5	業務方法書及び内部監査規程に基づき、内部監査（業務監査・会計監査）を実施する。文部科学省の定めるガイドラインに基づき、公的研究費の適正な運用のための内部監査（通常監査・リスクアプローチ監査）を実施する。	総務課、財務課	「令和4年度監事監査計画」及び「令和4年度内部監査計画」策定を策定し、それらに基づき監査を実施した。内部監査の実施にあたり、総務課員及び財務課員で構成された「監査班」を組織した。 監査の結果、いずれの対象課、対象者も法令等に準拠しており、適正に実施されていることが認められた。 ［監事監査］ 令和5年6月に監事2名が所属する事務所に財務課長並びに総務課長が訪問し、業務実績報告書及び財務諸表等による業務監査及び会計監査を実施した。同月の理事会で監事監査結果の報告が行われた。 ［内部監査］ 監事2名と内部監査の実施について協議を行ったうえで、下記の日程で外部資金内部監査、公的研究費リスクアプローチ監査（旅費に特化）を実施した。 ・11/10　内部監査実施（キャリアサポートセンター、総務課 ） ・12/21　外部資金内部監査実施（公的研究費等） ①通常監査 生産システム科学科　朴亨原　准教授 看護学科　津田裕子　助教 臨床工学科　鈴木郁斗　助教 国際文化交流学科　千葉悠志　准教授 大学院研究科　髙山純一　教授 ⇒いずれも適正に実施されていることを確認 ②リスクアプローチ監査（旅費） 公的研究費より旅費の執行があった全教員 ⇒いずれも適正に実施されていることを確認	4

(3)　環境保全の推進

中期目標	内部監査のための体制を整備し、内部監査を適正に実施する。

中期計画	番号	年度計画	所管部署	業務の実績	自己評価
3　法令遵守等に関する目標　－　(3)　環境保全の推進					
① 大学運営全体を通して環境負荷の低減に努め、省エネルギーに関する取組を推進する。	Ⅶ-3-6	施設設備を点検し、必要に応じて整備更新し、エネルギーの高効率化に努める。	財務課	粟津・末広キャンパスにおいて各種点検を実施し、現状の把握を行っているほか、中央キャンパスでは、各種の法定点検を建物の管理会社が実施している。また、点検結果を踏まえて、整備更新についても随時実施している。 ［点検の内容］ ・消防設備保守点検業務(粟津キャンパス・末広キャンパス) ・エレベーター保守点検業務(粟津キャンパス・末広キャンパス) ・空調機保守点検業務(末広キャンパス) ・合併処理施設維持管理業務(粟津キャンパス) ［整備更新（粟津キャンパス）］ ・110研究実験室電源増設 ・図書室空調機修繕 ・学生寮駐車場出入口修繕 ・111室及び112室電源増設 ・調理室屋上防水修繕 ［整備更新（末広キャンパス）］ ・多目的ホールLEDライト取替 ・A棟駐車場外灯取替	4
	Ⅶ-3-7	３キャンパスにデマンド監視装置を設置し、夏季及び冬季の室温を適切に管理する等、省エネルギーに努める。	財務課	空調や照明の集中管理やタイマー設定等による電力量を意識した管理を実施するとともに、冷房や暖房を使用する時期においては、張り紙等により教職員及び学生に省エネ対策を周知した。 全キャンパスで、デマンド監視装置により室温等電気の使用状況を管理。 特に電力の消費が大きい中央キャンパスでは、管理会社から日々の電力使用状況の報告を定期的に受け、その報告をもとに、建物全体としてのデマンドの削減に努めた。 デマンド監視装置の設定値を超えると見込まれる場合には講義室や事務室の空調設定を変更し、電力消費を抑えるように務めた。 【デマンド実績】※最大値 粟津キャンパス：230kw、末広キャンパス：118kw、中央キャンパス： 246kw	3
	Ⅶ-3-8	会議のオンライン化推進、Microsoft 365等各種アプリを活用したデータ共有などにより、ペーパーレス化を図る。	各課	積極的にMicrosoft社の各種アプリ（Teams、Forms、Sharepoint）を利用し、会議のオンライン化を推進するとともに、アンケートや入力フォームの作成・集計作業の効率化を図った。 会議では事前に紙媒体での資料を希望するかを事前に伺い、必要部数のみを準備し、ペーパーレス化を図った。	3
	Ⅶ-3-9	大学院、学部教育などを通じて、サステイナビリティの意識を学生・教職員で醸成する。	全学	夏休みや春休みなどの長期休暇中は節電対策を目的とした講義室の施錠を実施。 学部教育ではサスティナビリティの理念を取り入れた講義を実施し、様々な視点から持続可能な社会を考察する機会を提供した。 また、大学院教育では専門共通科目「持続可能な社会の科学-SDGs Basic」及び「持続可能な社会への展望-SDGs Advanced」を通じて、サステイナビリティの意識の醸成を図った。	3
② 廃棄物の適正な分別を徹底し、減量化とリサイクルを推進する。	Ⅶ-3-10	職員と学生に対して廃棄物の分別や減量化等の周知を行うとともに、適正な廃棄物処理に向けた取組を行う。	総務課	裏紙の利用促進のほか、オンライン会議や各種アプリの活用により、資料等に用いる紙媒体の削減に努めた。	3

Ⅷ　予算、収支計画及び資金計画

財務諸表及び決算報告書を参照

Ⅸ　短期借入金の限度額

中期計画	番号	年度計画	所管部署	業務の実績	自己評価
1　短期借入金の限度額					
３億円	－	３億円	財務課	なし	—
2　想定される理由					
運営費交付金の受入れ遅延及び事故の発生等により緊急に必要となる対策費として借り入れることが想定される。	－	運営費交付金の受入れ遅延及び事故の発生等により緊急に必要となる対策費として借り入れることが想定される。	財務課	なし	—

Ⅹ　出資等に係る不要財産の処分に関する計画

中期計画	番号	年度計画	所管部署	業務の実績	自己評価
なし	－	なし	財務課	なし	—

ⅩⅠ　重要な財産を譲渡し、又は担保に供する計画

中期計画	番号	年度計画	所管部署	業務の実績	自己評価
なし	－	なし	財務課	なし	—

ⅩⅡ　余剰金の使途

中期計画	番号	年度計画	所管部署	業務の実績	自己評価
決算において剰余金が発生した場合は、教育研究の質の向上並びに組織運営及び施設設備の改善に充てる。	－	決算において剰余金が発生した場合は、教育研究の質の向上並びに組織運営及び施設設備の改善に充てる。	財務課	令和4年度決算において計上した当期総利益の88,929,193円を教育研究の質の向上並びに組織運営及び施設設備の改善に充てるため積み立てた。	3

ⅩⅢ　その他設立団体の規則で定める業務運営に関する事項

中期計画	番号	年度計画	所管部署	業務の実績	自己評価
1　施設及び設備に関する計画					
計画に従い施設及び設備の整備改修等を行う。	－	計画に従い施設及び設備の整備改修等を行う。	財務課	10/11 キャンパス長寿命化計画に伴う大規模修繕工事の概算額を業者に依頼 ・粟津キャンパス　総額 328,000千円 ・末広キャンパス　総額　47,600千円 外壁修繕等大掛かりな改修が必要となるため、予算設定を含め計画を立てていく。また、第２期中期計画期間中に両施設の大規模改修工事が計画されており、目的積立金の状況等の資金の調達状況を鑑みながら実行する。 ・第２期（2026年～2030年）　254,980千円 ・第３期（2031年～2035年）　759,818千円 ・第４期（2036年～2040年）　478,519千円 ・第５期（2041年～2045年）　300,422千円 計　1,794,039千円	4
2　積立金の使途					
教育研究の質の向上並びに組織運営及び施設設備の改善に充てる。	－	教育研究の質の向上並びに組織運営及び施設設備の改善に充てる。	財務課	決算において剰余金が発生した場合は、教育研究の質の向上並びに組織運営及び施設設備の改善に充てる。令和5年度は目的積立金の取崩しは無かった。	―
3　その他法人の業務運営に関し必要な事項					
なし	－	なし	－	なし	―

(4) 指標単位評価

実績及び自己評価結果

【教育指標】

項目		考え方	達成年度	中期計画目標値	R5目標値	実績	備考	自己評価
1	志願倍率	志願者数／募集定員	最終年度	2倍以上	2倍以上	**4.66**	2023年 4.66(一般5.5、推薦2.3) 2024年 4.92(一般5.8、推薦2.2)	a
2	学生の満足度	5段階評価(平均値)	毎年度	3.3	3.3	**4.25**	前期 4.25 後期 4.24	a
3	外国語能力検定試験結果	国際文化交流学部TOEICスコア(4年生平均)	毎年度	600点	600点	**576**		b
4	標準修業年限での卒業者の比率	4年間で卒業した人数／当該年度入学者数	毎年度(完成年度以降)	80%	80%	**88.8%**		a
5	就職希望者の就職率	就職者数／就職希望者数	毎年度(完成年度以降)	90%以上	90%以上	**99.0%**	2024年3月末時点の就職内定率 100%	a
6	国家試験合格率	看護師の合格率	毎年度(完成年度以降)	95%以上	95%以上	**100%**	全国合格率87.8%	s
		保健師の合格率	毎年度(完成年度以降)	95%以上	95%以上	**100%**	全国合格率95.7%	s
		臨床工学技士の合格率	毎年度(完成年度以降)	95%以上	95%以上	**89.6%**	全国合格率79.5%	b
7	市民公開講座開講数	開講テーマ数／年	完成年度以降	10／年	10／年	**12**	市民大学　6 市民公開フォーラム 1 次世代考古学セミナー 3 ものづくり人材ｽｷﾙｱｯﾌﾟﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑ 1 資格取得支援講座 1	a
		教員参画数／年	完成年度以降	20人／年	20人／年	**21人**	市民大学　17 市民公開フォーラム 3 ものづくり人材ｽｷﾙｱｯﾌﾟﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑ 1 資格取得支援講座 0	a
8	市民による施設利用度	市民図書館利用者数／年	毎年度	500人	500人	**0人**	新型コロナウイルス感染防止他のため利用を制限	c
		自習室利用登録者数／年	毎年度	80人	80人	**0人**	新型コロナウイルス感染防止他のため利用を制限	c
		大学施設利用件数／年	毎年度	25件	25件	**205件**	中央 28件 粟津 177件(内運動場148件) 末広 0件	a
9	インターンシップ参加者数	参加者数／年	毎年度(3年目以降)	200人	200人	**196人**	「学外技術体験実習」(生産)81人 「インターンシップ」(国際) 51人 その他(授業外) 64人	b

【研究指標】

項目		考え方	達成年度	中期計画目標値	R5目標値	実績	備考	自己評価
10	学会報告件数	報告件数／年	完成年度以降	100件	100件	**213件**	国内学会　177件 国際学会　36件	a
11	論文・著書数	論文数／年	完成年度以降	70編	70編	**109編**	日本語　30編 英語・その他外国語　79編	a
		英語・その他の外国語論文数／年	完成年度以降	30編	30編	**79編**		a
		著書発表数／年	完成年度以降	5編	5編	**17編**		a
12	共同研究・受託研究数	実施件数／年	完成年度以降	10件	10件	**17件**	共同研究　10件 受託研究　7件	a
13	科学研究費補助金等獲得状況	科学研究費補助金採択件数／年	完成年度以降	15件	15件	**53件**	新規　12件 継続　41件	s
		その他外部研究資金採択件数／年	完成年度以降	5件	5件	**34件**	助成金　26件 奨学寄附　3件 応募型受託研究　5件	a

【国際交流指標】

項目		考え方	達成年度	中期計画目標値	R5目標値	実績	備考	自己評価
14	留学生受入・派遣数	受入人数／年	毎年度 (3年目以降)	10人以上	10人以上	**18人**	短期　5人 長期　7人 大学院留学生　6人	a
		派遣人数／年	毎年度 (3年目以降)	40人以上	40人以上	**40人**	短期　30人(オンライン3人) 長期　10人	a
15	海外大学等との交流協定締結数	協定数(累計)	最終年度	10件	10件	**19件**	大学間　11件 部局間　5件 その他　3件	s
16	国際シンポジウム・セミナー等発表・開催数	発表者数／年	完成年度以降	15人	15人	**37人**	学会発表　36人 招待講演　1人	s
		開催件数(累計)	最終年度	15件	15件	**14件**		b

【地域貢献指標】

項目		考え方	達成年度	中期計画 目標値	R5目標値	実績	備考	自己評価
17	市民公開講座開講数 (再掲)	開講テーマ数／年	完成年度以降	10／年	10／年	**12**	市民大学　6 市民公開フォーラム 1 次世代考古学セミナー 3 ものづくり人材ｽｷﾙｱｯﾌﾟﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑ 1 資格取得支援講座 1	a
		教員参画数／年	完成年度以降	20人／年	20人／年	**21人**	市民大学　17 市民公開フォーラム 3 ものづくり人材ｽｷﾙｱｯﾌﾟﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑ 1 資格取得支援講座 0	a
18	市民による施設利用度 (再掲)	市民図書館利用者数／年	毎年度	500人	500人	**0人**	新型コロナウイルス感染防止他のため利用を制限	c
		自習室利用登録者数／年	毎年度	80人	80人	**0人**	新型コロナウイルス感染防止他のため利用を制限	c
		大学施設利用件数／年	毎年度	25件	25件	**205件**	中央　28件 粟津 177件(内運動場148件) 末広　0件	a
19	連携施設・店舗等の数	累計数	最終年度	50件	50件	**419件**	協力企業等　392団体 ランチ助成券 27店舗	s
20	学生の地域行事等ボランティア件数・人数	件数／年	完成年度以降	20件	20件	**48件**	どんどんまつり　1回 ボランティアサークル　47回	a
		参加人数／年	完成年度以降	100人	100人	**231人**	どんどんまつり　18人 ボランティアサークル延べ 213人	a

【業務運営の改善及び効率化】

項目		考え方	達成年度	中期計画目標値	R5目標値	実績	備考	自己評価
21	業務改善実施件数	件数(累計)	最終年度	40件	40件	**45件**		a
22	FD・SDに関する取組件数	FD・SD活動取組件数／年	毎年度	1件以上	1件以上	**3件**	本学主催　3件	a

【財務内容の改善】

項目		考え方	達成年度	中期計画目標値	R5目標値	実績	備考	自己評価
23	自己収入額	自己収入額／年	毎年度(完成年度以降)	7億円以上	7億円以上	**8.2億円**		a
24	科学研究費補助金等獲得状況(再掲)	科学研究費補助金採択件数／年	完成年度以降	15件	15件	**53件**	新規　12件 継続　41件	s
		その他外部研究資金採択件数／年	完成年度以降	5件	5件	**34件**	助成金　26件 奨学寄附　3件 応募型受託研究　5件	a

４　用語解説

【アドミッション・ポリシー、ＡＰ】

入学者受入れの方針。各大学、学部・学科等の教育理念、ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシーに基づく教育内容等を踏まえ、どのように入学者を受け入れるかを定める基本的な方針であり、受け入れる学生に求める学習成果（「学力の３要素」※についてどのような成果を求めるか）を示すもの。

※（１）知識・技能　（２）思考力・判断力・表現力等の能力　（３）主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度

【カリキュラム・ポリシー、ＣＰ】

教育課程編成・実施の方針。ディプロマ・ポリシーの達成のために、どのような教育課程を編成し、どのような教育内容・方法を実施し、学修成果をどのように評価するのかを定める基本的な方針。

【ディプロマ・ポリシー、ＤＰ】

卒業認定・学位授与の方針。各大学、学部・学科等の教育理念に基づき、どのような力を身に付けた者に卒業を認定し、学位を授与するのかを定める基本的な方針であり、学生の学修成果の目標ともなるもの。

【シラバス】

学生が授業科目の履修を決める際の参考資料や準備学習を進めるために用いられる各授業科目の詳細な授業計画。一般に、授業科目、担当教員名、講義目的、毎回の授業内容、成績評価方法・基準、準備学習のための具体的な指示、教科書・参考文献、履修条件などが記載されている。また、教員相互の授業内容の調整や、学生による授業評価などにも使われる。